

# 「能仁新報」よりみた名古屋の仏教（二）

——明治二十四年一月～明治二十四年十二月——

川 口 高 風

## 凡 例

一、本稿は「能仁新報」に掲載されている現在の名古屋市内にあたる地域の仏教関係の記事を採録した。「能仁新報」（名古屋朝日町五十六番戸 能仁社発行）の原本は東京大学法学部の明治新聞雑誌文庫に所蔵するものを使用した。同文庫には明治二十三年五月十二日発行の第一号より明治三十三年六月二十五日発行の第六四九号まで所蔵するが、明治二十四年六月八日（第五十七号）、六月十五日（第五十八号）、同二十七年九月七日（第三三三号）から同二十八年七月三十日（第三七〇号）、同二十九年十一月十六日（第四三八号）から同三十一年八月三十日（第五五五号）までの発行号数は欠本となっているため、その間の記事はない。

一、第二回は「能仁新報」第三十五号（明治二十四年一月五日）より第八十六号（明治二十四年十二月二十八日）までから採録した。ただし、第五十七号、第五十八号は欠けている。

一、翻刻にあたり仮名使いは原文のままとし、旧漢字は新漢字に、変体仮名はすべて平仮名に改め句読点を付した。なお、記事に付してある漢字のルビは削除し、明らかな誤植は訂正した。

一、記事は掲載年月日順に配列したが、記事中に「当市」とあるのは名古屋市のことである。

## 和同教会の演説〔明治24年1月5日 第三十五号〕

新年の大演説を、来る七日午後六時より杉村久国寺にて開会せらるゝ由。

## 愛知仏教会の理事〔明治24年1月5日 第三十五号〕

水野道秀、伊藤寛典の両師は、俄かに見附地方有志者の招聘に応じて、本日より該地へ赴かる。

## 温知会講義〔明治24年1月5日 第三十五号〕

同会は例の如く、十日には講義を開き亦討論会をも催さると云ふ。

新年法会及演説の概況、予て報導せし一月一日、大光院に執行せられたる羅漢供養会は、参詣最も多く七百余名と見受たりしが、参詣者には供物を配付し、亦福引等の進物を施与せられなり非常の盛会なりき。△二日浄念寺に催されたる仏教会派出演説は、全日午後〇時廿分頃より参聴者続々詰かけ、二時頃は四百余と見受たり。第一席黒田安麿（開会の趣意）、第二太田慈観、第三土方鞆鞆（道德の必要）、第四水野道秀（新年の仏法）、第五黒部莞善（實際の必要）、第六（仏教の来歴）、広間隆門、その他笠間龍跳、伊藤寛典氏交々演壇に登り能弁を振はれたり。△廿三日夜中、市場町仏教会講義堂に於て催したる演説も出席、例の広間、伊藤、水野、土方等の諸氏にて聴者満堂、新年の仏教運動に斯く盛会を報ずるを得るは、読者諸君と共に我が仏教の万歳を観念す

るなり。

## 篤信の老尼〔明治24年1月5日 第三十五号〕

当市の豪商なる森本善七氏の北堂周光尼は、曾て曹洞宗故管長奕堂禪師に帰依し、参禪の法を聴聞せられしことありしか、遂に得度式を受、其の法弟となられ、時後深く仏教を信し、毎月各寺院に行はれし授戒及説教の法席へは、風雨をも厭はず怠りなく参詣せられ、頗る篤信の老尼なりしが、去月中旬より胃弱重症に罹られしとの事なり。

## 山内宗弘氏〔明治24年1月5日 第三十五号〕

全氏は曹洞宗照運寺の元徒弟なりしか明治十二年に全宗大学林へ入り、其の学を卒爾後研究生に挙げられ、各宗の教義を研究し、亦其の業を卒へ目下帰名中なりとの事なり。

## 仏教青年懇話会の景況〔明治24年1月12日 第三十六号〕

去る五日、当市七ツ寺万梅に於きて開きし仏教青年懇話会は、同日午前十時より門前町善篤寺に於て大演説会を開き、数十名の弁士は各々雄弁を奮ひて得意の演説を終り、午後二時より宴を張りしが、先づ七ツ寺の門前には六根色の彩旗を交叉し、境内外には数千の球灯を点し、席上には世尊の尊影を安置し、之に相對したる東面に 陛下の御写真を奉し、席定まるや高橋仙定氏立ちて来会の辱けなきを謝し、次て黒田安麿氏開会の主意を述べられし

が、終つて鳴海青年会員某、次に宮田某、安藤、山田、土方の数氏等の演説ありて盛大なる宴を開きて退会せしは午後六時頃なりしが、当日の来会者は左の如しと云。

高橋仙定	黒田安磨	伊藤栄二郎
黒部堯善	広間隆円	日下部徳兵衛
近藤疎賢	中村颯宗	高橋順庵
福田伝兵衛	小林新三郎	鈴木鏐太郎
片桐孫六	吉川鉄二郎	丹羽如元
中村鉄二郎	虎山義舜	渡辺元令
安藤 儼	土方善照	土方鞆鞆
細井鏡二郎	鬼頭宗誠	伊藤由太郎
高木礼讓	佐久間国之助	早瀬了源
毛受 鼎	松井万作	安井得珠
安部亮真	内山全芳	山本竹三郎
小楠月潭	森 無隠	関 灯心
長橋芳太郎	成田観順	伊奈全馨
雉本宋隣	伊藤慈言	横山証太郎
山田龍太郎	石黒柳太郎	中村鎗太郎
太田助作	伊奈田善助	宮田由太郎
市川吉作	杉山源太郎	古沢鍵治郎
都築種吉	都築定二郎	山田尊照
浅井密成	加藤賢龍	牧野蟻熊
小島颯	近藤一二郎	加藤某

山崎熊龍	青山禪明	橘 成典
鈴木唯之	棚橋半三郎	羽塚慈音
木村藤四郎	天野憲意	中野勘左衛門
高橋駒之助	阿部小兵衛	神谷兼吉
平野大仙	野田弥十郎	田中祖芳
玉田宗運	鈴木徳宗	大崎 某
大田慈幹	伊藤慈眼	武市 某
小友 某	扶桑社員市川	勇猛会某

#### 報恩講〔明治24年1月12日 第三十六号〕

昨十一日より五日間、門前町西別院及び替地町高田別院に於て宗祖大師の報恩講を修行せらる。尚ほ西別院の説教は本多浄嚴師なりと云。

#### 曹洞宗親睦会〔明治24年1月12日 第三十六号〕

過る六日午後一時より宮出町永安寺に於て全宗の有志会散会に就き、将来は一宗協同一致して宗門の隆盛を図らん為め催されし由にて、本社員の全席に列せし者の話に、当日は全寺門前に親睦会場の紅札を掲げ、且つ六金色の旗数流を交叉し、会場は全寺大書院にて参会者は知多、海東、中島、東春日井、西春日井、愛知、海西等各郡より三河地方等各郡よりも惣代員を派出し参会せられたり。着席後会主は祝詞を朗読し、続て有志会本部より解散を報告せし第一義号外の朗読、其の他当支校教師雉本東隣氏祝詞及近

藤疎賢、伊藤寛典、水野道秀氏等交立て席上の演説を成し、一同歓を尽して散会せしは午後六時なりき。

#### 般若心経講義〔明治24年1月12日 第三十六号〕

当市宮出町永安寺に於て、毎月十四日午後一時より笠間龍跳師の派出講義は、久しく全師が各地方巡化中にて休会なりしが弥来る十四日より開講せらると云。

#### 四恩会と温知会〔明治24年1月12日 第三十六号〕

二会共一昨十日は例会日にて、四恩会は午後一時より出席弁士は黒田安麿、伊藤寛典、近藤疎賢、中村甄宗等の諸氏にて参聴百五十余貧民へ施米等もあり。亦全夜六時より開会せし温知会の講義は出席広間隆円、水野道秀、江尻深海、平野允仙、高橋仙丈の諸氏にて最後討論会となり、「宗教伝道は直接と間接と功力如何」と云の題なりしが、各論者は一々発言壇に登り雄弁を振はれしが、全夜は先づ中止して閉会せられしが、参聴は無慮三百余名と見受たり。

#### 刈谷仏教青年会の運動〔明治24年1月12日 第三十六号〕

同会員は同地へ耶蘇宣教師の入り込み布教せしの故を以て一大運動を為し、該教をして容るゝに余地なからしめんとて、名古屋より西川弘情居士を聘して今十二日大演説会を開かるゝ由。

#### 仏教会演説〔明治24年1月12日 第三十六号〕

来る十六日、上宿大谷派興西寺に於て同会の演説を開かるゝに付き、出席せらるゝ弁士は水野道秀、土方軻輶、伊藤由太郎の諸氏なりと云。

#### 仏教勇猛会発会〔明治24年1月12日 第三十六号〕

当市中央部の有志会諸氏の設立なる同会の新年発会を、本日午後三時より七本松牡丹亭にて開かるゝ由なるが、該会は壮年諸士の団体にして専ら仏書の研究を基として自行化他の目的より成立ち居るものなりと。

#### 自由神学布教者ペリン氏と近藤疎賢氏の問答〔明治24年1月19日 第三十七号〕

去る十五日夜、当市本重町新守座に於て演説を開会し大失敗を取りたる神学博士ペリン氏は、曾て当市の諸新聞に自由神学の質問を為さんと欲する者は旅宿に於て許すべし云云との広告に由り、当杉村久国寺住職は去る十五日午前九時より秋琴楼に於きて同氏と問答せし顛末となりて、特に本社に寄せられしかば掲げて以て読者の一覽に供す。

#### 小杉氏の講話〔明治24年1月19日 第三十七号〕

昨十八日、当市中市場町仏教会仮講堂に於て開講せらるべきの処、都合に由り関鍛冶町三丁目菅井孫右衛門氏方にて開講せられ

しが非常なる盛会なりきと。尚同菅井氏は共済会の為め目下専ら尽力せらるる居る由なるが、仏教の為め真に質すべき事なり。

### 軍人説教と法雨協会の演説〔明治24年1月19日 第三十七号〕

昨十八日、当東別院に於きて午前は師団の軍人説教、午後は法雨協会五週年の大演説を開かる。

### 熱田西福寺の婦人会演説〔明治24年1月19日 第三十七号〕

来る廿一日に開会さるゝ同会の演説には、当地より青年会の主唱者黒田安麿氏が出席さるゝ由。

### 講義〔明治24年1月19日 第三十七号〕

本日午後六時より塩町榊原栄蔵氏宅に於て、仏教会の派出講義を開会せらるゝ由にて、出席は広間隆円、水野道秀、笠間龍跳氏等なり。

### 愛知曹洞宗の雲行き〔明治24年1月19日 第三十七号〕

全宗は目下取締改撰期にて、既に各寺院住職へ本月十日迄に投票し、之を支局に進達し、支局は亦之を纏めて本月廿日迄に東京宗務局へ送致するの手續ぎなれば、中原の鹿は未だ其の何人の手に落るやを知るに由なきも、今測候器に依て推考せば、其の雲行きは実に変幻窮りなき異動を示して予想し難し。近頃愛知県には三派を生し笠間派、曰く杉本派、曰く生駒派と、而して其の生駒派

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

の人々は、此頃も当市三新聞か一時に書き立し如く、生駒氏は高德なり碩学なり事務家なり事業家なりとの標準あり。或は外人を投票せば封紙外より顯れ出て、他日眼玉を頂戴してはとの御用心の方もある由、亦笠間派の人々は、全氏は前年取締を勤務せられし事もあり。且つは取締期限を三ヶ年とあれば時々交迭して勤務するは法律の精神なれば、交迭方可然の人も多きが、何分笠間氏は取締事務の如き繁忙なる事は面倒なりとて、既に此頃も本山より山詰執事の内命ありしも辞せられし程の事なれば、迎も就任はせられまじきが、亦杉本派の人々は取締職を老境の人のみに推して当らしむるは、将来繁忙なる宗教社会の得策にあらず。断然全氏を推すべしとて知多、三河、地方非常に熱心の由なるか、何んにしても其の雲行きは随分冬の天候に能く似たりと投書の俚。

### 愛知仏教会講義〔明治24年1月19日 第三十七号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時より

羽翼原人論

講師 笠間龍跳師

### 愛知仏教会講義〔明治24年1月19日 第三十七号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛氏方にて、毎月三の日午後七時始

原人論

講師 伊藤覚典師

三国仏法伝通縁起

## 講師 広間隆円師

## 江崎接航師〔明治24年1月26日 第三十八号〕

同師は曾て当市に住職せられし事もありしが、前年曹洞宗管長の命により対馬国々分寺に住職となられしより絶海の孤島にありて、頻りに宗教の拡張に尽力せられしが、元来同国は全島悉く曹洞一宗にて、大に同宗の為め本山に於ても布教に注意せられしが、特に今回同島に警備隊を置かれし以来、将校の渡島せらるゝもありて、学識徳望共に高き者を要するより師の任命ありしに、客年十二月同宗本山より宗局詰を命ぜられしに、同島民は大に師の徳望を慕ひて在島の義を請願せしも、遂に許可せられざりきと。

## 一切経を寄付せらる〔明治24年1月26日 第三十八号〕

当市の豪商原兵一郎氏は、愛知仏教会の主義を賛成して入会せられしのみならず、曾て秘藏せられし一切経の印本を同会に寄付せられし由。同氏の特志感ずるに余りあり、尚ほ同会には之れを秘藏する方法等の協議中なり。

## 演説に示談〔明治24年1月26日 第三十八号〕

当市大津町光円寺に於きて、毎月二十四日午後一時より演説を開き広く青年有為の人をして仏教の妙理を知らしめ、夜間は法筵を開きて信者を集め一宗の安心を決定せしめんと既に先般来開講せ

られ居りしか、去る廿四日も同様開会せられ、尚ほ爾後は毎月開会せらるゝと云ふ。

## 愛知仏教会講義〔明治24年1月26日 第三十八号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時より羽翼原人論

講師 笠間龍跳師

## 愛知県曹洞宗中学林〔明治24年2月2日 第三十九号〕

勅語謄本奉載式は、廿八日学林監理代岡田玄峰、教授楠成典の二氏は市役所より奉載し来られ、職員及び生徒一同は門内に整列して雷鼓に連れて同林大講堂に奉安し、同宗の法式に由り祝聖即ち今上皇帝の万歳を祝し奉り、監理は賜勅の所以及び訓示諭告等を一統に報告し終りて行茶室に著席して一同へ茶菓の礼を行はれしと云ふ。

## 織田氏の菩提所荒れなんとす〔明治24年2月2日 第三十九号〕

本号に掲げし織田公の真像は、当市裏門前町臨濟宗総見寺寺号は信長公の

法号は内大臣信雄公御父信長公の為に創立ありし名刹にして、一千三百余石の香華料あり。且右府信雄、豊太閣等の諸公の遺墨等

も今に現存せるが、去る年出火の災に罹り、殿堂悉く烏有に皈せし上、寺祿奉還等の為め目下漸く仮堂に諸公の霊牌等を奉安しある位なるを、現住酒井恵遂氏は深く慨歎し、四方の有志と謀り本



堂庫裡を再建せんと企てられしを聞召され、宮内省より若干円と内務省よりは若干の寄贈ありしも、何分容易の事業に非ざれば何れ同寺の寺伝をも本紙に掲ぐべけれど、斯る名刹の荒敗せんは歎はしき至りなり。

### 法園会の演説と新年会〔明治24年2月2日 第三十九号〕

去る廿二日、当市鍋屋町円明寺に於きて定期演説及び新年の宴を挙行されしが、門前には六根色の彩旗を掲げ、境内には数百の球灯を点じ、山形にツルシ書院の広間の正面には、陛下の尊影を奉じ神酒饌物を捧げて会員交々奉拝し畢て、惣員起立して 天皇陛下の万歳を、仏教の万歳を唱へ終て、広間隆円、近藤疎賢、西川弘情、土方鞆鞆の諸氏の演説ありしが、同夜は同会の新年会を催ほし席上数氏の演説等ありたる由なり。

### 熱田通信〔明治24年2月2日 第三十九号〕

愛知仏教会熱田支部会に於ては、去る廿四廿五両日本部より近藤疎賢氏を聘し大演説会を催せり。因に出席支部員には加藤渥寛、安達恵等、浅野提鋤、岩田廓念、神坐榮彦、等の諸氏なりしが参聴頗る多く、最と静肅として時に拍手喝采あり。頗る感動を与へられたり。亦去月以来組織せられたる加藤渥寛、安達恵等其他諸氏の主唱に係る仏教青年会は、破邪顕正外教撲滅を目的として頻りに運動せらるるといふ。△熱田仏教青年会は昨年十二月中旬、横井渥瑞、林泰寛、加藤渥寛、其他両三名の青年諸氏が破邪顕正の

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

主意を以て当地に耶蘇教の跡を絶滅し、熱田神宮の靈地をして永く清域たらんとするの熱心より之が首唱者となり、頻りに奔走尽力して同志を結合し、去月十一日、神戸亀井山に於て始めて懇親の宴を開き相会する者廿余名、互に温話霽然、茲に弥々本会を組織するに決し、直に投票を以て幹事六名を撰定し了て吉田、安達、加藤、神座、平野、浅野等の諸氏各々席上演説祝交朗誦幻燈の余興を添る等、実に盛況を極めて歓喜の中に退散し、更に十六日を以て相談会を催し、本会規約十五ヶ条を評制し、其第一着の運動として十八日午後六時大演説会を開筵し、岡谷、加藤、神座、浅野、安達等の諸氏外両三名各々雄弁を逞して本会の主旨を発表し、尋いて廿三日午後七時、原人論を開講し以後毎三回の講義、一回の演説を以て漸次本会の目的を達するの経緯として一団体を成す者なり。而して衆人の推す所を以て足利渥柔氏を会長とし、坂本三太郎、佐治七三郎、林泰寛、横井渥瑞、安達恵等、平野貞道の六氏幹事たり。講師は平野貞道氏が当分担当する所なり。会員は目今四十余名に達せり。尤も講義は会員外の者と雖も随意に参聴を許すこととせり。

### 大高通信〔明治24年2月2日 第三十九号〕

愛知仏教会大高支部に於ては、過る廿六日全新東昌寺に於て定期演説を開会し、本部より石川穰然、伊藤慈玄の両氏を聘せり、参聴旧年末にては僅かに七十余名なりしが頗る謹聴せられたり。旧春は盛大なる新年会を催すの計画なりと云ふ。

**仏教会派出演説**〔明治24年2月2日 第三十九号〕

過る廿八日、大光院内転愚堂に於て催されたる全演説は、出席水野道秀、伊藤寛典、渡辺玄齡、伊藤慈玄、土方全禅等の諸氏なりしが、参聴凡そ三百余名と見受たりしが、最も静肅として時に拍手起り頗る感情を与へたりき。

**仏教会本部移転**〔明治24年2月2日 第三十九号〕

全会の本部は門前町極楽寺なりしか本日 of 広告欄にもある如く、全処は狭隘にして会務取扱上不都合なればとて、大光院内へ移転せられたり。

**曹洞宗学林**〔明治24年2月2日 第三十九号〕

全宗の学林は小学林中学林の二科にして学生九十余名あり。総監督山崎眠龍、教師橘成典等の諸氏は、同林内の綱紀を厳肅にし頻りに策励に熱心せられしより、大に近來は学生の風紀を整へりとの事は聞及たりしか、過る廿日以来臨時試験を挙行せられたりと云ふ。

**雲英晃耀氏の還暦賀**〔明治24年2月2日 第三十九号〕

因明を以て有名なる真宗大谷派嗣講三河国雲英晃耀師は、本年還暦に当るを以て四方詞客の文詞を募り祝賀の筵を開かるゝよしなるが、寄稿は詩歌画の三種にして縦八寸横六寸二分（曲尺）の鷲さ、又は白紙にして届所は当市皆戸町長徳寺、或は押切三丁目富

田領助の二氏方へ二月十五日までなりと謂ふ。

**愛知仏教会講義**〔明治24年2月2日 第三十九号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時より羽翼原人論

講師 笠間龍跳師

**広告**〔明治24年2月2日 第三十九号〕

当会本部位置二月一日ヨリ門前町大光院へ移転ス

愛知仏教会本部

本会々員募集儀各位の御精力に依り、大に整頓の場合に至り。既に一万余に達せり。猶此の際各位の御精力を得て会員を増殖し、本会の目的とする数種の事業を挙行し、吾が仏教の光輝を中外に発揚せんとす。各位護法の為第一層会員勸募御尽力に相成度候也。

明治廿四年二月一日

愛知仏教会本部

本市各宗御寺院及本会奨励委員御中

**愛知仏教会講義**〔明治24年2月2日 第三十九号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛氏方にて、毎月三の日午後七時始

原人論

講師 伊藤寛典師

三国仏法伝通縁起



講師 広間隆円師

**真徳講**〔明治24年2月9日 第四十号〕

当市真宗大谷派部内に設立したる真徳講は来る廿日、小林町楽運寺に於て開講の式を挙ぐるに付、同派本山よりは御消息の下賜ありたるが、当日は海東郡万須田村速念寺住職にして三等勸令使なる前田学師を聘して説教を開筵し、右消息も拝読致さるゝ由。

**仏教青年会の改名**〔明治24年2月9日 第四十号〕

今度当市に設立せし仏教青年会を仏教青年団と改名致したるは、各地の仏教青年会と紛るゝの恐れあるよりなりと、又全団は来る十一日午後一時より夜に引続き、当市蒲焼町善導寺に於て団員募集演説并に討論を開くと云。

**醍醐教会**〔明治24年2月9日 第四十号〕

本月十五日、当市橋詰町円頓寺に於て、林鳳宣、服部日題、石川穰然、大島通寛外数名にて、午前は法会を修し午後第一時より仏教演説を開会する由。

**寺院の苦情**〔明治24年2月9日 第四十号〕

曹洞宗の寺院に於ては、目下大本山貫主の勇退及有志会の解散等の種々なる出来事のあるにも不拘、十二月以来未だ一回の達書も回らず、然るに東京よりは既に二三回の達書ありしとの事なる

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教(二)

か。当市の支局は達書を如何せられしや云云の投書が編輯局へ舞込まれた。

**末広座演説**〔明治24年2月9日 第四十号〕

此頃中、全座に於て催せし西川弘情居士外数名の演説会は参聴頗る多く、毎日二千余に降らざりしが、就中去る六日の夜は殆んど二千五百余と見受たり。元来仏教演説は無届にて開会する事を得る程の事なるに、近頃は当地各処に開会せる破邪演説には警察官の保護の厚き三四名、或は六七名の警官出張せられ時としては外教を破するに当て治安妨害と認定せられ、往々中止を命ぜらるゝ事ありしが、弁士も亦外教を破斥する余り過激に失するの辺も勘なからざりしが、夫れ此れの為め演説を聞くよりは寧ろ演説を見ると云の傾きにて、毎度ながら盛会なるも警官は殊に注意を加へられ、過る六日の夜会の如きは警部巡查等は二十余名も劇場内に見受たりとの事なるが、宗教の演説は可成政治家の干渉を受けず、亦た居士なりとも宗教家として宗教の演説をするなれば、温厚に着実に正々堂々論理上外教を破斥せらるゝ様望ましき事なりと。

**特別広告**〔明治24年2月9日 第四十号〕

特別広告

愛知仏教会一周記念大演説会

出席弁士 弘中唯見師  
笠間龍跳師

右本月十四十五両日午後一時より開会す、会場は追て報告すべし  
但開会時会前と雖も会員満場の上は入場を謝す

愛知仏教会本部

### 仏教会演説〔明治24年2月9日 第四十号〕

来る十六日午後一時より昼夜、上宿興西寺に於て仏教演説開会、  
出席弁士近藤疎賢、黒田安麿、伊藤寛典の諸氏なり。

### 愛知仏教会講義部〔明治24年2月9日 第四十号〕

全会は中市場町中村嘉兵衛方及本部内転愚堂及鹽町の三所に設置  
し、毎月怠りなく施行せられしか、中市場町講義所の家主中村氏  
は頗る護法愛国の熱心家にして該費用の如き悉皆自弁せらるゝと  
云ふ。亦各処の講義所も一回毎に聴衆増加せしと云、転愚堂に於  
ては近藤疎賢師か已後孝論を講せらるゝ事となりしと云。

### 国風会〔明治24年2月9日 第四十号〕

全会の講筵は来る十一日、若宮の社務所に於て開会する筈なりし  
が、都合にて延期せりと。又同会の国学校は来る十一日、三大祝  
日奉賀の為め同校に於て午前第九時より生徒一同を召集し奉賀式  
を挙行するよし。

### 旧正月の元日〔明治24年2月9日 第四十号〕

当市中の各戸は、門松七五三飾りなどの御儀式はもはや新曆に済  
ませしも、真正の御正月はまたすまぬものにや、二三日前日より  
勢よき餅搗の音は何処もかも響きしが、定て真正の御正月は本日  
ならん。また各劇場及寄席等も本日を以て蓋明けする由なれば、  
近在の若衆が出掛けんには下向も賑かなるべし。

### 西川穆山老師の近状〔明治24年2月9日 第四十号〕

全師は客冬、当市へ授戒会の請に応じて来名せられ、爾後岐阜地  
方へ赴化せられしか、亦過日駿河地方を巡化し一日も閑暇なきと  
の事にて、過る二日、社員水野道秀及伊藤寛典の両氏は三尺坊大  
士参拝の爲め上山し、因に老師を訪問せしに、師は昨夜駿地より  
帰寺せりとして種々懇話せられたりしか、然るに何物の悪戯にや、  
師は既に示寂せられたりと訛伝せしより、両三ヶ所より実否を照  
会せられたりと語られたりしか、師は健全鑢鑢として諤々喋々論  
談し、壮者も及さるの風ありて、此の寒天地に当て東西に赴化せ  
らるゝ、実に感すべきなりと帰社しての物語なりき。

### 関鰲巖老師示寂〔明治24年2月9日 第四十号〕

久しく臨済宗に於て禅学の泰斗と仰かれし当市新出来町徳源寺貫  
主鰲巖禪師は、齡既に古希に達せらるゝも、猶鑢鑢として雲衲及  
居士等を接待せられ怠なかりしか、本年は其の古希に達し示寂の  
期近にあれば、世俗を襲て賀筵を催さんとして、過る一月廿五日に

は会下の僧衆及居士信徒を招き、頗る盛大なる寿筵を開かれ、当日は老師の居士として有名なる井上浮水、水野門水、河村鉄関等の居士は能狂言の余興を催されたる程の事なりしか、本月二日に至り、急に会下の僧衆及居士等を集め化縁の既に尽きたるを告げ、全三日午前五時卅分、全寺の別邸なる瑞応軒に於て結跏趺坐の俛従容として示寂せられたりと。依て過る六日、其の密葬儀を挙行せられたり。(本葬式は二月廿一日に挙行せらるゝと云)今其概況を記さば、全日は前日よりの降雨なりしか、午後二時其の別邸なる車道町瑞応軒より発棺、行列最と静粛として雲衆居士等無慮三百余名と見受たりしに、大導師は拍樹軒潭海老師、鎖龕師は実叢師、(後住候補者)起龕師大坂江国寺主万溟師、其他会葬寺院には濃州虎溪山主毒湛師、江州千手寺主鈞叟師、山城円福寺伽山師、当市総見閑居靈源師、政秀寺主惟三師、海福寺主曹源師等其他全宗諸寺院無慮五十余名と見受たり。亦愛知仏教会本部よりは常務理事水野道秀師が赴吊参列せられたり。亦老師の居士諸師には、何れも黒の安陀衣を掛け最と慇懃に焼香せられたり。了て全寺の墓地に埋葬せられたりき。

#### 村地氏の葬儀〔明治24年2月9日 第四十号〕

当控訴院判事村地正治氏の実父村地成珍君は此の頃流行感冒に罹られしが、俄かに脳症に變じ、遂に七十八年を一期として逝去せらる。過る二日、当市松山町梅屋寺に於てと鄭重なる仏葬儀を修行せられたり。因に会葬せられしは中村控訴院長、岡村全部長、

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教(二)

植崎、山岡等判事数名、其の他、進地方裁判所長及両新の職員一同無慮二百余名と見受たり。因に成高君の辞世なりとて左に、  
なき般は世を空蟬のから衣  
着つゝなりにし其の俛に焼け

#### 温知会講義〔明治24年2月9日 第四十号〕

全会の定期講義は例月の通り、明十日午後六時より東田町宗円寺に於て開会せられ、出席講師には伊藤覚典、広間隆円、水野道秀、黒田安麿等の諸氏なりと云ふ。亦討論会をも催さると云ふ。

#### 四恩会演説〔明治24年2月9日 第四十号〕

全会の演説は、明十日午後二時より例の如く巾下新道町海福寺に於て執行せらる。出席弁士には近藤疎賢、水野道秀、中村甄宗の諸氏なりと云ふ。

#### 当市仏教各団体の懇話会〔明治24年2月9日 第四十号〕

全懇話会は、本月は法園会の当番にて予て広告欄にも掲げし如く、十四日鍋屋町円明寺に於て催さると云が、今回は当四月開設する全国仏教者大会に提出する議案及其の準備等の為め、各会互に協議を要するの件は六七ヶ条もありと云ふ。

#### 法会と説教〔明治24年2月9日 第四十号〕

本日は、古渡町東海寺に於て曹洞宗にて名ある森田悟由老師が大

導師にて大布薩会を修行せらるゝと云。亦松山町安斉院に於て、国家清平祈念の爲め大般若經を転読し、続て説教を修行せらるゝと云ふ。

### 前管長授戒会〔明治24年2月9日 第四十号〕

浄土宗前管長の前智恩院貫主徹定老師は、本月十五日当市白川町光明寺に着せられ、全十六日より全寺に於て授戒会を執行せらるゝと云ふ。全師は各宗高僧の中には最も博学文才に富祐なるの老師なれば、定て信者の授戒するのも亦多かるべし。

### 愛知仏教会講義〔明治24年2月9日 第四十号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時より

羽翼原人論

講師 笠間龍跳師

孝論

講師 近藤疎賢師

### 愛知仏教会講義〔明治24年2月9日 第四十号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛氏方にて、毎月三の日午後七時始

原人論

講師 伊藤寛典師

三国仏法伝通縁起

講師 広間隆円師

### 雑報〔明治24年2月16日 第四十一号〕

○愛知仏教会一週紀念大演説会の概況

一昨十四日より昨日にかけ、両処に催されたる全会一週紀念大演説会の概況を記さば、当日大光院即ち会場門前には、大国旗を交又し、亦中門は六根色の大仏旗を翻し内外最と鄭重に装置せられたり。正午頃より参聴者は続々詰かけ、聴て一時頃には流石に広き大本堂も立錫の余地なき程なり。第一席開会の主意近藤疎賢師、第二席笠間龍跳師、不如三界見於三界と題せる法花經の文を始め、句点字義より説き起し、三界の事相を弁せられし凡夫は、三界の事相に執着し、聖者は三界の理体に通達せらるを論じ、終りに編計依他円成等の三性を弁し、最と緻密に論ぜられしに、満場の聴衆は静粛たり。第三席弘中唯見師余は宗教固有の活動を望と云の題にて、始め宗教運動には固有性の運動と偶有性の運動との二種ある所以を弁じ、近時仏教の運動は偶有性に属せるを以て、将来の仏教は固有性の運動に一変せざるを得ずと論じ、今日固有性の運動を停止せしは、遠く徳川時代に胚胎し、世人は徳川氏は仏教を保護せしと云も今日より見れば、運動を停止し仏教を眠らしめたりと論じ、若し一宗教固有の運動を活動せしなれば、政治家も一步を譲るに到るべしと古例を列挙し、反覆叮嚀師が得意の雄弁を振はれたり、之亦最と静粛たりしも、議論妙処に至る毎に拍手喝采湧が如く頗る感情を与へたりき参聴は無慮一千余名

と見受たり。

### 全十五日概況〔明治24年2月16日 第四十一号〕

全日は会員の便宜を謀り橋詰町慶栄寺に於て開会せられたりしが、第一席伊藤覺典師（愛知仏教会の紀元）第二席林鳳宣師（僧字の解）第三席弘中唯見師（誰が仏教を虚幻なりと云や）。始めに物体は自動体と他動体の二種ありて、人類は自動的物質なれば、精神の活動喚起して宇宙万有の内にながら、其の宇宙万有の外に活動せしめざる可からずと弁し、夫より哲理二学の原則を談して、仏教は此の精神的の活動を喚起するの最大作用ある所以を最と精密に雄弁快活に論述せられたり。本日は参聴満場にて殆んど八百余と見受たり。当日は大谷派大学師吉谷覺寿師に出席を請ひしか、全師は正午十二時の開会なれば出席すると迄申されしも、参聴者の遅き為遂に不果残情の事なりしが、全会全体には非常の盛会にて会員一同も頗る満足の色を呈せられし、閉会せしは午後五時なりき。

### 笠間龍跳師〔明治24年2月16日 第四十一号〕

愛知仏教会の講師にして本社 of 講義部を担当せらるゝ全師の客冬、全宗大本山より執事の内命ありしも聊か脚部の病症の為め辞せられしか、当市各処の講義所及演説場へ腕事に依り怠りなく各処へ巡回せられし事なりしか、本回は亦た東京宗務局よりは宗制改良編纂委員長を命せられ、本月廿八日着京す可旨達せられし由

なる。然かし本社の講義部は公務の余暇、従前の通り其の担当を請ひ置きたれば、次号より原人論の講義を続々掲載致す筈なり。

### 塩町講義会〔明治24年2月16日 第四十一号〕

愛知仏教会にては、例月派出せらるゝ全講義は本月十九日午後六時より全町原兵一郎氏宅に於て、全会の講師笠間龍跳師、広間隆円師か出講せらるゝと云ふ。

### 大高支部会〔明治24年2月16日 第四十二号〕

愛知仏教会の支部なる全会は、本月廿二日夜其の定期演説を挙行せらるゝ由にて、本部よりは近藤疎賢氏外一名派出せらるゝと云ふ。

### 交和会の組織〔明治24年2月16日 第四十一号〕

当市石町三丁目の有志者には、題号の如き仏教主義団体を組織し、毎月十三日に其の定期会を開き仏教及社会に有益なる談話を催さるゝと云ふ。

### 仏教会派出演説〔明治24年2月16日 第四十一号〕

来十八日午後六時より、当市東田町大円寺に於て派出演説を修行せらる由。出席弁士は伊藤覺典、土方鞆鞆、水野道秀、石川穰然の諸氏なりと云。亦上宿興西寺に於ても本日全夜演説を挙行せられ、笠間龍跳師が出席せらるゝと云ふ。

**徳源寺本葬儀**〔明治24年2月16日 第四十一号〕

当市出来町臨濟宗なる全寺密葬は前号に報導せしが、其の本葬儀は弥々廿一日に執行せらる由。翌廿二日には初七日大法会を修せらるゝ予定の由にて、本社へも案内状を送られたれば、参列の上亦次号に其報導を致事と致しましょう。

**広告**〔明治24年2月16日 第四十一号〕

当会本部位置、二月一日ヨリ門前町大光院へ移転ス

愛知仏教会本部

**愛知仏教会講義**〔明治24年2月16日 第四十一号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時より

羽翼原人論

講師 笠間龍跳師

孝論

講師 近藤疎賢師

**愛知仏教会講義**〔明治24年2月16日 第四十一号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛氏方にて、毎月三の日午後七時始

原人論

講師 伊藤寛典師

三国仏法伝通縁起

講師 広間隆円師

**此の期失ふべからず**〔明治24年2月23日 第四十二号〕

来る四月二十日より三日間を期し、全国仏教者の大懇話会を当名古屋に開かれんとす。憶ふに仏教者大懇話会の濫觴は、実に昨年東京に於きて開かれしを以て初めとす。其の当時や、初期の国会將に開かれんとし四民悉く心を議員の撰挙に傾け、政事熱に浮されて又他を顧みるに由なかりき。然るに今や議會開かれ既に其半以上を経過し、紛乱と錯雜の実に世人の予想に出でぬ。而して其解散と閉場は未だトするに事を得ずと雖とも、或は吾人に与ふるに不吉の報を以てせざるなきやと疑ひを杞人と等しくするものさへ多し。若しも国会にして目出度閉場を告げんか、吾人は將に以て次回に呈出すべき我々仏教者の希望多し、若しも不幸にして解散等の事あらんか、吾人は更に第二の撰出者に向つて望み多し。況んや彼れ外教者は増々種々の手段を以て布教の策を講ず。去れは此れ仏教僧侶は倍々之れに匹敵し、以て我が教田を耕し、彼れが妄を破せざるべからざる時なるに非ずや、去れは、内には多望、外には多端、実に寛漫として木魚聲裡に黙々たるべき時に非ず。然るに今や第二回仏教者の大懇話会を日本の中央なる名古屋に開かれんとす。嗚呼何ぞ吾人仏教者に与ふるに好期を得せしむる者ぞ。去れば吾人と其感を同しくする仏教者たらんものは、奮つて以て此の会に出席し、議案を提出し、意見を吐露し以て吾々仏教徒の意思と希望を天下に表白し、与論を振起し以て邪教



撲滅真理顕揚の策を講し、大に遺弟たらん本分を尽し仏祖の恩徳に報ゆると共に大に国家の爲めに斗る所なかるべからず。故に苟も名を仏教の下に掲げたらん各団体の諸氏は、奮つて以て委員を派出せられ、大に吾人と共に斗られん事を請ふ。此の期を失して以て亦た望むべきの時あらざるなり。

#### 智恩院前貫主の御親化〔明治24年2月23日 第四十二号〕

曾て本紙前々号に報導せし全貫主の御親化は、過る十六日より白川町光明寺に於て授戒会を執行せられしが、説教師として三衣專明氏が随行せられ、全御貫主には七十八年の老境に在せらるゝも最と鑢鑢として御教化怠りなく、殊に受戒信者も殆んど七百余名なりしとの事なるが、過る十九日には愛知仏教会理事として社員日下部徳兵衛、伊藤栄二郎、水野道秀の三氏が貫主前へ伺候せしに最と長々の法話を承り、猶仏教会及本社事業に就て全宗末寺院へ充分尽力すべき様申聞す可きなりと、最と懇々の御親話には三氏も非常に感激したりと、猶全御貫主には、名古屋市は三府に亜の大都会なるも仏教の盛大なるは之に勝るなりと仰せられしが、未だ仏教上の事に就ては十分の運動をも成し得ず、実に残念の事なりと帰社しての物語なりき。因に全貫主殿には昨廿二日発車丹羽郡岩倉村誓願寺に於て二日間の布教にて、夫より清須駅正覚寺にて布教せらるゝ予定なりと云ふ。（別項参観）

#### 塩町演説会〔明治24年2月23日 第四十二号〕

去る十九日夜、全所原兵一朗氏宅に於て催せし全会は、前号に講義と報導せしが全町有志者の希望に応じて、俄かに模様替となりし由にて、出席弁士は笠間龍跳、水野道秀、大田元遵、伊藤寛典、近藤疎賢、辻達輪、橋本定仙の諸氏にして、全会は単に全町有志者のみ参聴の筈なりしが殆んど二百余名と見受たりき。△昨廿二日、全所長谷川太兵衛氏宅に於て曹洞宗の碩徳なる白鳥鼎三老師を聘し大般若会を修せられ、社員水野氏も招きに依じて参席したりき。

#### 捧読式及び卒業証書の授与〔明治24年2月23日 第四十二号〕

一昨廿日、当市白川町法雨学会にては勅語捧読式を兼ね卒業授与式を挙行せり。式場には勅語始め文部大臣等の訓示を扁額とし正面に掲げ、午後四時三十分を報ずるや一同整立敬礼。瀬尾教師は忝く勅語及訓示を捧読し併せて聖意を敷衍せり。夫より岡本山羽両教師を始め法雨協会本部より本多氏会員諸子等何れも輒今我国民の徳育の大に腐敗せるに聖慮を悩され、辱くも這回優渥なる勅語の贈本を下賜せられたれば、従来本会の主義として運動し来る所亦聖旨に外ならずと雖、今より洗心革面徳育の上進を促し智育を併行し、所謂文明の良民に恥ぢず聖旨に奉答せん事を誓ふの主意を諄々演説し、尋て山田竹次郎、土岐弥寿松の両会員へ本会英語修了証を山羽教師より授与して、本会より一般会員へ茶菓を供し式典全く終りしは殆ど六時三十分なりき。夫より山羽岡本瀬尾

の三教師法、雨協会よりは本多池田鼻輪の諸氏及会員諸子等にて別席祝宴を開き、席上演説等ありて最と盛大なりしと云ふ。

#### 因明活眼講義〔明治24年2月23日 第四十二号〕

彼の有名なる因明の博士とも称すべき大谷派本願寺一等学師補雲英晃耀師は、曩に日本活論理とも称する新々因明論法を著述せられ、其当時東京日々新聞を初め数十種の新聞雑誌は之が批評を為し大喝采を得られしが、今度は当市皆戸町長徳寺に於て因明活眼の講義を開筵せらるゝとの事なるが、該書は因明の三支立量を活用せしめんとするに付て、一部を十二章段に分ちて大綱要領を示し、尚ほ一個の新作法を基礎として三十三種の過失及び十四過類を解し易からしむん為に、世間熟知の事柄を挙げて一々指示せしものなれば、吾人の因明を活用せんとするには眼目とも称すべき要書なれば、方今種々の議会起るに際し、苟しくも論理法を講ぜんとする人々は、続々参聴されては如何蓋し其得る所少なからざるべし。

#### 知恩院前門主の巡化〔明治24年2月23日 第四十二号〕

去十六日より廿日まで、当市白川町浄土宗鎮西派光明寺に於きて知恩院前門主鸕養徹定師の授戒会を行はれしが、戒弟は七百余名にして日々の参詣は堂外にイむ位の有様なりしが、師は七十八才の高齡にてましますにも関らず、宗法興隆の爲め日々長の勤を行はせられ、殊に去る廿一日は宗祖大師の御忌日なればとて頓写法

要を行はれし際は導師をも務められしが、同日の奏楽中平語は有名なる小松景和氏にして、尚同師授戒中の説教は和州大光寺々住三衣専門なりしと。又師は昨日午前八時出発清洲へ向け巡錫せられしが、来る十一、十二の両日は再び当市来錫の筈なり。

#### 樹心会〔明治24年2月23日 第四十二号〕

当市下茶屋町大谷派普通学校僧生が設立にかゝる同会の一週年紀を、去る廿一日施行せられ演説及び講義等を催されぬ。

#### 徳源寺茶毘式概況〔明治24年2月23日 第四十二号〕

前号に報導せし全葬儀は、予期の如く一昨廿一日に挙行せられたり。今其の概況を記さば、当日は前夜より聊か降雨ありしも早朝より半晴となり、余寒も稍温和にして遠近の参詣者には頗る好都合なりき、偕て会葬者の過半則ち千行列に加るべき人々には、全寺の別邸なる車道町瑞応軒に参集せられ、聴て午後一時より起合龍の誦経あり。夫より出棺となりしが、全所より全寺迄の距離は凡そ五丁余程もありしが、参観の老若男女は其の沿道両側に並列して恰も長堤を築きし如く、殊に出来町通り及全寺門前は頗る混雑を極めしも、警部巡查等数名出張して保護せられたり。亦全寺本堂内の模様は仏殿の正面には大導師関無覚老師、其の左右には奠茶師、大和伽山師、奠湯師虎溪毒湛師、全派管長代理今川貞山師、総監酒井恵遂師を始め、左右両序の役僧及び其の両側の後列には各大本山の使僧、各地寺院の住職等何れも班列正しく着坐せ

られ、而して其の両側共に後部には青竹の手摺を構へ、其の外部を一般参詣者の席に当てられ、亦各宗寺院及奏楽人等は仏殿の両脇に席を設け、亦本堂前面には五十余坪の掛出しを設け中央に靈棺台及高卓其の他左右に供物の机等を並列し、何れも白の覆紗を掛最と清潔に裝飾せられたり。而して其の左右には小師及参随の僧徒、尼僧、居士方を始め故老師に有縁の信徒等の参列席に充て、頗る群集せし会葬者も席次は予定其の宜しきを得て最と静肅として混雜を感じざりき。当日会葬者には管長代理今川貞山氏、西京天龍寺僧堂、全南禪寺僧堂、濃州天猷寺僧堂、全瑞龍僧堂の禪外師、鎌倉円覚寺、筑後梅林寺、奥山方広寺、妙興寺、江州永源寺其の他本県及隣県全宗寺院住職無慮三百余名と見受たり。亦愛知仏教会理事として伊藤寛典及社員水野道秀氏も参席せり。其の他一般会葬者は無慮三千余名に見受たり。猶昨日は其の初七日法会にて社員伊藤栄次朗、日下部徳兵衛が参席、猶無学禪師の法話を得しが次号に録する事とせり。玆に全日今川貞山師か棺前に於て朗読せられし管長より贈られし詞を左に、

故 鰲巖和尚

往昔維新の後、官始て教部省を置き大教院鼎建の際、本宗管長の職に在て我道の既運を挽回し、微笑の色香を保全して今日あらしむる者、実に師の拮据経営の力夥きに居る。其平素輪下の衲子を正案傍提し慧命を継続するに、懇篤なる世の挙て称賛曉識する所たり。更に何をか謂ん哉。今湔焉として法施を他界に戢めらる人天の哀惋は、啻に沙羅双樹間の恩に於るのみならず是に非典の

香資を供具し、聊か師の功德を頌す定中昭々鑑みよ尚饗

明治廿四年二月三日

妙心寺派

管長 蘆 匡道

広告 (明治24年2月23日 第四十二号)

説教 来ル廿五日ヨリ  
廿八日迄四日間

教 弘中唯見師 を聘し開筵す、此  
師 段信徒諸氏に告ぐ

名古屋市門前町

本願寺別院

広告 (明治24年2月23日 第四十二号)

全 第  
国 仏教者二大懇話会  
回

客年四月、東京に於て第一回大会の議決に依り、本年は当名古屋に於て、四月廿日より三日間仏教上時事に緊要なる問題評議の爲め大懇話会を開設す。依て愛国護法有志の僧侶及各仏教団体の會員信徒諸君は勉て御出席相成度候

御出席者は、左の要件御承知相成度候

○各地方より本会へ提出せらるゝ議案は、成べく明了に認め説明書を添へ三月十五日迄に送致の事

○議案編纂及印刷等の都合も有之候条日限後に至り到着の分は原案に編入せず。

但し議案の旨趣大同小異亦是全一事件なれば到着の前後に依て取捨する事あるべし。

○開会日数は大約三日間と予定するも議会の評決に依り伸縮する事あるべし。

○名古屋市に於て御定宿無之御方は極て便利なる旅舎を事務所より紹介すべし。

○右懇話会へ出席の御方は準備の都合も有之候条三月廿日迄に住所姓名を詳記し事務所へ御申込に相成度候会場は追て報告すべし。

○会費として金三十銭到着の際御差出しの事

○右開会中は毎夜大演説会を開き弁士は各地より出席の方に請ふべし

愛知県名古屋市

当番幹事 同盟仏教各会

名古屋市門前町大光院内

事務所 愛知仏教会本部

当会本部位置二月一日ヨリ門前町大光院へ移転ス

愛知仏教会本部

愛知仏教会講義〔明治24年2月23日 第四十二号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛氏方にて、毎月三の日午後七時始

原人論

講師 伊藤覚典師

三国仏法伝通縁起

講師 広間隆円師

愛知仏教会講義〔明治24年2月23日 第四十二号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時より

羽翼原人論

講師 笠間龍跳師

孝論

講師 近藤疎賢師

鰲巖和尚への綸旨〔明治24年3月2日 第四十三号〕

過日長逝せられし当市徳源寺の前住なる同禪師が、曾て本山妙心寺に住職せられ際降し賜ひし綸旨の写は左の如し

妙心寺住持職事所有 勅請也殊専仏法紹降

可奉行 宝祚延長者 天氣如此悉之以状

慶応三年十一月二十日 左中将華押

鰲巖和尚禪室

嗚呼仏法紹隆 宝祚延長是れ吾人の常に称する所又同禪師本葬の際その舞炬師たる全宗前管長関無字師が提唱せられし法語は左の

如しと因に記す。本紙次号には同禪師の肖像及び略伝を掲げん。

伏乞 無学九拝

瑞応大禪師 掩士 法 語

翻転鷲王乳臭縁明投暗合壮皮円同条生也不同死夜壑深移満月船

恭 惟

再住妙心徳源第二世鰲巖和尚大禪師

温而猶勁、簡而能全

受業禪隆 難兄難弟最冠殿後 遊方見性 馬領驢脚独占率先

壯歳起群多福何住古稀豈逝瑞応嚴然

紫海烟霞遠頑 錐存囊裡 々城風月長坐 鑑在機前

蓬来嗽石、霞谷枕泉

曩時結盟 接物称無量際 今日因甚 帶累向鑊頭辺

良久云

禪師云云

分分髓須張綱取脱着空棺莫誑人天

院

**熱田町尾頭雲心寺々伝**（前号に真図を掲ぐ）（明治24年3月2日

第四十三号）

今を去る一百三十余年の昔、当市宮町萱津屋の二代武兵衛氏当時隠居して元真と呼べり。氏に一人の娘ありしが廿四歳を一期として黄泉不帰の客なりしより、不図世の墓なき様を觀じ四国西国を巡拝して無き人の菩提を吊ひ、己が後生の一大事をも定めんと志

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

し、郷里名古屋を出発して西京に上り時の高德獅谷の万無上人に面謁し、聞法の上隨喜の余り剃髪し法号を西岸と給はり、師の戒弟となり普く靈場を参拝し、帰名の後。元文五年二月今の地に獅谷万無上人の靈場法然院を写し奉り、同師を開山と仰ぎ捨世準律不斷念仏の道場を建立しぬ。是れ今の雲心寺の始めなり。後百有余年を経て堂宇悉く灰塵に帰せしが、其頃建中寺の住職立誉上人熱田神宮の托宣により本堂庫裡樓門を建築し、丈六の阿弥陀の尊像を安置せらる。是れ現今の堂宇にして、堀川に添える当時の旧門は左甚五郎が作なりと伝へ、亦境内に支那盧山より移植せし純白の蓮あり。

**講師の上京**（明治24年3月2日 第四十三号）

愛知仏教会講師筈間龍跳師は全宗の宗規編纂委員長任せられ、上京せらるゝ事は既に報導せしか。全師は全宗管長の授戒会を隨喜の上、本月十日発途せらるゝ由にて本社員及愛知仏教会理事の諸氏には、全九日秋琴楼に於て送別の会を催す計画なりと云ふ。

**転愚堂演説概況**（明治24年3月2日 第四十三号）

一昨廿八日、愛知仏教会本部内大転愚堂の演説は参聴凡そ二百余名にて、伊藤覚典、水野道秀、近藤疎賢の諸氏出席至極静肅なる演説にて頗る感情を与へしと云。尚近頃は仏教演説にも夥多の警官臨場あらせられしが、当夜は更に警官の臨場を見受けさりし。



## 各地演説の概況〔明治24年3月2日 第四十三号〕

東春日井郡如意村の仏教有志者には過る二十二日、愛知仏教会の講師笠間龍跳師を聘し、全村岳桂院に於て般若心經の講義会を催されし由なりしが、将来は毎月一回宛開会せらるゝ事となり、目下熱心家は計画中なりと云ふ。△荻谷仏教青年会は全二十二日仏教演説を催し、弁士には萩倉耕造、成田某等にて参聴頗る多く不相変の盛会なりし由。△西郡鳥ヶ地新田に於ても、過る二十五日全所弥勒寺の住職萩泉智範氏の發起にて、笠間龍跳師を聘し演説会を催されたりしに、是れ又盛会なりと聞く△当市大津町光円寺に於て催されたる二十四日講の演説は、その名称の如く過る二十四日午後一時より開会せられたりしか、弁士は大田元遵、伊藤寛典の両師にして、了て黒田老師の説教をも執行せられ、参聴は二百余名なりき。△当市東田町大円寺に於て開会せられし去る二十六日の愛知仏教会の派出演説会の弁士近藤疎賢、広間隆円、黒田安麿等の諸師出席せられぬ。

## 曹洞宗大本山管主の御親化〔明治24年3月2日 第四十三号〕

全宗能大本山貫主法雲普蓋大禪師畔上樸仙師には当市裏門前町万松寺の請に應じて、来る三日より授戒会を執行せらるゝ由にて、弥本日正午十二時廿二分の列車にて着名せらる由にて、既に全寺よりは全宗寺院檀方惣代諸氏へ夫々笹島地方へ出迎すべき旨通知書を發せられしと云ば、定て笹島地方は賑合ならん。亦全大禪師には、当市にて授戒会を執行せらるゝは最初の事なれば定て受戒

者も夥多なるべし。

## 五女子村青年仏教会〔明治24年3月2日 第四十三号〕

一昨二十八日開会せられし同演説会には、名和大鳳師外数名出席せられ、聴衆は無慮五百余名にして同地未曾有の盛会なりきと。尚同会は皮相上の外見を脱し、専ら青年をして宗教心を發揮し徳義を重せんとする着実なる団体の由なれば、何れの団体も斯くあり度ものなりと世の青年諸氏に望む俚斯くは。

## 仏像自然に現はる〔明治24年3月2日 第四十三号〕

当市下園町学校向なる印板業某方の仏壇中へ、去る廿二日一体の仏像光明赫々として出現しませし由、態々本社を来訪せられて話されし物語を聞くに、同日午前八時頃仏壇内御本尊の傍に安置しある御名号の側に御丈け八寸斗りなる阿弥陀如来の尊像輪御光赫々として出現しましたが、難有く感涙に咽ひて礼拝せしが稍暫くして尚同尊像のあり／＼と失せ玉はざりしは如何にも希有の事柄なり云云と。因に記す過日の開明新報にも同様木像の尊像より華を生ぜし記事ありしが、暫く記して江湖の諸君に質す。

## 熱田通信〔明治24年3月2日 第四十三号〕

来る四日午後一時より熱田町栄立寺に於て清正公の祭典を施行し、終て石川穰然、水野永遠等の諸氏演説及び説教を開かるゝ予定の由云云。



広告〔明治24年3月2日 第四十三号〕

全 第  
国 仏教者二大懇話会  
回

客年四月東京に於て第一回大会の議決に依り本年は当名古屋市中に於て四月廿日より三日間仏教上時事に緊要なる問題評議の爲め大懇話会を開設す依て愛國護法有志の僧侶及各仏教団体の會員信徒諸君は勉て御出席相成度候

御出席者は左の要件御承知相成度候

○各地方より本会へ提出せらるゝ議案は成べく明了に認め説明書を添へ三月三十日迄に送致の事

○議案編纂及印刷等の都合も有之候条日限後に至り到着の分は原案に編入せず

但し議案の旨趣大同小異亦是全一事件なれば到着の前後に依り取捨する事あるべし

○開会日数は大約三日間と予定するも議会の評決に依り伸縮する事あるべし

○名古屋市中に於て御定宿無之御方は極て便利なる旅舎を事務所より紹介すべし

○右懇話会へ出席の御方は準備の都合も有之候条三月廿日迄に御住所姓名を詳記し事務所へ御申込に相成度候会場は迫て報告すべし

○会費として金三十錢御到着の際御差出しの事

○右開会中は毎夜大演説会を開き弁士は各地より出席の方に請

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

ふべし

愛知県名古屋市

当番幹事 同盟仏教各会

名古屋市中門前町大光院内

事務所 愛知仏教会本部

愛知仏教会講義〔明治24年3月2日 第四十三号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛氏方にて、毎月一、二、三、の三日間午後七時始

原 人 論

講師 伊藤覚典師

三国仏法伝通縁起

講師 広間隆円師

愛知仏教会講義〔明治24年3月2日 第四十三号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時より

羽翼原人論

講師 笠間龍跳師

孝 論

講師 近藤疎賢師

米商会所の法会〔明治24年3月9日 第四十四号〕

全会所有志者には昨八日裏門前町万松寺授戒会道場に就き、全会

商業繁昌の祈念大般若会を修し、続けて全会所故役員伊藤忠左衛門氏の追吊大法会を催されしか、全日は曹洞宗管長畔上大禪師の大導師にて大施餓鬼会を修せられ、全会所仲間商七十余員も其法席に参詣せられ、何れも誦経了て最と静肅として焼香せられ、最後に榊原栄蔵氏は祭文を朗読せられたり。終て八千久楼の新築にて最と閑清なる昼食を催され、午後一時頃夫々帰途に就れしか、全日は急報社よりは万松寺法席へ立派なる生花の奉納もあり。亦全寺の本堂前には大なる角塔婆を建設せられしか、其の銘は当日の大導師なる畔上大禪師の作にて左に

就尸羅場修甘露法門偈曰 誠哉宝戒可憐生

龜岳山頭弟与兄 月靈灑清看自性 今身即得

毘尼城

全日発起の重なる人々は村瀬庫次、長谷川、山本、大野、榊原、京、伊藤、渡辺、高橋、小林、石塚、近藤等の諸氏なりと云。弊社よりは全法会には水野道秀氏出席したりき、亦故伊藤忠左衛門氏の法名は誠忠院重願道誓居士と云由、全氏は生前当市公共の事業に頗る尽力せられしが、北海道札幌に於ても北海銀行にて全氏の為に大法会を修せられしと云。

#### 雲英光耀師〔明治24年3月9日 第四十四号〕

因明を以て有名なる同師には、去る二十六日より五日まで当市皆戸町長徳寺に於て同講筵を開かれしに、当師団の奥村大尉、水島中尉等も来聴せられ、他宗の僧侶多く来聴せし由にて、尚ほ去る

六日七日は押切町養照寺に於て同様開筵せられしに、何れも聴者堂に満ちたりと云。

#### 瑞応老大師略伝〔明治24年3月9日 第四十四号〕

師諱は道関、字は鰲巖軒号を瑞応と称す。本州熱田伊藤氏の子なり。天性聡敏幼より出塵の志操を抱き、歳十才に至り飯田町禅隆寺に於て祝髪受戒す。一日書中前境の荒田誰が主と為ると云句を見て疑団氷消せず。年十有六才にし始めて錫を熊本見性寺に掛け後ち、故省へ贈る詩を賦して曰（訪道尋師出故山一朝飛錫透金関苦来法戦城中客禅若不成終不還）霜辛雪苦古則に秀得すること十有八年の大事了畢の後ち、豊後多福に住し転職の際元白杵藩主稲葉伊予守殿より金百円を賜はり、年過ぎ本山妙心寺に於て改衣執行の時日、同藩主金一百五十円を給せられ多福聖胎長養せらるゝこと廿余年なり。元治元年蘇山神機妙用禅師の遺命を以て、遂に來て浪越徳源寺の住職に重任し、師に代て専ら学生の接待に従事す。四方其の徳を慕て錫を引く者陸續、随て官吏紳士の往来も亦日に盛なり。明治余年京都本山妙心寺住持の責任を帯ひ、同五年維新革命、官始て教部省を設置せられ大教院鼎建の際、本宗管長の職に権与し大教正の命を受け宗風を振起す。是即ち管長の嚆矢と謂つべし。且つ師は常に雄弁を振はず。点然として白眼に世上の人を見得する眼を具して群倫を度すること夥し。是れ能く人の知る処なり。于時全国派内の諸寺院より拝請を受け江湖会を営みたる其の数は挙て数ふべからず。同二十年春期諸国の諸老宿及四

方の雲衲八百余名を懇請し末後の勝会を営む。序で信徒の為に授戒会を設け、戒徒千四百余名あり。其の盛大なることは言べからず。同二十三年冬毎歳の臘八大接心を修するの日、伊藤玄機、水野門水、井上浮水、河村鉄関、矢野宗雄の各居士等に命じて古稀の賀を促し、此時師自ら謂て曰賀を修し了らば朝に死すとも可也。所謂る七日以前予じめ死の到るを知ると恐べし。夫より十日を経て師の威儀尋常ならず。本年二月三日は嗚呼如何なる日ぞ、午前五時四大分離の大相を示さんが為め男女信徒を招集し、師も同じく端坐して自ら四句の誓願を唱ふる俛溘然として入寂せられ、此に於て乎医師村瀬氏終焉の検視を成して、過る二月六日徳源精舎に葬むると爾云。

#### 光明寺法主来名〔明治24年3月9日 第四十四号〕

兼て記載せし当市門前町浄土宗極樂寺宗務支院に於て、来る十日より十六日まで授戒会を執行され、戒師西山派総本山京都粟生光明寺法主には十日正午十二時笹島着の汽車にて来名に付、当市信徒有志者数千名は該所迄出迎かはるゝ由。

#### 畔上大禪師の授戒会〔明治24年3月9日 第四十四号〕

当市裏門前町万松寺に於て執行中なりし全授戒会は、弥々本日を以て其の完戒日なるよし。受戒信者も殊に多く四衆凡そ七百余名にて流石に広き本堂も立錫の地なく、加ふるに日々の参詣者も亦夥く為に、毎日内外共に非常の賑ひなりき。亦全大禪師には完戒

上堂の後は直ちに当市呉服町久松丈助方へ赴むかせられ、全家に御一泊の筈なりと云。

#### 四恩会演説〔明治24年3月9日 第四十四号〕

全会は来る十日、其の本部なる巾下新道町海福寺に於て定期演説を催さるゝ由にて、出席弁士は伊藤寛典、中村頼宗、近藤疎賢の諸師なりと云ふ。

#### 善光寺参詣〔明治24年3月9日 第四十四号〕

当市七ツ寺境内善光寺堂講中には、毎年五月一日出立して善光寺へ参詣せらるゝ由なるか、本年も五月一日を期して出立する由、殊に本年は大本山善光寺より御分身の一光三尊仏を贈らるゝ由にて、其の御分身御迎ひ旁々講中の信徒男女は一層勇みて参詣せらるゝといふ。

#### 曹洞宗管長の着名〔明治24年3月9日 第四十四号〕

去る二日、浜松第二列車にて当地万松寺へ安着せられし同宗能山管長畔上梅仙師には、停車場前有隣亭に於いて小憩後、馬車にて同寺へ到着せらる。尚当日の奉迎者には愛知仏教会員及び同宗の緇素数十名なりしと。又同師の随行長は兼て麻蒔舌溪氏の由記載せしが、同氏は俄かに九州地方へ巡回せられしを以て大湊泰嶺氏が長に、石月無外氏が次長として来名せられぬ。尚其の翌々四日に弊社員及び愛知仏教会の理事は同師を伺ひ主意書等を進呈せし

に、最と丁重なる挨拶の上将来末派寺院として尽力せしむる旨懇話されぬ。

### 臨済宗取締改撰の期〔明治24年3月9日 第四十四号〕

当市臨済宗取締酒井恵遂氏は現任同宗取締なるが、今回改撰の期に際会せしを以て、同師は後任者に其職を譲与せんと欲せらるゝも、同宗の各寺院は勿論其他の仏教者中には尚ほ同氏の再勤あらん事を懇願して止まざると云。

### 広告〔明治24年3月9日 第四十四号〕

全 第  
国 仏教者二大懇話会  
回

客年四月東京に於て第一回大会の議決に依り本年は当名古屋市中に於て四月廿日より三日間仏教上時事に緊要なる問題評議の爲め大懇話会を開設す依て愛国護法有志の僧侶及各仏教団体の会員信徒諸君は勉て御出席相成度候

御出席者は左の要件御承知相成度候

○各地方より本会へ提出せらるゝ議案は成べく明了に認め説明書を添へ三月三十日迄に送致の事

○議案編纂及印刷等の都合も有之候条日限後に至り到着の分は原案に編入せず

但し議案の旨趣大同小異亦是全一事件なれば到着の前後に依り取捨する事あるべし

○開会日数は大約三日間と予定するも議会の評決に依り伸縮する事あるべし

○名古屋市中に於て御定宿無之御方は極めて便利なる旅舎を事務所より紹介すべし

○右懇話会へ出席の御方は準備の都合も有之候条三月廿日迄に御住所姓名を詳記し事務所へ御申込に相成度候会場は追て報告すべし

○会費として金三十銭御到着の際御差出しの事

○右開会中は毎夜大演説会を開き弁士は各地より出席の方に請ふべし

愛知県名古屋市

当番幹事 同盟仏教各位

名古屋市中門前町大光院内

事務所 愛知仏教会本部

当会本部位置二月一日ヨリ門前町大光院へ移転ス

愛知仏教会本部

### 愛知仏教会講義〔明治24年3月9日 第四十四号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛氏方にて、毎月、一、二、三、の三日間午後七時始

原人論

講師 伊藤覚典師

三国仏法伝通縁起

講師 広間隆円師

愛知仏教会講義〔明治24年3月9日 第四十四号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時より

羽翼原人論

講師 笠間龍跳師

孝論

講師 近藤疎賢師

大光院略伝〔明治24年3月16日 第四十五号〕

当院は当市門前町に在りて曹洞宗の大地なり。今当寺に伝はる記録に依りて些か寺伝を記さんに、当院開基は慶長の始め從三位中将忠吉君清洲在城の時、雲門寺といへる廃寺の跡に此寺を建立し、旧名雲門を以て寺号とし明嶺和尚を請じて開山となし玉へり。忠吉公は東照神君第四の子にして天正八年浜松に生る。松平甚太郎家忠の猶子となる故に幼名を甚太郎と云ふ。文禄元年壬辰春二月十九日武州忍が城に守たり下野守に任ず。此時、江州沢山の城主石田三成浮田毛利佐竹等と謀つて反す家康公親から之を征し玉ふ。公も亦三軍に従ふ。両軍共に美濃の関ヶ原に会ふ。家康公軍を分つて三つとなし福島正則先鋒たり、井伊直政中軍にあり、後軍は即ち公なり。早く敵の強弱を慮つて、密かに直政と俱に突出して戦ふ当るところ敵なし其功衆に勝ぐ。家康公其雄略を

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

感じて特に優賞を加へ玉ひぬ。実に慶長五年秋九月なり。時に公二十有一神君公を尾州四十余万石に封し玉ふ。侍従に進み薩摩守に任ず。茲に於て清洲城に移り從三位左近中将に進む。公時に年廿有六なり。慶長十二年春三月故あつて江戸芝の邸に薨し玉ふ時に二十有八なり。初め公の忍城に居す。時々駕を成田に枉て、禪に龍淵叱澗和尚に参ず。後ち治を清洲に従すに及んで、同師を清洲に請ず。時に茲に無住の寺あり。因て武州忍より三寺を移す。長久寺、正覚寺、清善寺なり。正覚を改めて性高院と号し、清善寺を大光院に請す。大光院は豊臣秀吉の家弟大和納言追福の爲め秀吉の創建するところなり。後ち廃して雲門寺と名つく。唯朽壊せる伽藍のみ存す。公大に修繕を加へて叱澗和尚を住せしむ。後ち叱澗和尚武州に帰り、明嶺和尚代つて寺を續ぐ。公の西征し玉ふや叱澗和尚をして出師の日を扱ばしむ。和尚四の凶日を述べ、且つ爲めに直鉾の二大字を書して旗号をなし、以て軍に進ましむ。後公明嶺和尚の房に就ひて之が故を尋ね玉ふに、明嶺和尚判して曰く士たるもの一たび戦場に出る時は身を惜むことを爲さずして国の爲に毫も命を顧ず。以て敵に臨み三軍兵を交るの時と雖も奮然として進み、戎馬の間に死すると雖も以て大計を後になし、大功を前に顯んと欲する者に非ずんば何ぞ勇士と云はん。是乃ち凶を以て彼に帰せしめ、以て之が大功を成すの謂か。盖し不祥を祥と爲し、不吉を吉と爲す。所以か公聞て善しとなすと。公又明嶺和尚に法名を請ふ。師籌山宗勝と号すべしと。答ふ盖し籌を帷幄の中に運し、勝を千里の外に決すと云ふ義に取れり。当



時寺号を清善と云ふ故に、朱印にも清善とあり。後大光の旧名に復す故に、公の薨するや大光院殿壽山宗勝大居士と称す。後ち敬公の名古屋に城て遷り玉ふや、猶を日置村に賜ふて寺を移す。今の境内即ち是なり。寺号を日置山大光院と云ふ。後山号を興国山と云ふ。旧号に復す。尚ほ是れ洩れたる事あるも煩を恐れて記さす。

#### 安斉院の観音懺悔〔明治24年3月16日 第四十五号〕

来る十七日より同院に於て同会を行はるゝ由。

#### 法園会講義〔明治24年3月16日 第四十五号〕

全会は来る十八日、鍋屋町円明寺に於て午後六時より催さるゝ由。講師は広間隆円師（八宗綱要）近藤疎賢師（孝論）等にて、爾後毎月八日、十八日の両日開講せらるゝと云ふ。

#### 四恩会〔明治24年3月16日 第四十五号〕

当市中下新道辺の仏教熱心家の組織せる四恩会演説は、連月海福寺に於て興行せらるゝ定例なるが、去る十日は同町浄土宗宝周寺にて近藤疎賢、伊藤覚典、中村甄宗の三氏出席の上演説、続いて貧民へ施米数名ありしと。因に全寺は当市の伊藤、関戸両家の菩提寺にして、営繕等は能く行届き、且つ住職も今回より毎々演説をも営み、且爾来は一層仏教会の爲め会員募集に尽力すべしと話されし由。

#### 松山大僧正の授戒〔明治24年3月16日 第四十五号〕

浄土宗西山派総本山なる京都粟生光明寺松山円瑞大僧正は、当名古屋市門前町同派支庁極楽寺に於て本月十日より十六日まで一週間の授戒に臨錫せられ目下其法要中なり。其概略は同派寺院檀信徒の組織せる布教講の發起にて其招に応じ、去る十日笹島停車場へ午前十一時十四分に着せられ、同派寺院及び各檀信徒の歓迎にて順誘整々、極楽寺へ安着あらせられしが、目下戒を受くる信者殆んど七百名に及へり。右法要中の説教師は美濃国立政寺清水中僧正、戒師大僧正随行は権中僧都高橋沾瑠氏と外兩名にて、帰京は十六日午前たるよし。目下宗教振起の爲め各宗本山方も西奔東走布教に尽力せらるゝも、就中右松山大僧正には昨十一月より福岡大分山口の三県下寺院信徒の招に応じ、本年三月廿七日に漸く帰山。又た当地へ飛錫、猶来四月一日より復京都本山にて一周間授戒の大法要を修せらるゝと云。

#### 笠間龍跳師〔明治24年3月16日 第四十五号〕

全師は過日、曹洞宗務局より全宗の宗制改正編纂委員長を命ぜられし事は既に報導せしか、弥昨十五日終列車にて東上せられたり。亦全師の送別会として過る九日、秋琴楼に於て催したる席上には仏教会理事及び本社員等潔齊にて最も静肅たる宴席なりき。

#### 授戒会〔明治24年3月16日 第四十五号〕

当市松山町曹洞宗安斉院住職野々部至遊氏は頗る布教興学の熱心



家にして、既に前年より多数の僧侶を集て修学を策励され、殊に客年よりは全宗の私立小学林を設立し、亦全寺及庫裡をも客年中に新築せられしか、夫れ等を祝する為め来る四月廿一日より授戒会を執行せられ、大に緇素の二流を化導せらるゝと云ふ。

#### 仏教演説〔明治24年3月16日 第四十五号〕

明十六日午後一時より巾下興西寺に於て、近藤疎賢、水野道秀、伊藤慈眼氏等は演説仏教会の派出演説を、来る廿一日より彼岸中正福寺に於て大施餓鬼を修行し、続て伊藤覚典氏は説教を行はるゝ由。

#### 長谷川氏宅の法要〔明治24年3月16日 第四十五号〕

来る十八日午後には当船入町の同氏宅へ加賀天徳寺の森田悟由禅師を招待し、同氏が亡母の追善を営まるゝに付き、仏教会員にも招待を受けられし方ありと云。

#### 仏教各団体の懇話会〔明治24年3月16日 第四十五号〕

当市和同協会が会主にて、一昨十四日午後一時より全会本部清水町久国寺に於て催されしか時刻より各団体の代表者も続々参会せられて、時事要件四五件も懇話せしが中には全国仏教者大会の準備件もあり。亦既に秋田県、長崎県等の団体等より照会せし書類等多分ありて、夫々報告を了り散会せしは午後四時なりき。因に出席せし人員は左に、

唱道義会員桜木利太郎 温知会員松井万作宮橋勝次郎 法園会員小林新三郎佐藤半兵衛 顕正会員大脇吉兵衛水野亀太郎 紹隆会員日下部徳兵衛 和同教会員伝泰賢、近内靈瑞、近藤疎賢、高橋有貞、矢野善九郎、谷吉次郎、丹羽慎三郎、外山鎌吉

#### 鳴海通信〔明治24年3月16日 第四十五号〕

去る六日、当駅大心進徳会に於て催したる仏教大演説会は出席弁士比達倫、小杉陶蔵、近藤疎賢等の諸氏にして参聴最も多く場外に溢れたり。当日は榊原重義、梶川初蔵氏は頗る斡旋し亦た青年会員には浅井、牧野、近藤、佐藤、小笠原、伊蔵、樋口、市田、山口、安藤等諸氏は非常に尽力せしか将来は一層同地仏教の爲めに尽すの計画なりと云ふ。

#### 広告〔明治24年3月16日 第四十五号〕

全 第  
国 仏教者二大懇話会  
回

客年四月東京に於て第一回大会の議決に依り本年は当名古屋市中に於て四月廿日より三日間仏教上時事に緊要なる問題評議の爲め大懇話会を開設す依て愛国護法有志の僧侶及各仏教団体の会員信徒諸君は勉て御出席相成度候

御出席者は左の要件御承知相成度候

○各地方より本会へ提出せらるゝ議案は成べく明了に認め説明書を添へ三月三十日迄に送致の事

○議案編纂及印刷等の都合も有之候条日限後に至り到着の分は  
原案に編入せず

但し議案の旨趣大同小異亦是全一事件なれば到着の前後に  
依り取捨する事あるべし

○開会日数は大約三日間と予定するも議会の評決に依り伸縮す  
る事あるべし

○名古屋市に於て御定宿無之御方は極て便利なる旅舎を事務所  
より紹介すべし

○右懇話会へ出席の御方は準備の都合も有之候条三月廿日迄に  
御住所姓名を詳記し事務所へ御申込に相成度候会場は追て報  
告すべし

○会費として金三十錢御到着の際御差出しの事

○右開会中は毎夜大演説会を開き弁士は各地より出席の方に請  
ふべし

愛知県名古屋市

当番幹事 同盟仏教各位

名古屋市門前町大光院内

事務所 愛知仏教会本部

### 愛知仏教会講義〔明治24年3月16日 第四十五号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛氏方にて、毎月一、二、三、の三日間  
午後七時始

原 人 論

講師 伊藤覚典師

三国仏法伝通縁起

講師 広間隆円師

### 愛知仏教会講義〔明治24年3月16日 第四十五号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時よ  
り

羽翼原人論

講師 笠間龍跳師

孝 論

講師 近藤疎賢師

### 仏教会巡回演説の概景〔明治24年3月23日 第四十六号〕

去る十六日午後一時より上宿支部の演説会は折悪敷、昼間は弁士  
近藤疎賢、伊藤慈眼の両氏、臨時支店の為め出席なきを以て満堂  
の聴衆激昂の様子なりしかば、会主は参聴人に対し弁士不参の理  
由を丁寧に謝辞せられ、夜に入ては例刻より近藤疎賢、伊藤覚典  
の両氏交も登壇し、熱心に仏教の真理を縷々弁せられしを以て参  
聴人も大に満足して帰宅せられし由。亦去る十八日夜、当市小船  
町長谷川太兵衛氏宅に於て仏教演説開会せしが、時未だ到らざる  
に聴衆は全宅に充滿して余地なかりければ、定刻前に水野道秀、  
広間隆円、日下部徳兵衛、伊藤覚典の諸氏登壇して各々熱心に仏  
教の教理と応用とを弁せられたれば、聴衆は甚だ満足の様子なり

き。終て会主長谷川太兵衛氏は弁士及び参聴人数名を丁寧に饗応せられしと云ふ。

#### 仏教会演説〔明治24年3月23日 第四十六号〕

来る廿五日午後二時より十一時迄、当市南奥田町西念寺に於て仏教演説開会、出席弁士は真宗本派より広間隆円、日蓮宗より吉野法英、原洋円、田中栄盛、曹洞宗より水野道秀、伊藤寛典の諸氏なるが、将来は毎月一回づゝ全寺にて開会し、往々は仏教会の支部を設置する見込なりと。

#### 愛知育兒院育兒へ十念並寄付〔明治24年3月23日 第四十六号〕

浄土宗西山派総本山京都粟生光明寺松山円瑞大僧正は名古屋市門前町同派支院極樂寺に於て、本月十日より授戒に臨錫せられたるに、去る十六日午前、育兒参拝したるに礼儀式の前同寺の書院にて同兒等限り特別丁寧なる十念を授けられ付て、美濃国西の莊立政寺清水範空中僧正も同様に授けられしに依り、同兒並び乳母付添係り員も皆ありがたき授けなり迎かんるいにむせびしとぞ。

其節松山氏より即納金三元○清水氏よりは育兒に菓子料同金二元○同日参詣之慈善者中より同金二元十五錢三厘差出されたるよし。又知多郡有松村加藤甚三郎即納金百円の殘金四十円を去る二月廿五日に即納○名古屋市研屋町服部鉄治郎同金二十錢○同市花車町淨信寺住職羽塚慈青小兒縞綿入一個○同市東田町村瀬五兵衛育兒へ菓子料同金五十錢○同市慈無量講より育兒へ本月分白米五

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

升即納右諸氏より寄付されしと同会よりの報知。

#### 名古屋市各仏教団体の懇話〔明治24年3月23日 第四十六号〕

来る四月三日、大津町光円寺に於て正午十二時より紹隆会員の遣番を以て開かるゝ由なるが、同日は大懇話会に關する事件の打合せを始め其緊要なる事件も有之に付き、当番会員は勿論他にも既に昨今より開会に付き協議相談を遂げ居らるゝ由なれば定めて盛会ならんと今日より予想せらる。

#### 春期彼岸〔明治24年3月23日 第四十六号〕

去る十八日より春期彼岸の爲め近郷遠在より市内各寺院へ参詣の向も多きが、殊に其の中日は初馬と同日なりしを以て、孰れも其日を當てに爲し居たりしに近來になき暴風雨なりしも翌日に至り快晴となりしかは、東郊は始め市内各所は随分の賑合なりしが例年に比して大谷派別院の賑はざりしは多分来月の御法要に参詣せん爲め、此の彼岸の参詣を見合せしならんと謂へは、来早々の御法要は必ず非常の賑合ならん。

#### 演説と講義〔明治24年3月23日 第四十六号〕

来る廿四日午後三時より大津町光円寺に於て演説及び法話会、廿七日午後六時より門前町大光院内転愚堂に於て近藤疎賢、伊藤寛典の諸氏出席講義を、廿八日には広間隆円、水野道秀、伊藤慈音、高橋仙定の諸氏出席演説を開かる。

**熱田通信**〔明治24年3月23日 第四十六号〕

去十一日は青年会例月の演説にて不相替盛会なり。出席弁士は石田、浅野、神座、安達、平野の諸氏にて演説終るや破邪顕正の運動歌を聴衆一同へ施与せられたり。同会は去る十三日の講日を以臨時會議を開き大に規約を改正し、更に名譽顧問の二員を設け、其他数件を協議し、特に同地高等小学校教授耶蘇信者樋口某の挙動に就き、生徒の父兄等は激昂の有様故今回同会員連名にて郡長町長に向て樋口某解雇の建白書を呈せんと準備中なり。尚来る二十四日旗屋春養寺に於て臨時演説を開会せらるゝ由。去る十四日中道蓮座に於て津村俊、桜井幸太良、深谷源太良の各氏の發起にて医業分業の事に就て演説を開会し、翌十日同地衛生会員同座に於て大演説を開き、各々得意の雄弁にて衛生の忽せに付す可らざるを述べられ、聴衆も頗る感動の有様なりし。去廿一日は白鳥山に於て、例年の無縁大施餓鬼を修行し、次て説教あり。参聴者一同へ饗飯を施与せられたる由り。

**広告**〔明治24年3月23日 第四十六号〕

三月廿五日午後二時ヨリ 於南奥田町

仏教会演説 西念寺

出席弁士 広間隆円君 水野道秀君  
吉野法英君 原 泰円君  
田中栄盛君 伊藤覚典君

**生徒募集広告**〔明治24年3月23日 第四十六号〕

本校第一年度ヨリ第三年度迄各級へ入学ヲ許諾ス

本校学科 普通学  
程 度 高等小学

男子部十五名女子部二十名募集ス  
当市宮出町永安寺境内

愛知育英学校

**広告**〔明治24年3月23日 第四十六号〕

全 第  
国 仏教者二大懇話会  
回

客年四月東京に於て第一回大会の議決に依り本年は当名古屋市に於て四月廿日より三日間仏教上時事に緊要なる問題評議の爲め大懇話会を開設す依て愛國護法有志の僧侶及各仏教団体の会員信徒諸君は勉て御出席相成度候

御出席者は左の要件御承知相成度候

○各地方より本会へ提出せらるゝ議案は成べく明了に認め説明書を添へ三月三十日迄に送致の事

○議案編纂及印刷等の都合も有之候条日限後に至り到着の分は原案に編入せず

但し議案の旨趣大同小異亦是全一事件なれば到着の前後に依り取捨する事あるべし

○開会日数は大約三日間と予定するも議会の評決に依り伸縮する事あるべし

○名古屋市に於て御定宿無之御方は極て便利なる旅舎を事務所より紹介すべし

○右懇話会へ出席の御方は準備の都合も有之候条三月廿日迄に御住所姓名を詳記し事務所へ御申込に相成度候会場は御到着の上報告すべし

○会費として金三十錢御到着の際御差出しの事

○右開会中は毎夜大演説会を開き弁士は各

愛知県名古屋市

当番幹事 同盟仏教各会

名古屋市門前町大光院内

事務所 愛知仏教会本部

### 愛知仏教会講義〔明治24年3月23日 第四十六号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛氏方にて、毎月一、二、三、の三日間午後七時始

原 人 論

講師 伊藤寛典師

三国仏法伝通縁起

講師 広間隆円師

### 愛知仏教会講義〔明治24年3月23日 第四十六号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時より

孝 論

講師 近藤疎賢師

### 裁断橋及び姥堂記〔明治24年3月30日 第四十七号〕

熱田伝馬町の東精進川に渡せる橋なり。今さんが橋ともよべり、昔此所に裁断所ありて政務を行ひし故名くとも、或はさうづが橋の転じてさんだんとなりたるかとも云。精進川は彼夏越の祓するより起れる名なりといへるはさもあるべし。又欄干の擬宝珠に漢文と仮名文字との銘を彫付たり。其銘に曰、

熱田宮裁談橋右檀那意趣者堀尾金助公去天正十八年六月十八日於相州小田原陣中逝去其法名号逸岩世俊禪定門也慈母哀憐余修造此橋以充三世三年忘普同供養之儀矣と此名に依而見は裁談橋とも書しにや

天正十八年二月十八日に。小田原への御陣。ほりを金助と申。十八になりたる子を。たゝせてより。又ふためも見ざる。かなしさのあまりに。いま此橋をかける事。はゝの身には。らくるいともなり。そくしんじゆうふづし給へ。いつがんせいししゆんと。後のよの又のちまて。此かきつけを見る人念仏申たまへや。世三年のくやうなりと

かくかなにて彫付しは不学の人にたよりする老母の心中見るにつきてもいと哀なり。此傍に婆堂あり。安阿弥作の奪衣婆の座像を安置す。いはゆる三途川の姨子、是なり。又熱田旧記に永祿の比、幸順僧都といへる沙門、此川を歩行渡りせしに折ふし水高け

れば誤つて溺死せり。故に僧都川と呼、初めしよし其比此辺に食欲の老婆ありて彼僧の衣類をも剥取りしに老婆程なく命終せしが、欲心深き老婆なれば魂霊よなく、此あたりをさまよひけるに、其縁類是を憐み罪障消滅の為三途川の姥の縁を安置すとも云り。

### 大懇話会の準備〔明治24年3月30日 第四十七号〕

来る四月廿日より当市に開設せる全国仏教者大懇話会は、其の準備委員には過る廿三日其の事務所なる愛知仏教会に於て諸事打合の為め小会議を開かれし。今聞く所に依れば既に各地より続々参会を申込、或は議案を贈達せらるゝ向も尠なからず。亦其会場も弥々当市大谷派別院に於て開会する事に決し、一兩日中に会場準備に着手せらるゝ由。亦開会中毎夜開設する演説の会場及大懇親会の場所目は目下撰定中なれども、多分懇親会場は有名な秋琴楼に於て催す筈なりと云ふ。亦原案編制の委員には酒井恵遂、伊藤栄二郎、日下部徳兵衛、中野徳二郎、高橋順庵、太田元遵、山田良海、広間隆円、河村文六、水野道秀、安藤清次郎、堀部勝四郎等の諸氏を始め各仏教団体より一名宛の代表者外に事務員を若干名宛出す筈なりと云ふ。亦各県出席の人員の内には東京より石上北天師も出席せらるゝ由。其の他平井龍華、南条博士、村上専晴、堀内静宇其の他有名な仏教学士、居士は特別に招状を發せられし由なれば、定て参集せらるべし。

### 曹洞宗支局會議〔明治24年3月30日 第四十七号〕

本県全宗の宗務支局は配下六百廿余ヶ寺にして、之を廿分局に区分して支配されしか、毎年春際此の二十分局より各一名宛の代表議員を招集して全支局全体の経済より布教上の事をも議会の評決を経るの成規なりしか、本年も弥々四月一日より開会せらるゝ由にて、社員水野道秀氏も第一号分局寺院代表者として出席せらる由なれば、亦其の顚末は聞込次第報導致すべし。

### 西念寺演説概況〔明治24年3月30日 第四十七号〕

当市下奥田町真宗西念寺に於て、過る廿五日午後一時より開会せし愛知仏教会の派出演説は参聴殊に多く、就中夜会の如きは流石に広き本堂も立錫の地なく頗る盛会なりしか、参聴者には仏教会より夫々饅頭を配与せられ閉会せしは午後十一時なりき。将来は全町に支部会を設置し、毎月定期演説を開会し、亦全地の貧窮者へ漏れなく布教するの計画なりと云ふ。

### 東春日井郡通信〔明治24年3月30日 第四十七号〕

本郡小野村大字上中切曹洞宗長全寺に於ては、住職大谷大馨氏が発願にて大洞院開山恕仲禅師の御分身を奉迎し、過る廿七日其の勧請式を挙行し、隣峰寺院を招き大般若經を転読し、続て水野道秀師説教あり。亦全夜演説会をも催せしか第一席（開会の旨意）大谷大馨、第二江尻深海、第三水野道秀等の諸氏にして参聴頗る多く、殆んど四百余と見受たり。亦大谷大馨氏には曾て当地に小



学教員を勤務せられし事ありしか、本回は当地に於て旧学生諸氏を集め、更に學術及仏教を研究する為青年会を組織するの計画なりと云ふ。

**広告**〔明治24年3月30日 第四十七号〕

**全国仏教者大懇話会**

全国仏教者大懇話会と題し西京なる経世博議は、来る四月廿日より三日間名古屋に於て開会せられんとす。而して其目的は仏教上時事に緊要なる問題を評議せんとするに在り。従来一宗一派一地方一団体の間に踳躐し、社会の大局面に向て一致の運動を試るの勇氣なかりし仏教者が、茲に胸襟を洞開し仏教拡張の方策を画せんとするは吾人の切に賛成して休まざる所なり。然れども過ぎたるは猶及ばざるが如し。若し夫れ自家の重大なる資格を忘却し輕挙暴進濫りに政法界裡に侵入するが如きとあらば実に由々しき大事なり。吾人が同会の委員諸氏を信ずるの厚き決して是等の事なきを知る。然れども事物に熱中するときは知らず識らず邪徑に履み込むとあるは是れ人情の弱点なり。吾人は諸氏が深謀遠慮以て事に当られんことを望むや切なり矣と。吾人は其の誼の深切なるを謝し、未だ吾人委員等の精神を知らざるを憾む。

**広告**〔明治24年3月30日 第四十七号〕

熱田町 陽泉寺 四月 自六日  
新尾頭 至八日

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

小児 虫封 三宝大荒神大祭執行す

廿四年三月 陽泉寺世話人

**広告**〔明治24年3月30日 第四十七号〕

名古屋市内各仏教団体の懇話会を 来る四月三日正午より 開会す 仏教紹隆会 大津町光円寺に於て

**愛知仏教会講義**〔明治24年3月30日 第四十七号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛方にて、毎月一、二、三、の三日間午後七時始

原人論

講師 伊藤覚典師

三国仏法伝通縁起

講師 広間隆円師

**愛知仏教会講義**〔明治24年3月30日 第四十七号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時より

孝論

講師 近藤疎賢師

**曹洞宗会議の概況**〔明治24年4月6日 第四十八号〕

曾て報導せし本県下の全宗廿号分局及寺院の会議は、予期の如く過る四月一日より裏門前町万松寺に於て開会せしか、一市各郡撰出の議員には伊藤隆盛、鈴木泰量、阪井祖仙、水野暁山、菅器玉、茶原良栄、村田大音、西尾令準、寺本賢瑞、益山慈照、近藤覚禅、梶川賢明、安永貫道、佐藤祖閑、長谷川悦翁、佐藤靈源、寺西確門、小寺黙音、友松湖岸、水野道秀等の諸氏にして、番外には支局取締生駒円之、学林監督山崎眠龍の両氏にて各員着席後支局取締りは通常開会の旨を報し続て議事となりしか、当日は布教の件二ヶ条外一項にて午後四時閉会し夫より小会議を開き、廿三年度精算書中予備費費途に就き各議員は受持を定め当局者へ説明を要求する事とし散会し、翌二日午前八時開会出席総員議案支局及学林経済の件なりしか、原案収入額及其の方法を議するに當て先づ支出方より議せんとの動議起り多数の賛成を得て支出方を議するに當り、或る議員は廿三年度の精算報告を検するに支局定額費の外予備金に於て臨時に消費せし金額は殆んど定額金の半額に達せり。依て本年度に於ては、定額費の外は決して消費せざるの方針を当局者に於て確守せられたし、亦如斯場合に至るは畢竟予備金の多額あるより此に至るものなれば、本年度は可成予備金を少額にせんとて、原案中にある補欠米金及篤整利子金の徴集は本年度に於て中止するとの動議に決して予備金消費説明要求書を当局者に提出し午後六時散会せり。○三日午前八時開会出席総員議員建議に係る学林監理者及寺院総代五名撰定の後年俸旅費

確定の件及前年度予備金消費理由当局者より懇々説明あり。散会せしは午後三時なりき。

**全余聞**〔明治24年4月6日 第四十八号〕

議員は何れも熱心に議場に在て討議せらるゝも、中には番外か説明せし件に就き番外に賛成なぞと云議員も多くありたり。亦原案に何々するの可否と云原案ありて、議長は原案賛成は起立と命したる時きなそは一同起立せし事なりしが、どちらか判らず亦議事細則中に何々を許さすと云箇条は六七ヶ条もありしか、細則は都て議員の討議を得て規則となるものなれば、命令的の字よりは何々するを得すと改正せられたり。亦議長か採決の時き原案は動議との区別もなく、亦動議にも発言者の前後の区別もなく採決せらるゝ様に見受あり。其の他三四箇の不都合もありと見受たりしか、明年の議会までには議事法の研究望みたき事なりと。

**鐘供養**〔明治24年4月6日 第四十八号〕

今六日午後一時より、当市巾下紙漣町真言宗堪忍堂に於て見出しの如く鐘供養を執行せらる。其大導師は真言律宗八事山大和上を聘し、随喜の寺院廿七ヶ寺集合して音楽稚児及投餅等をも為さるゝ由。

**大谷派門跡殿へ伺候**〔明治24年4月6日 第四十八号〕

当市御滞在中なる大谷派管長殿下へ、昨日午前十時愛知仏教会本

部理事古沢全誠、河村武七の二氏並に本社の水野道秀、日下部徳兵衛等伺候せしに、全門跡殿下には全別院古御殿にて謁見せられ、御教示中目今は各宗聯合の必要なる時代にて既に各宗本山に於ても夫々協議の上該協議所を東京に設置し、予も先月迄は其事務を管督せしほとこの事なれば、各地方の僧俗に於ても此を体認し、国家及宗教の為には着実なる方針を取り精々尽力すへき様と懇示せられたり。了りて渥美執事より最と鄭重なる挨拶ありしか、理事諸氏には既に準備中なる大懇話会は各宗本山執事の臨席を請の計画なれば万障操合せ出席にありたく、亦何れ全会の結果は定て各宗本山へ関する事項もあらんか、諸事御本山に關するの事項は御幹旋の勞を御取あたりたしなど懇話して歸りたりにき。

#### 養鷗徹定師の追悼会 (明治24年4月6日 第四十八号)

去る一月十五日に遷化されし浄土宗総本山智恩院前々門主養鷗徹定上人の追善を去る二三四の三日間、当市白川町光明寺に於て営まれたり。

#### 外人五百羅漢を撮影す (明治24年4月6日 第四十八号)

当市新出来町なる五百羅漢大龍寺へ米人ボールローチンが写真師を引き連れ行き、同寺に安置する羅漢の木像を撮影せしめて本国に送りし由、羅漢の洋行偕一時に五百人とは多分出稼ならんか。

#### 愛知育英学校の試験 (明治24年4月6日 第四十八号)

去る三日、同校第一期修了証書授与式を挙行せられし概景は、当日午前九時頃より愛知仏教会の役員能仁社員同校設立委員及び生徒の父兄共に数百十名来校せられ、同しく十時半より教場に臨み順次証書を授与し終て校長織田宝山、伊藤寛典教師、山本竹次郎、丹羽女史の祝詞ありて、次て君が世の唱歌を奏し畢て来客及び生徒の父兄諸氏へ祝饌を饗し、談話数刻の上散校せられしは午後二時頃なりき、因みに同校生徒九十七名中、今回の試験に優等なるものは男子部にて安井耕秋外二十八名、女子部にては沖れい女外十二名なりしと云。

#### 仏教会演説 (明治24年4月6日 第四十八号)

当市新地女工場にて、去る二日広間隆円、石川穰然の二氏演説、又西春日井郡如意村岳桂院の演説は去廿七日と五日二回にして伊藤寛典氏出席。又荻谷にては同町仏教青年会に来る十四日午後一時より第五次回の仏教演説会を開かる、由。出席弁士は伊藤寛典、黒田安麻呂外数名なり。来る十日午後二時より四恩会演説。出席人は近藤疎賢、中村甄宗、水野道秀、同日午後七時より東田町温知会にて仏教法話及び討論会ありしが、出席人は仏教会の弁士に仏教青年団の弁士と同会の会員なる由。

#### 育児に第一等賞 (明治24年4月6日 第四十八号)

愛知郡熱田町大字伝馬吉川田鶴方に預りある愛知育児院育児富田

しんは昨年より同町尋常小学神戸学校へ通学せしめられしに、去月廿五日同校大試験の折右しんの成績は修身百点、読書百点、作分百点、習字九十点、算術百点、総点数四百九十点、平均点九十八点、小試験点九十七点、成点九十八点なりしかば、全郡役所より学力優等に付、太筆一対賞与相成り、同校よりは第一年の課程を修了せし証をわたされし由。又同児は育児通学の嚆矢なりと云。

#### 故佐藤牧山鴻儒の法会〔明治24年4月6日 第四十八号〕

過る三日、当市門前町極楽寺に於て門生太田寛、高橋磯八郎、成瀬日俊、大田元遵、伊藤由太郎、小川亮、下条将太郎、三輪文治郎等の諸氏の發起にて、其の尽七日諱を修営いせられたり。今其の概況を記は、全寺本堂の正面には称名院清誓牧山居士と認たる靈牌及老先生の中判形の写真を安置し、大塔婆供物立花等最は鄭重に献列し、聴て午前九時より門生辰巳守氏の献納に係る音楽を始めた。各来会の旧門生及僧侶方は奏楽に随つて本堂に整列し、夫より大施餓鬼会を修せられたる奏楽の内に参会の門生諸氏は交々最と静肅として焼香せられたり。旧門生にして参会の僧侶には武田鼎立、杉山徴典、河村宗純、松平龍舟、住田祐信、横江寛城、広間隆円、水野道秀等の諸氏は大法衣を着し誦経せられたり。参会者には福岡敬堂、鈴木乾堂、吉田高朗始め無慮一百六十余名にて老先生の旧里なる山崎村よりも親戚方七八名も参会せられたり。

#### 広告〔明治24年4月6日 第四十八号〕

全 第  
国 仏教者二大懇話会  
回

客年四月東京に於て第一回大会の議決に依り本年は当名古屋市中に於て四月廿日より三日間仏教上時事に緊要なる問題評議の爲め大懇話会を開設す依て愛國護法有志の僧侶及各仏教団体の會員信徒諸君は勉て御出席相成度候

御出席者は左の要件御承知相成度候

○各地方より本会へ提出せらるゝ議案は成べく明了に認め説明書を添へ至急送致の事

○議案編纂及印刷等の都合も有之候条日限後に至り到着の分は原案に編入せず

但し議案の旨趣大同小異亦是全一事件なれば到着の前後に依り取捨する事あるべし

○開会日数は大約三日間と予定するも議会の評決に依り伸縮する事あるべし

○名古屋市中に於て御定宿無之御方は極めて便利なる旅舎を事務所より紹介すべし

○右懇話会へ出席の御方は準備の都合も有之候条至急に御住所姓名を詳記し事務所へ御申込に相成度候会場は御到着の上報告すべし

○会費として金三十銭御到着の際御差出しの事

○右開会中は各地よりの出席者交互に毎夜大演説会を開く

愛知県名古屋

当番幹事 同盟仏教各会

名古屋市門前町大光院内

事務所 愛知仏教会本部

**愛知仏教会講義**〔明治24年4月6日 第四十八号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛方にて、毎月一、二、三、の三日間午後七時始

原人論

講師 伊藤寛典師

三国仏法伝通縁起

講師 広間隆円師

**愛知仏教会講義**〔明治24年4月6日 第四十八号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時より

孝論

講師 近藤疎賢師

**陽泉寺の虫封し**〔明治24年4月13日 第四十九号〕

去る六七八の三日間、当国熱田陽泉寺に於て同会を施行せられ加賀金沢天徳院住森田悟由師を聘して大般若の転読及び羅漢講式を行はれしが、連日共数千人の参詣にして近古未曾有の盛会なり

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

き。

**醍醐教会の演説**〔明治24年4月13日 第四十九号〕

来る十五日午後一時より当市橋詰町円頓寺に於て全会の大演説会を開く由にて、その弁士は児島敏海氏を聘し、会員には水野菜遠、石川穰然、大島通寛等の諸氏なり。

**大谷派普通学校の遠行運動**〔明治24年4月13日 第四十九号〕

当市なる大谷派本願寺公立大谷派普通学校の生徒数百名は、去る十日午前六時同校を発し、職員教員の引率にて犬山へ向け遠足運動を行はれし概況なりと謂ふを聞くに、当市清水の先きにて小休止を為し、三階橋を経味碗原より小牧を通過し藤の棚にて昼食を喫し、午後二時三十分犬山町に到着せり。当日の途中は列伍整々として時々仏教軍歌、或は陸軍々歌などを唱へ勇ましく進み行かれしが、一泊の上翌十一日は五時に床を起き、同町なる大谷派浄誓寺の本堂へ一同参拝し畢て朝食直ちに天守閣を觀覽して帰途に就きしが、同日の中食は小牧町西源寺住職織田氏の招きにて、同町小牧山の頂上に於て丁寧なる饗応を受けしが、是れに先き立生徒一同は同寺の本堂前にて参拝を為し、歩を揃へて登山し、食後再び列を調へ同山を下り、南に向て帰校せしは午後五時過ぎなりしと。因に記す同校は高等小学より稍高尚なる程度以上中学課程の教授を為すものなるより生徒の年齢にも甚たしき相違あれど、当日の運動会には一同出場せしも若年者は却て壮年に勝りし

効果ありと、又遠隔地より通学する生徒の健足なりしは、全く平常運動上より致す所ならなど大に得る所ありし由なりと云。

法雲普蓋禪師

### 法会と授戒会〔明治24年4月13日 第四十九号〕

当市松山町安斉院に於ては、来る十七日午後二時より観音懺摩法会及説教、全廿一日より授戒会を修行せらると云、亦住職野々部至遊氏には五月上旬より島根県石見国迹摩郡波積村岩滝寺へ授戒会の為め旅行せらると云ふ。

### 慈善者へ褒状〔明治24年4月13日 第四十九号〕

県下熱田町字新宮坂湯屋加藤みし女は仏教篤信且つ慈善の間へありしが、過般同町成福寺の堂宇なきを憂ひ、自から数百円金を喜捨して之を再建し、其他諸寺院へ仏器等を寄付し、或は貧民を救恤せられんことは能く世人の知る所たるか、茲に其慈善の心を嘉みせられ曹洞宗両大本山両大禪師より左の賞状を下賜せられたり。

熱田成福寺信徒

村瀬 みし

夙に曹洞宗の教義を篤信し、志操温良行持純正能く信徒の本分を尽して他の模範と為るは奇特の至に付、茲に賞詞に及候事

曹洞宗大本山永平寺

真晃断際禪師

曹洞宗大本山総持寺

### 愛知仏教会講義〔明治24年4月13日 第四十九号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛方にて、毎月一、二、三、の三日間午後七時始

原人論

講師 伊藤覚典師

三国仏法伝通縁起

講師 広間隆円師

### 愛知仏教会講義〔明治24年4月13日 第四十九号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時より

孝論

講師 近藤疎賢師

### 風説〔明治24年4月20日 第五十号〕

誰謂ふとなく道路に伝ふる所を聞けば、能仁新報の編輯及び印刷を新愛知社に托すると謂ふものあれども、成る程能仁新報も昨年の五月発行の節は万事不慣の素人寄合なれば、印刷の約定中甚だ不都合なる廉ありて、莫大の損失を招き為めに前途の維持も甚だ困難なりしが、幸に読者諸君の愛顧と社員の熱心によりて漸く該契約期限則ち一年間を無事に経過せり。去れども編輯は他に職務



ある元亮が単身其衝に当りしは止むを得ざる事情のあるありて、若しも其衝に当るを避けんが、今日此の能仁新報の存命を見るべからざる運命なりければ、法の為め国の為めと寸暇を偷み艱難辛苦漸く今日に至れり。然れども今後印刷の契約さへ改正し得ば、本社の維持も難きに非ざれば、此の際良記者を聘して万事を依托し、元亮は退かん事を乞へども尚暫く従事し呉れる様にと以来に由り一二ヶ月は勤続致すべけれど、遠からず良記者を聘し紙面に一大改良を施し、能仁子の光明を十方に放ち一切衆生を済度するの期はあれども、其の編輯は勿論印刷をも結社の際より世間の新聞社等に托せざる規約書なれ、道路の風説の如き事は万々なきのみならず、能仁新報は早晩一大改良の時期あるべければ看者暫くの間を待ち玉はらん事を希望す。

### 愛知仏教会講義〔明治24年4月20日 第五十号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛方にて、毎月一、二、三、の三日間午後七時始

原 人 論

講義 伊藤寛典師  
三国仏法伝通縁起

講師 広間隆円師

### 愛知仏教会講義〔明治24年4月20日 第五十号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時よ

「能仁新報」よりみた名古屋の仏教（二）

り

孝 論

講師 近藤疎賢師

### 能仁新報の改良〔明治24年4月27日 第五十一号〕

本社新報の創立者は実に名古屋に於ける仏教団体の祖先とも謂ふべき紹隆会員九名の者にして、今日に至るまで実に莫大の辛苦艱難と資金とを投し、特に発行当日の如きは毎号徹夜して今日に至る者なり。然れど編輯其他に於ては到底専任の者あるべからざるは勿論なれども、発刊の初め印刷の請負人を定むるや何分素人の寄合なれば甚た不完全なる契約を為し、為めに莫大の損失を蒙りしは固より営業の主意にて発行せしに非ずと雖も、実に其の上記者及び役員を置くに堪へざるよりして毎発行毎には社員は何れも徹夜を為し編輯も他に業務ある社員の者にて負担せしより不完全勝ちなりしは実に謝するに辞なけれども紙数も次第に増加し、今や名ある日刊新聞と同等の刷り高に至りしは、実に愛読者諸氏が本社を愛憐せられしによらずんばならず。故に印刷請負人との契約は本号にて尽きたれば、以後は紙数を従来の八頁を増加して十頁とし、記者を聘し一切の社務を改むるの幸運を得たり。因て本社の主意と組織は更に従来と換る事なけれども紙面に一大改良を施し、先づ第一着として次号には三十余頁なる講義録を付し、且つ挿画も二個とし毎号読み切りの小説を掲げ名僧知識高德の伝記と尾三両国の名勝古跡を毎号異りたる画家の揮毫にて挿入するは

従前の通りなる上、次号より更に日本全国中有名なる勝景を始め古寺古社及び遺跡の図を交へ、其の伝記を掲げ大に旧来の面目を改め愛顧せられし読者諸君に報ひんとす。乞ふ次号の出づを見て其の虚ならざる事を知り玉へがし。

#### 授戒会〔明治24年4月27日 第五十一号〕

予て報道せし如く、当市松山町安育院に於ては過る廿一日授戒会を修行せられ、弥本日は其の完成なりしか全戒弟は殆んど五百名に達し非常の盛会にてありしと云ふ。

#### 演説彙報〔明治24年4月27日 第五十一号〕

明廿八日は大光院内の転愚堂に於て、愛知仏教会演説出席員は伊藤、高橋、水野等の諸氏、亦東春日井郡瀬戸村宝泉寺に於て廿九日水野道秀氏を聘して昼夜演説を開会せらる筈、亦西春日井郡下の郷村天桂寺にては住職野田道環氏が發起にて仏教団体を組織せられしか来る三日其の発会式を挙行せらる由にて本社の水野道秀氏出席する筈なり。亦過廿日愛知郡鳴海村大心進徳会に催されたる加藤恵証氏、松田鏝齊氏の演説は参聴頗る多非常の盛会なり。亦当市大曾根町顯正会の催しにかゝる去る廿五日加藤松田氏の演説は前全様の盛会なり。

#### 安育院の大般若〔明治24年4月27日 第五十一号〕

同院にて授戒会を開かれし事は別項に記るしあるが、尚ほ同院に

ては曾て米商原兵一郎氏より寄贈せられし大般若經六百巻を奉読し、右施主の大祈祷を行はるゝ旨。

#### 大谷派顯光会〔明治24年4月27日 第五十一号〕

去る廿四日、当市新守座に於て開会せし同会の発会式に弊社へも招状を辱くせしに付き出席せばやと存し、其の会の果して名称の如く大谷派其の者の設立なりや否を同派へ問ひ合せし所、同派にては更に關係なしとて事なれば、其の設立者を聞きたゝせしに宇佐美鎮雄氏は日蓮宗、梅原薫氏は曹洞宗等にして同会へ出席せられし弁士の加藤恵証氏は本願寺派なりとの事なりと。時に編輯局の隅より夫はチト変だよと謂ふ声の興りければ、記者は咳一咳して否大派の爲めにせらるゝ新趣向なりと答へぬ。

#### 愛知仏教会講義〔明治24年4月27日 第五十一号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛方にて、毎月一、二、三、の三日間午後七時始

原 人 論

講義 伊藤覚典師

三国仏法伝通縁起

講師 広間隆円師

#### 愛知仏教会講義〔明治24年4月27日 第五十一号〕

門前町大光院内転愚堂に於きて、毎月十五日廿七日午後第七時よ

り

孝論

講師 近藤疎賢師

## 本紙の改良に就て〔明治24年5月4日 第五十二号〕

吾人能仁子は昨年本月本紙発行の始めに当り、発行の主旨として実に左の言を為しぬ。曰く、吾人は現時の仏教々会を以て仏教の感化を及ぼすに足るものとは信する能はず。又た現時の仏教々会を以て文明日新の今日に応する組織制度なりとは信する能はず。又た現時我邦の仏教信徒則ち名義上に於て徒に仏教信徒と称する者を以て真正に仏教の感化を蒙り仏教の信仰を有する者とも信する能はず故に、全国の最も信仰あり最も見識あり最も熱心に最も懇切に最も進歩したる思想を懷き、最も厳毅なる精神を有する所の仏教の徒の相協同し相提携して、大に振て仏教革新の正義を主張せんとす。然れども其の改革の方略と手段とに至りては、過激なる者を避けて着実なる者を取り、架空迂闊なる者を棄て、穩当適切なる者を撰はんと欲すと。

是れ吾人能仁子が初刊の辞にして、爾來一週年の間実に以上の数語を骨髓とし手を挙げ足を投するも一に主義ならざるはなかりき故に、愛読者は次第に増加し、今や紙面を改良するの好時を得たり。去は吾人能仁子は、一は愛顧の厚き読者に対へ、一は吾人が初刊の厳言に対し將に進んで腐敗し沈滞し枯朽したる我が仏教をして、其の元氣を回復せしめ我が国運と等しく倍々隆盛ならし

めん事を希望するが為め、大に仏教革新の大義を唱へんとす。故に吾人が将来に於ける挙動と方針とは、猶ほ既往に於けるが如く一意仏教の革新を以て自から任し、大に仏教の光輝を発揚して社会の汚物を一掃し、日本帝国の元氣を振作して有形の文明と相雙ひて無形の文明をも進歩せしめん事に努力すべし。敢て本紙改良の時に際して言を為事斯の如し。

## 普茶式〔明治24年5月4日 第五十二号〕

過日、仏教者大懇話会の後、当市洲崎橋畔金城館に於て催せし園遊会へ、愛知仏教会理事河村武七、井上重兵衛、水野宇右衛門の三氏より同園内に於て来会者一同へ普茶の饗応ありしが、右普茶の起原及び其の式に付き、黄檗宗東輪寺に就きて左の数件を聞き得たるを以て左に録す。

黄檗宗に行はる、普茶は、其昔承応三年即非禪師支那広東より帰化せられしより我邦に伝はりしものなり。師は寛文十二年、後水尾帝の戒師となり黄檗山三世に準せられしが、諸国巡化の際当名古屋に來り。同宗なる東林寺の開山となられし事は既に本紙に記載しぬ。偕普茶とは黄檗宗の齋時の名にして、則ち齋食なり。其の法齋堂に於て四人乃至十人廿人等飯台に就て喫するものとす。四碗五碗六碗等の饗ありて飯食の事なり。飯台に向ふは一二三四と互に相對するを例とす。台上には皿、飯碗、茶碗、散蓮華、ヒ等を銘々に供へり。而して食物は相對したる中間に置ける事支那料理に異ならず。侍者ありて之れを運搬す。中間に人数に應した

る箸を置けり。偕齋堂に入るには、雲板の声に応し門送に誘はれ行き席に着や十仏名を唱へ畢て食す。小菜大菜の二種あり。先つ小菜より饗す。酒は唐茶と称し用ふる者は此の間に於て飲むなり。畢て大菜を出して飯を食す。今混立中の二三を記さは筆羹とて蟹蓮根雪輪慈姑唐饅等の盛物あり。麻麩とて胡麻豆腐あり雲南とて豕（僧家にては他物を用ひて類似の者を製す）キクラギ筍等の揚物あり。生盛とて麩割干等の辛合あり。惣て支那広東地方の料理法にして則ち開祖林氏（即非）帰朝以来今に当市東橋町の東輪寺に伝ふ故に、同寺に就て右の普茶式を望むもの往々これある由にて二三日前に申込まば二十五銭位の間に応し得る由。同寺内の者の物語りなりき。

#### 曹洞宗の騒動

同宗内の騒動たる一昨年有志会の起りし以来、曾て紛擾騒動の絶へし事なきために、本社は逐一報道を怠らざりしか、客冬に至り漸く調停に帰しために有志会は解散の場合に至り。茲に第一の騒動は極を結ひしが、爾後一変して滝谷琢宗禅師の退董となり、再変して末派寺院より全禅師永住の請願書を捧呈する事となりしが、全禅師の決意遂に其の請願をも採納せられず。今や第三の騒動として目下全宗制度の改革となれり。元來全宗大本山は越前永平寺、能登総持寺の二本山にして、各其の末派寺院へ法服の制度法式の制度を殊別にして互に軋轢せし事尠ならず。既に明治維新の始にも両山権利の争ひよりして一大葛藤を醸し、当時西京の政庁なる大蔵省の説諭に依り両山盟約書を製して和解し、権利は

両山均一にして唯た席次のみ永平寺は始祖道元の靈場に就き上席たるべしとて、一宗統治の大権者なる曹洞宗管長は両本山毎一年交代に勤務する事となれり。然るに曾て殊別なりし法服の制、法式の制は近年改良して漸く一途に帰したりしか、緊要なる一宗統治の大権者にして最短なる一年交替にて勤務するか如きは自然其の宗政は姑息に陥り苟安に流るゝの弊を免れずとて、本回は滝谷禅師の勇退に際し一宗一管長にせんとの議論起り、遂に全宗寺院一万三千余寺の代表者を招集して臨時大会議を開き、制度改革の端緒を啓発せりと云ふ。之れを同宗三次の騒動とす。

#### 総見寺々々と信長公自筆の扁額（明治24年5月4日 第五十二号）

総見寺記を按するに、尾州愛知郡名古屋景陽山総見寺は山城国西京正法山妙心寺の末なり。創建せられしは内大臣織田信雄卿なり。公は其の頃ろ伊勢国五郡を領せられしが、日夜父信長公が菩提の為め一字の寺を営まれんと志さゝれしも、国内良材に乏しきを以てて如奈ともすること能はざるを歎き居られしが、幸ひに全国大島に景陽山安国寺とて虎山和尚の開基寺ありしが、久しく無住の廃寺となり居るを城下に移し、忠嶽和尚を請じて寺号を改め総見寺と号し信長公の菩提を弔はれぬ。抑も総見寺の号たる曾て信長公在世の砌り、江州安土に一字を建立せられしに堂上一の二十四郡を望み得られければ、近侍の士に謂はるゝ様此の寺中能く二十四郡を総見し得へし。宜しく名を総見寺と号すべしと是れ総見寺々々号の始めなり。（後、信長公薨去の後、法号を総見院と

号せり）（中略）又信長公の忌辰に逢ふ毎に寺秩を増加して冥福を祈らるゝ事毎々なれば、寺祿積んで一千三百二十六石に至れり。後秀吉公の世を一統せらるゝや、更に一千三百二十六石の朱証を賜ひて香華の供を弁せらる。然るに慶長中伊那備前の守国中を点検して、私に千二十六石を闕略して只三百石を宛て行ひしが時の住職山翁は、三百石の料尚ほ奠供に余りありとて敢て求むる所なかりき後、国守義利公及び光義公より黒印を賜ひて永く山門に鎮められし由緒寺なる事は、曾て信長公の伝と共に本誌に掲載せし事ありしが、斯る名利なるも維新の変動によりて寺門大に衰頽せしのみならず、曾て炎上の災に罹りしより今は僅かなる仮宇の中に信長公の霊位を納め奉りあるは歎はしき至りなり。由て現住酒井惠遂師は為に寺宇を再建せんとて檀信諸氏と相謀らるゝや宮内内務の両省より若干の金員を下賜せられしのみならず故、三条内府を始め徳大寺内大臣鳥尾三浦曾我の三將軍、白根内務次官、其他織田公に縁故ある華族諸公と紳士豪商の贊助により、愈々堂宇再建の運に至られければ旧に復して信長公の霊を慰め、信雄公の志を安するも近きにあるらん。左に掲ぐるは信長公の霊屋（今は仮堂）前に掲けある扁額にして、則ち信長公が在世の砌り江州安土の城上に自筆して掲けられしハンジ物の額なるを公の曾孫織田貞幹氏の臨写して全寺に納められし物の写なり。額は凡そ縦四尺横六尺にして桐を以て製し、半面は左の図にして半面に左の文あり。

正法眼蔵

此図也者

総見寺殿贈一品大相国公江州安土城之額也熟視有人憚開胸襟捨片篋傍設蚊帳左持直木右擎簞箕者是形我国之諺於給事而以教人也販夫知之牧豎識之不用訓詁著矣見者勿以易解忽諸也儻施之於辭則曰其為丈夫者心体広胖氣宇高直而内無詭曲外勸家業則終能保身也繁相公之意而從著至微之捷徑也所謂脩身齊家治國平天下之道亦不出乎是矣厥曾孫織田貞幹臨写付乎山謂曰斯事逸乎家譜惟志矣旃請作記永貼將來粵書顯

元禄元歲舍戊辰十二月穀日

勅住法山当寺六世白翁翁識

釈

白翁  
之印

禪  
操

偕図は判じ物なれば、信長公の意を推し量るは甚た難き事ながら、白翁の判断によれば心体の広胖なるは氣宇の高直にして内詭曲なきなり。其の様の家業を励めるは能く身を保つ所以なりと文せられしかど、尚ほ蚊帳及び其の他の図につき或る判断家の判断あれば次号に掲ぐ可けれ共、看客諸氏も能く意を凝して判断し、其当否を試られん事を。

生駒円之師（明治24年5月4日 第五十二号）

全師は過般来、曹洞宗臨時大会議開設請願の爲め上京なりしか、



弥々全師始め二十一名の建言は宗務局の採納せらるゝ事となり、五月二十五日より議会開設すべき指令を得て、過る廿八日一と先づ歸寺せられたりしか本月廿日頃再び上京せらるゝと云ふ。

### 笠間龍跳師〔明治24年5月4日 第五十二号〕

全師は過般より曹洞宗の宗制編纂の委員長を命せられ目下上京中なるが、此頃中流行感冒に罹り為に引籠り居られし由。亦全宗も近日に至り、宗規上の一大改革說出てゝ為に別項に記せし如く五月廿五日より臨時大会議を催さる由。右に就き自然宗制にも變動を来す事なれば、都合に依り一週間程の賜暇を得て本月十日頃歸寺せらるゝと云ふ。亦全師は本社新報改良の予告を見て左の和歌を寄せられたり。

能仁新報の改良をよろこびて

愛知仏教会員

笠間 龍 跳

み仏の言の葉毎に色まして

緑りすゝしき夏ぞ来にける

また

鷲山の文のはやしの若みとり

しけりゆくかけたのむうれしさ

### 僧侶の亀鑑〔明治24年5月4日 第五十二号〕

此頃、当市に於て開きし全国仏教者の大懇話会へ来会せられたる

長崎県真言宗東漸寺住職松田鏗齊氏は、当市小伝馬町に八木初次郎とて貧困なる者ある由を聞き、去る廿七日其の窮状を見んとて態々訪はれしかど、何分土地不案内の為め居宅の分明ならざりしも救助の念止まざりければ、更に人をして居宅を捜さしめ、当人を旅宿へ呼び寄せ其の物語りを聞きて辛ろに愍然の志を催し自身着用の衣類を脱ぎ与へ、尚ほ全人が不自由なる身体に纏付く孫ある由を聞き、其の孫の養育の事など懇ろに論じ老人を慰めて帰されしが聞きしに勝りし貧困者なりしとて、眼を湿して社員に語られぬ。因に記す。氏は非常なる篤信家にして昨年東京に開きたる大懇話会へも出席せられて当地の委員三名との協議により、毎年一回全国の都会に於て順次開設すべきの建議案を提出し、一同の賛成を得て本年当地に開くべき運ひに相成りたること故、氏は遠路を厭はず開会の数日以前より準備等の為め、特に奔走の勞を取れたるは実に今世に稀なる末、頼母敷き壮年僧侶なるか陋僧方否な老僧方の反省とて記す者は社員某なり。

### 愛知仏教会講義〔明治24年5月4日 第五十二号〕

中市場町二丁目中村嘉兵衛方にて、毎月一、二、三、の三日間午後七時始

原 人 論

講義 伊藤覚典師

三国仏法伝通縁起

講師 広間隆円師



# 大須宝生院の昇格〔明治24年5月11日 第五十三号〕

去る四日、同宗管長猥下より左の通り準別格本山に昇格せらる。尚ほ同願件に付き同寺の来歴を得たれば次号に掲げん。

愛知県名古屋市

宝生院

準別格本山昇格之儀允可候事

明治廿四年五月四日

真言宗長者

大僧正原心猛

別紙御辞令之通り宝生院寺格昇等之儀御允可相成候条請書可被差出候也

廿四年五月四日

法務所庶務課

宝生院住職

権少僧正滝実昇殿

追て地方庁本山并に支所等へ届出可有候也

## 笠間龍跳師〔明治24年5月11日 第五十三号〕

全師は前号に報導せし如く一時は重症に悩み居られしか、稍快氣に赴かれしを以て一先帰院せられしが、全宗の会議も近々なれば、来る十七日頃には再び上京せらるゝと云。

# 大須宝生院の興教大師の遠忌〔明治24年5月11日 第五十三号〕

同宗の中祖たる大師の七百五十年忌を引き揚げ、明十二日同院に於て末寺各院并に同宗の僧侶五十余名を召集し施行せられ同時に別項昇格の披露を。

## 大般若の奉読〔明治24年5月11日 第五十三号〕

例年正五九の三ヶ月に同経奉読の祈祷を施行せらるゝ、当市栄町の秋琴楼、森本善七、大沢重右衛門の三氏は今回大光院主の帰名を幸とし、既に本日をして秋琴楼、伊藤氏は行はるゝ由。

## 亀鑑〔明治24年5月11日 第五十三号〕

当市裏門前町曹洞宗福寿院住職栗木碓伝氏の徒弟なる智堂氏は、曾て本県中学校に在学中は頗る頭角を現はし、最優等生の位置を占め居られしが、今回卒業の上更に進みて第一高等中学校に入校せらるゝ為め、昨十日白鳥鼎三師を始め数名の僧侶と知友を招かれしが、本社の水野も招きに応じて列席せり。因に記す同智堂氏は、当中学校の規則として洋服ならでは昇校を許されざれど、全氏は門前までは法服を着し、洋服は常に門番に預け置きて寒中と雖も厭ふ事なく脱ぎ換へられし由。兎角僧侶が俗人を真似たがる当世にも似ず、独り斯く之行ひありしは偏に今日ある結果なりと帰社の上の物語を掲げ、世の俗僧輩の亀鑑とす。尚高等中学へ入学以前、同宗制に由り首座職（長老）を襲かるゝ由なりと云。

**愛知仏教会の灌仏会**〔明治24年5月11日 第五十三号〕

来る十五日は仏誕生の灌仏会につき、全本部なる大光院に於て全会を修する筈につき、会員は一同参拝あり度と同会の常置理事より申越されぬ。

**信長公祀堂の手斧始め**〔明治24年5月11日 第五十三号〕

本紙前号に掲載せし当市裏門前町なる右大臣信長公が菩提所の総見寺の祀堂再建の爲め、一昨九日其の手斧始めを行はれしか、其の経費は凡そ二千円の見込なる由。

**広告**〔明治24年5月11日 第五十三号〕

予テ上京中ノ処病氣療養ノ爲メ、一週間ノ賜暇ヲ得テ一昨日帰院致候条此段謹告ス

五月十一日 笠間龍跳

**本会派出演説**〔明治24年5月11日 第五十三号〕

○本月十六日昼夜 上宿 興西寺

○全十七日午後二時 七小町 普蔵寺

○全十八日午後二時 松山町 梅屋寺

○全廿一日昼夜 下奥田町 西念寺

右の箇所にて開会候条付近の会員は御参聴相成度候也。

五月 愛知仏教会本部

**八事山**〔明治24年5月18日 第五十四号〕

八事山は名古屋の東二里斗にあり山に寺あり、興正寺と号す。茲に掲ぐる図は、広路村招魂社下より其の塔尖を望む図なり。寺は遍照院とも号し、真言宗和泉国大鳥郡大鳥山神鳳末派なり。元禄元年八月二十八日国君の建立にして弘法大師を開山とし、天瑞比丘を中興とす。山は東西の二山に別ち、東山には大日如来を安置し、古は高野山に準ひて東山の中腹山門以内を女人禁制とせり。現に有無縁の石塔数基ありて高野奥の院に似たり。東に開山堂、鎮守殿あり。西山には馬頭観音を安置す。其他能満堂あり。五重の大塔あり。又春秋の際は遊山の客踵を接す。総て東山遊ひと云ふ。又簞の生するを以て簞狩に適せり。

**授戒会**〔明治24年5月18日 第五十四号〕

愛知郡弥富村大字中根宝蔵寺に於て、来る本月十八日より廿四日まで授戒会を営む。戒師は名古屋市上前津町長松院住職水野道戒師にて、同師には当夏江湖会をも挙行するの由

**法会と演説**〔明治24年5月18日 第五十四号〕

予て報導せし如く、本日は七小町普蔵寺に於て大般若經転読、午後演説にて出席、広間、伊藤、水野、近藤の諸師、明十九日には松山町梅屋寺に於て午後一時より羅漢尊供養及演説出席員前項諸師、亦廿一日には下奥田町西念寺に於て、午前盛大なる祖師降誕会を修せらるゝ計画にて、午後は演説を催さると云。亦十九日午

後六時よりは塩町原兵一郎氏宅に於て仏教演説を催さると云ふ。

### 熱田通信〔明治24年5月18日 第五十四号〕

愛知郡熱田町大字白鳥法正寺住職吉田義道氏は当夏江湖会を修行せられ、去る二日には上堂大問答あり。翌三日には首座の法戦あり。五日よりは生駒円之師戒師にて授戒会を啓建せらる。申込の戒徒は已に百五十余名なりと云へは、定めて盛況なる可し。○又同所月笑軒住職明達慧等氏も当夏白鳥山主大島天珠師を西堂に請し江湖会を修営し、来十二日に上堂大問答并に説教を開筵せらる、と云へは是亦盛況なる可し○熱田仏教青年会にては、大懇話会へ出席の石上北天、加藤恵証、堀内静宇の三氏名誉員たることを承諾せられたり。尚近日より規模を拡張し、派出演説をなし、会員募集に尽力し一層本会の隆盛をなすの計画中なり。○仏教会熱田支部は会員証の門戸標をも調製し、最早三分の一は家々に貼付し、随分盛大に赴き有益の事業も興る可き兆候なりしに、近頃は兎角因循の姿となり、有志の僧侶は其不振を痛歎し居れり。

### 本会派出演説〔明治24年5月18日 第五十四号〕

○今十八日午後二時 松山町 梅屋寺  
下奥田町 西念寺  
○来廿一日昼夜

右の箇所にて開会候条付近の会員は御参聴相成度候也

五月 愛知仏教会本部

### 曹洞宗中学林役員の改撰〔明治24年5月25日 第五十五号〕

全宗学監を六名と定め、此頃所轄内寺院より投票を纏集し撰挙会を開かれし由。今其の報告を得たれば、

明治廿四年五月廿日中小学林学監投票開緘顛末左の如し

愛知県第一号曹洞宗務支局所轄寺院

総計六百二十九箇寺

内百三十六箇寺投票棄権者

総数四百九十三票 内白紙二票

正票四百九十一票

三五二 龍桑巖 一三三 小寺黙音

二九七 阪井龍仙 九七 梶川賢明

二七二 織田宝山 九三 山本珀芳

一六一 持永真応 九一 温嶽耕堂

一五一 水野道秀 八三 近藤隆成

一五〇 鈴木泰量 七四 村田大音

以上当撰者

一三九 田中見門 七四 菅 器玉

一三三 青山鶴堂 五五 岡部万中

五〇 暮石普門

四十一票以下一票迄 得票者 七十五名

右之通り相違無之候

取締 生駒円之印

以下立会人列名印

○役員撰挙の結果 別項記載せし如く曹洞宗務局に於て役員撰挙会を開き、夫々当撰者へ通知書を発し、既に本日午前八時より当撰諸氏には執務上の協議会を開かるゝ由なるが、本社々員水野道秀も当撰せり。去れど今回の撰挙は予め支局より適任候補者十余名を定め、之を所轄内寺院へ配付して撰挙せしめしとの事なるに、社員水野の如きは其の候補者と云ふにもあらず。殊に目今は愛知仏教会の常務を監掌し傍ら本社業務にも関係しをる程の事なれば、今回の役員は勿論辞する考へなりしか、学事の盛衰は其の宗将来の榮枯に係る重大なるものなれば進んで之に当るべし。殊に候補者以外の者にして当撰せらるゝ如きは其の名譽も余りありとて、社員は勿論同宗内にて奨励せらるゝ人々多きを以て、又其の好意に酬る為め一層尽力すべしとて漸く就職する事に決定したり。

#### 牧野神爽師〔明治24年5月25日 第五十五号〕

大谷派に於て学徳共に高き同師を聘し、去る廿三日午後より巾下法蔵寺に於て、廿七日午後より押切の養照寺に於て孰れも説教を開筵せらる。

#### 法苑学会の講筵〔明治24年5月25日 第五十五号〕

当市裏門前町総見寺前なる光勝院中にある同会には、曾て持永真応師を聘して八宗綱要を講せられしが、去る二十三日より午後七時世分開講入阿毘達磨論を講せらるゝ由。其の傍聴は僧俗共に随

意なりと云。

#### 醍醐教会の演説〔明治24年5月25日 第五十五号〕

明廿六、日当小川町照遠寺に於て水野栄遠師を聘して午後一時より開会せらる。

#### 大須宝生院昇格願〔明治24年5月25日 第五十五号〕

過般、別格本山永寺格を允許せられし当市大須観音の寺門起立書及び略縁起は左の如し。

愛知県名古屋市門前町新義派格院

大本山智積院末 宝生院

当寺儀は、原と美濃國中島郡長岡庄大須村に開創して、開山能信上人は智徳群に越へ名声高く聴へ、御醍醐天皇深く御帰依被為在、元享年中天皇の御願によりて長岡庄に北野山天満宮を御勧請為被在、当寺を以別当職に被補 勅して北野山真福寺宝生院と号し玉ふ。其後相繼て 後村上天皇の御帰依により、正平五年十二月十三日摂津国四天王寺より弘法大師御作の正観世音を移し当寺本尊となし、永く 勅願寺たるへき 宣言を下し玉ふ。又 勅命を以て南都東南院二品聖珍親王付法の弟子信瑜を以当寺第二世となし 上御門二品任瑜親王を以第三世御継席に御治定被為在、則親王は永徳二年より四十一ヶ年の御住職にして伽藍の壮宏此の時最も全盛を極め勅使館の構となり、金輪坊と称し一山の繁昌無比類寺領三千石を有し、勢尾濃三遠信六ヶ国の本宗の寺院悉く末寺

となりぬ。又た 前大宰の師入道頼瑜法親王は任瑜親王の法資と  
ならせられ、印璽相承して被為在当山に御座爾来御代々 天皇の  
御帰依特に厚く、第七世任慶代宝徳二年五月十二日 御花園院天  
皇の勅命を以等身の弘法大師御影像を御寄付被為在、当時におり  
ては実に前頭六ヶ国の大本山たりしも物替り星移り、其後兵乱の  
為に寺領を掠奪せらるゝと雖とも織田信長公旧御門室の勝跡を貴  
て、更に知行五百石を寄付せられたるに此亦乱世の為に持続する  
こと不能。加之慶長十年夏五月木曾川大洪水の為に堂閣悉く流散  
し、当時の住僧荒遍頗る苦辛を嘗め、全十七年に至り徳川將軍の  
台命を蒙りて寺基を現今の地に移せり。雖然幸に本尊始め相承の  
聖教并に数通の 御倫旨及び和漢の古書等夥多の什宝無欠減、今  
に伝来して現に日本三宝蔵の一ト言へり。既に去る明治十六年古  
書数点被為在

天覧稀世の名品に被 思召候条 聖諭を奉職して堅固保護可致旨  
被 仰渡候且又維新の際神仏判然等の為に、大に末寺を減少する  
と雖とも今尚尾濃両国に涉りて門末六十五ヶ寺現存して寺格来歴  
共準別格本山の資格に於て敢て不都合の義無之と奉存候条、何卒  
特別の御詮議を以智山末寺の俣準格別本山に昇格之義並に御允許  
被成下度、因之別紙寺門の起立書の上本山副書を以此上願仕候也

# 右宝生院住職

明治廿四年二月 権少僧正 滝 実昇

檀家及末寺総代数名

真言宗長者

「能仁新報」よりみた名古屋の仏教(二)

## 大僧正原心猛

### 寺門起立書

愛知県尾張国名古屋市門前町

新義派格院 宝 生 院

一 創立 建久年中

一 開基 能信上人

一本 尊 正觀世音菩薩木仏御丈三尺弘法大師御作

但 御村上天皇の勅命により四天王寺より移さる

一 境内 二千五百八十二坪三合五夕官有地

一 公租地 五百廿七坪九合八夕 宅 地

此地価金四百七十五円六十錢

一本 堂 十間、十一間三尺 一棟

一 釈迦堂 五間、五間三尺 一棟

一 不動堂 二間二尺、二間三尺 一棟

一 太子堂 二間、二間三尺 一棟

一 聖天堂 二間、二間三尺 一棟

一 五層塔 方三間 一基

一 文庫 方二間 一棟

一 客殿 六間三尺、十二間三尺 一棟

一 庫裡 六間三尺、十二間三尺 一棟

一 仁王門 三間三尺、四間三尺 一棟

一 談林尾張国名古屋市長久寺町長久寺

一本 寺 大本山智積院

一門 末 六十五ヶ寺

一寺 格 四色着用地

但往古勅願寺にして親王御住職の勝跡

一法 流 建久年度より連綿相統

一移 転 慶長十七年美濃国より現今の地へ移転

一檀 戸 十七戸

一信 徒 無制限

右之通相違無之候也

右宝生院住職

明治廿四年二月 権少僧正 滝 実昇

檀家及末寺総代数名

**熱田に於ける破邪演説**〔明治24年5月25日 第五十五号〕

同地に於ては、近來又々邪教再燃の模様あるより、同地方の青年有志者は明廿六七の両夜破邪顯正邪教撲滅の大演説を開会せらるゝ由。

**本会派出演説**〔明治24年5月25日 第五十五号〕

本月廿四日午後七時より 皆戸町 真宗寺

本月廿六日午後一時より 南小川町 長全寺

本月廿八日午後七時より 大光院内 転愚堂

右ノ箇所ニテ開会候条、付近会員ハ御参聴相成度候也

愛知仏教会本部

**広告**〔明治24年5月25日 第五十五号〕

予テ帰省中ノ処去ル十九日發途上京曹洞宗務局ニ在勤致シ居候条此段仏教各団体諸君へ謹告ス

笠間龍跳

**曹洞宗学林協議会**〔明治24年6月1日 第五十六号〕

当市に設置せる全学林は既に報導せし如く新役員の協議会を開かれし由にて、今其の協議項目を聞くに、第一当撰学監は点数に依て中学林小学林両学監に区分する事、第二中小学林の学監は事務扱上は互に之を管掌する事、第三六名学監は満期に至るまで執務上に於ては連帶責任たる事、第四服務期限は十二ヶ月として第一期龍桑嶺、織田宝山、第二期水野道秀、阪井菴仙、第三期持永真応、鈴木泰量、第五交迭の順序は廿四年後半期は龍桑嶺、織田宝山、廿五年前半期は龍桑嶺、水野道秀、全後半期水野、阪井菴仙、廿六年前半期阪井持永真応全後半期は持永、鈴木泰量廿七年前半期は鈴木、織田宝山、第六学監は隔月廿五日学林に参集して百般の協議を遂る事、第七俸給及臨時費の件、第八学監は都て配下寺院を代表するものなれば支局は第四号達書に基き服務中は取締の顧問に為し、且つ取締執務上の事件に付き都て回覧を要する等の如き件々迄協議し現取締生駒円之氏か不在故帰局次第事務の引継し成す筈なりと云。



# 祈祷大般若〔明治24年6月1日 第五十六号〕

過る廿八日、門前町大光院に於て全院住職笠間龍跳師が疾病平愈の爲め、全師の徒弟石田溪龍、渡辺龍輔信澄及随徒の諸氏か発起となりて修行せられしか、全日は例月明王殿縁日にもあり帰依の信徒方も多く参集せられ最と静肅たる祈祷会なりき。因に記す笠間老師には、全宗臨時会の爲め病を推して上京せられしか日を逐て快氣に向はれしとよし。

# 演説と法会〔明治24年6月1日 第五十六号〕

来る四日、上堀川聖蓮寺に於て午後一時より宗建会の爲醍醐教会仏教演説には弁士として石川穰然、水野栄遠、大島寛通外数名にして、妙善寺住職浅井潮鮮師は説教をさるゝ由。尚五日には橋詰町円頓寺に於て身延山本延寺日修上人の追吊法会を営まるゝ由にて、有志寺院五十余ヶ寺の住僧は出場せられ説教等も行はるゝ由。

# 愛知仏教会記事〔明治24年6月22日 第五十九号〕

## ○会員区 第七区 第八区

右区域内本月十四日より向ふ一周間内に会金纏集の爲め本会より使丁差出し候条、此段報告す。

○本会の事業として、当市内貧窮者に限り施療施薬の義実行致すべき筈に評決致し候条、本会々員近傍の貧窮者にして情状愍然なる者へは本会々員区担当奨励委員及理事並各宗寺院に於て其の事

実を視察し本会本部へ通知に相成候得は、本会は直ちに施療施薬の券状を授与し、又は其の情状に依て医師を派遣して懇切に治療を成すべし。此段報告す。

但し、本会の主義を贊助して自ら進て慈善業の任に当らるゝ医師諸君の姓名は遂て能仁新報に於て報告すへし。

## 愛知仏教会本部

# 榊原栄蔵氏の葬儀〔明治24年6月22日 第五十九号〕

全氏の実母園子は仏教篤信の老尼にて、此頃中病床に臥せられしか医業その効を奏せず。過る十七日六十九年を一期として卒せられし由にて、全十八日同家出棺、納屋町通りを下へ日置橋を東へ旗屋町浄土宗法然寺へ埋葬せられたりしか、今其概況を記せば行列には長谷川、蜂須賀、村滝、山本、原、杉浦、伊藤、仁村、松山、商報社、三井物産社、消防組、其の他諸氏等より四十余対の生花を列し、榊原店中よりは大籠に生花を裁し四人掬を成し、亦愛知仏教会よりは六根色の大仏旗二流を持せしめ高張二対、紙蓮花一對、迎僧四人、尼僧三十余人、靈棺、喪主、親戚、会葬者等なりしか、葬場は三導師にて大導師は住職弁明、師左右導師には栄国寺素南師、極楽寺觀逸師、其他二十余名也。亦諷經には大光院笠間龍跳師、龍梅院、光明寺、宝殊院、安清院、養照寺、愛知仏教会代表として全宗高岡亮音師、亦伊藤寛典師及社員水野道秀、広間隆円も参列したり。会葬者には米商会所役員吉田頭取代理者及長谷川、村瀬、山本其他大野、伊藤、渡辺、蜂須賀の諸氏

を始め無慮七百余名にて三成社主岡上氏本社の中村も会葬したりしか、最と静肅たる葬儀なりき。

#### 育児院総会〔明治24年6月22日 第五十九号〕

全会は過る十九日県会議事堂に於て全会を催されしか、当市及各郡地の会員には続々参集せられ、午前十時総員九十二名議場に列し院長岩村知事代理の口演あり。議長は片野東四郎氏にて、会計の報告より全院新築工事等数件を議了し、最後に一同撮影して散会せしは午後四時廿分なりき、亦全夜大光院内に全院拡張の演説を開会せり。出席は第一富田耕治、第二伊藤覚典、第三内海共之、第四近藤疎賢、第五水野道秀、の諸氏にて参聴は殆んど七百余名最と盛会なりしか、全院は逐々寄付者も増加し、弥々本回は全院新築の事に可決せりと云。記者は斯く仏教者か活運動を成すに至りしを喜悅するなり。

#### 仏教会派出演説〔明治24年6月22日 第五十九号〕

一昨廿日午後七時より当市桜町本遠寺に於て愛知仏教会派出演説を開き近藤疎賢、石川穰然の二氏出席せらる。

#### 光円寺の廿四日講〔明治24年6月22日 第五十九号〕

来る廿四日開会せらるゝ同会は、例月の通り説教及び演説を開かるゝと云ふ。

#### 興教会〔明治24年6月22日 第五十九号〕

昨廿一日、当市南鍛冶屋町真言宗万福院に於て興教大師の七百五十回忌を修行せられしに付、同寺信徒の面々へ何れも非時の饗応を為されしと云ふ。

#### 演説〔明治24年6月22日 第五十九号〕

当市花車町浄信寺に於て、明後廿三日広告の通り演説会を開かれしに付、同寺住職羽塚慈音氏か工夫になりし大和楽を合奏する由。

#### 議官法師〔明治24年6月22日 第五十九号〕

議官法師と其の名も高き元老院議官なりし町田久成氏は前号にも新寺建立云々の由を記載せしが、此頃当地一泊の上上京せられし際、大須真福寺に立ち寄り同宗々務局各務恵実氏に面談されし由。今同氏よりの物語を聞くに、龜末なる木蘭色の袈裟を着し最と殊勝なる姿にて談話数刻に移り帰途自筆の絹地に白衣観音を画きたるもの一葉を遺し去られしか、同像には既に六百余の号数ありて丈三尺巾尺位の金銀泥にて認めありぬ。

#### 法要〔明治24年6月22日 第五十九号〕

去る十三日、当門前町善篤寺に於て県下三劔設楽郡長永田儼氏は公用を帯ひて来名の際、香華院なるを以て懇なる実父の法要を営まれし由。

**広告**〔明治24年6月22日 第五十九号〕

来る廿三日午後二時より 音楽合奏

演説及説教 於花車町 浄信寺

大田元遵氏

弁士 佐々木賢淳氏外数名

佐藤法忍氏

**大和光明寺伝法の名灸**〔明治24年6月29日 第六十号〕

曩に当市皆戸町真宗寺へ出張して多くの病者を治愈せられし大和光明寺相伝の名灸は、病症診察の上にて灸治をなして病根を和らけ、内は良薬を用いて其病毒を退治する奇法にして、又もや去る廿六日より七日間当市菅原町浄教寺へ出張の由。其功能は中風一生のとめ、せんき、かんしゃく、胃病、かつけ等に最も功ありとの由なれば、同病を患ひ悩まるゝ方は就て施療を受け玉へかし。

**法園会講義**〔明治24年7月6日 第六十一号〕

毎月八日、十八日午後七時ヨリ鍋屋町於円明寺開講ス。

出席講師 近藤疎賢氏 孝論  
伊藤寛典氏 原人論

**法園会講義**〔明治24年7月6日 第六十一号〕

同会は毎月八日講義会を催さるゝの定期なるか、来る八日には其の本部なる当市鍋屋町円明寺に於て開会せらるゝと云ふ。

**愛知郡通信**〔明治24年7月6日 第六十二号〕

兼て広告せし愛知郡島田村大字島田地蔵寺法会の概況は山門に教会の灯を掲げ、本堂前には東西より球灯を富士形に点し、庭の中央には五輪塔を樹て、其前には青砂摺の万霊塔を築き青竹の柵を以て囲み、六金色の仏旗を交叉し山門より本堂迄四十九院の五色幡を釣りにて莊嚴せり。第一日は午後二時より毛替地藏供養を（地藏堂にて）行ひ畢て本堂へ移り、浅井密成師の説教午後六時退散午後九時より説教を聞き了て地藏歎偈を唱礼し、午後十一時退散、第二日は午後二時より大布薩式を（本堂にて）行ひ（浅井密成君式師巴）説戒了て午後七時退散、同九時より夜説、十一時退散、第三日は午後一時無縁大施餓鬼を（本堂にて）行ひ、次に全国水害溺死者三回忌及三界万霊の大施餓鬼を修し、午後五時頃より庭の中央に築きし万霊塔を天泊川へ送り、川施餓鬼を修し畢て塔を焼き帰途に就けり。三日間昼夜共十方より遠近の道俗群参じ、境内殆ど立錫の余地なく頗る盛会なりき。

**法会及演説彙報**〔明治24年7月13日 第六十二号〕

当市宮出町永安寺に於て、明十四日大般若転読及説教△全南伏見町に於て、十五日午後七時より勇猛団員の破邪顕正大演説出席近藤疎賢、黒田安麻呂、伊藤慈眼△全十五日午後二時大光院に於て布薩会及説教、亦全夜七時より原人論講義△十六日午後七時より上宿興西寺に於て愛知仏教会演説、出席広間隆円外一名△十七日午後一時より松山町安齊院にて薩摩法会及説教△廿一日午後一時

宮出町永安寺にて大施餓鬼会及説教△全日午後二時より西春日井郡小田井村に於て明道会大演説出席社員広間、水野両員

### 勇猛団の演説〔明治24年7月20日 第六十三号〕

去る十四日、当市桑名町に於て破邪の演説を開会されしが聴衆堂に満ちしが、恰も耶蘇教会場の真向なりし為め一層の盛会にて、拍手喝采は流石に耶教徒も堪え兼ねしにや、未だ一二席ならざるに閉会せしは、慄れ氣の毒なる毎々の失敗。

### 仏教講義〔明治24年7月20日 第六十三号〕

午 起信論 第三 笠間龍跳師  
前 心経平談 同  
後 坐禅儀読講 伊藤文梁師

来る八月三日、四日 於門前町 大光院

### 法会及演説彙報〔明治24年7月27日 第六十四号〕

今明の両日、大光院に於て午後二時より吉祥講及布薩会にて両日共統て説教▲廿八日夜、全院内転愚堂に於て愛知仏教会演説出席数名▲八月一日、松山町安齊院に於て午後二時より祈祷大般若経転読及説教▲八月三日四日両日午後七時より、中市場町中村嘉兵衛宅に於て社員広間隆円師の法話▲過る廿五日温知会定期演説は参聴頗る多く盛会なりき、社員中村元亮氏は去る廿三日帰省す。

### 仏教演説〔明治24年7月27日 第六十四号〕

来る廿九日（旧六月廿四日）、愛知郡上中村妙行寺に於て清正公の祭礼に付醍醐教会員林鳳宣、石川穰然外数名、午後一時より仏教演説并説教を開筵し、猶同時宝物清正公の宝器古書等の虫扨に依り参詣人へ縦覧せらるゝ由。又全日丹羽郡定水寺村妙泰寺にて日朝上人正当会に際し、全醍醐教会員大島通寛、水野栄遠外数名午後二時より仏教演説并説教開筵せらるゝ由。

### 総見寺の新築〔明治24年8月3日 第六十五号〕

全寺の信長公祠堂殿の新築工事は、遂に其の工歩を進め目下既に建前もすみ、両三日中に屋根廻り葺き上げとなる由。全工費の義捐者も続々ありて一大美観を呈するならんと云へり

### 唱道義会第三周年紀念会〔明治24年8月3日 第六十五号〕

当市古渡町青年諸氏の組織に係る全会は、創立第三年の紀念会として其の本部なる伊勢山町昌善寺に於て、来る五日午後一時より紀念式を挙行し、全夜七時より橘座に於て仏教大演説会を催さるゝ由にて、出席弁士には岡無外、本多善明、小杉陶蔵、近藤疎賢、萩倉耕三、社員水野等の筈にて本社へも招状を送られたれば、参席の上次号に報導すべし。

### 愛知仏教会演説〔明治24年8月3日 第六十五号〕

本市松山町曹洞宗慈眼院に於て五日午後三時より全演説を催し、

社員水野、広間の諸氏出席せる筈なりき。

### 曹洞宗婦人会〔明治24年8月3日 第六十五号〕

本回大光院住職笠間龍跳師は、大に近來市内の豪商紳士等の婦人にして宗教感化の何たるを知らず、稍無宗教に流るゝ傾きあれば之を挽回せん者とを、此頃中婦人会組織に熱心せられしが、今全会の方法を聞くに毎月二回会員は其の会場に参集し、会員一定の礼拝式を成し続て講師通俗的の法話を成し、次に仏経誦誦、次に仏教中仏語の質義等にて散会せるの事なりと云ふ。既に入会申込者あれば多分盆後に発会を挙行せらるゝと云ふ。

### 加藤林造氏の供養〔明治24年8月3日 第六十五号〕

名古屋市東田町加藤林造氏は蚕問屋を営業せられしために多くの蚕を殺したるため、其供養を願徳寺にて修行す。

### 感心な事〔明治24年8月3日 第六十五号〕

蘇鉄町宿屋業石黒金松氏の發起にて同業者及宿泊人一般義捐を募り、廿三年四月より男女十九名当市白川町椋取院へ仮葬者の為八月五日を卜し、市内建中寺丈室を招請し大施餓鬼を修行すと実に感心の事なり。

### 曹洞宗学林修業証授与式〔明治24年8月3日 第六十五号〕

当市裏門前町万松寺に設置せる全学林へ過般來試験中なりしが、

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

過る廿九日各学生の修業証授与式を挙行せられたり。当日午前九時全学林職員及学生一同講堂に参列し、監理代学監龍梁巖氏起て該式を挙行する旨報告し、順次各学生へ証状を授与し織田学監の演説、次に英学教諭内藤万治氏の演説、次に社員水野道秀も祝詞に代へ修学の方針を述、次に橘教師の簡短なる演説ありて散堂の上一同に祝賀ありしが、当日修業証を受けし学生は左に、

中学林科一年級 鈴木敬岳、岩山家山、森川泰麟、塚本証玄、石川仏如、竹内黙音、山田活禪、横井龍吟、伊藤遼禪、中村禪苗、鈴木点笑

小学林全科卒業 畔柳斧山、安藤聰鮮、森達道東、大路鉄門、近藤道賢、後藤元鼎、谷口徳成、玉置俊透、西山法純、野呂天外、八尾泰能、伊藤戒芳、梶原鶴童、太田快順、大倉拙龍、加藤確翁、山田諦心

全二年級 石田克明、桜井耕雲、中西宏道、斉藤智昇、若松留旨、桑原田成、奥村祖道、長谷川禪棟、木村文翁、虫賀玄亮  
全一年級 水谷良禪、日比野源成、荒谷心光、村田靈道、鬼頭偉運、児塚大旬、横井鉄門

亦全日、各級優等生にして賞与得し学生は一等賞鈴木敬岳、二等賞岩山家山、三等賞森川泰麟亦小学林全科卒業生にては一等賞畔柳斧山、二等賞安藤聰鮮、三等賞森達道、全二年級にては一等賞石田克明、二等賞桜井耕雲、三等賞中西宏道、全一年級にては一等賞水谷良禪、二等賞日比野源成、三等賞荒谷心光等にて何れも賞品として内外の書籍を受領したりき。亦全学林秋際より欠員生



徒を募集し、林規を厳密にして一層薫陶に注意を加へらるゝと云ふ。

### 私立小学林試験〔明治24年8月3日 第六十五号〕

松山町安斉院には昨年九月より全学林を創設し、学生二十余名は孜孜励学怠らざりしが、弥本月六日頃より大試験を執行せらるゝと云ふ。

### 仏教講義〔明治24年8月3日 第六十五号〕

午 起信論 第三 笠間龍跳師  
前 起信論 第三 笠間龍跳師

午 心経平談 同

後 坐禅儀読講 伊藤文梁師

来る八月十五日、廿七日於門前町 大光院

### 曹洞宗巡教師大会〔明治24年8月10日 第六十六号〕

愛知県第一号曹洞宗務局下には全管下限り、巡教して自由に布教伝導すべき資格を有する全宗僧侶四十余名及全宗の布教拡張の専務に当り布教係と称する者亦四十名程ありとの事なりしが、此の多数の巡教師及布教係か其の意見区々にして布教伝導の行届かざるは勿論の事、亦近時党派及管長撰擧等の感情の爲め一県下の布教伝導を等閑に付するは残念なり。依て此の布教伝導の枢要に当る巡教師及布教係等の大会を催し、漸次全県下に全宗の布教伝導

を盛にせしものとて全宗の織田宝山、山崎眠龍、伊藤覺典、坂井煊仙、近藤疎賢、鈴木泰量、辻本玉乗、水谷貫之、雉本東隣、寺本賢瑞、佐藤煊閔、後道実道、近藤覺禪、中島禪友、益山慈照等の諸氏が發起として不日大会を開かるゝ計画なりと云ふ。

### 私立学林試験〔明治24年8月10日 第六十六号〕

前号に記せし当市松山町安斉院に設置せる曹洞宗小学林は、過る六七両日大試験を挙行せられしか、当日は監理兼教師野々部至遊、漢学教員和田丹斉、英学教員鈴木富二、数学歴史教員奥村初太郎等立会、因に学生父兄及隣寺等も參觀し頗る盛挙なりき。

### 学師死去〔明治24年8月10日 第六十六号〕

大谷派本願寺の学師にして当県愛知郡松葉村字四女子徳本寺住加藤法城師には、昨年来肺患にて京都にて治療中の処、今春に入り頗る快氣の模様ありしに付只念其全愈を希望せしに、四五月より病勢一変、去月下旬に至り医師も危篤を報ずるに至り、其廿八日には学階一級を進め特に三等学師の称号を付与せられしか、其三十日午後四時頃に至り遂に薬石の効を失し遷化せられ、同三十一日花山なる火葬場に荼毘したる趣き、本葬は当地にて行はるゝ由、又右死去に付ては本山より五十円の葬資及び法主親筆の院号を下賜せられ院号は恭慎院と称する趣き



# 浄土宗愛知支校の新築〔明治24年8月10日 第六十六号〕

去月八日より三日間、当門前町阿弥陀寺に於て愛知宗学支校聯合部内学務委員の會議を開き支校新築を可決し、明治廿五年七月より新築事務所を建中寺山内に設置し、建築委員長一名、建築委員二名を置き、連帶責任を以て其事務に当り、係り員は学校委員會に於て撰挙し、工事は入札法を用ひ相当の保証金を納めしめ、尚ほ事務所設置までは一切の事務を校長幹事に依嘱する等の細則を定めたり。又其新築規約なりといふを聞くに左の如し。

## 愛知支校新築規約

明治廿三年愛知支校聯合学務委員會に於て当校新築の件を議決し、玆に左の条件を規約す

第一条 支校は名古屋市筒井町建中寺境内に新築する事

第二条 支校新築は来る明治廿五年中に着手し、全廿六年十月を期し落成せしむる事

第三条 支校新築予算金三千五百円とし、聯合五大教会部内各寺院並に檀信徒より徴集する事

第四条 前条予算金額分担を定むる事左の如し

- 一金二千円也 愛知大教会部内
- 一金五百九十円 三重大教会部内
- 一金四百五十円 三河大教会部内
- 一金三百七十円 静岡大教会部内
- 一金九十円 岐阜大教会部内

第五条 支校新築に係る出納諸般は、第十一国立銀行に依托し総

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

て処理せしむ

第六条 第四条各部内負担金額は左の割合にて大中教会所の名義を以て主任銀行へ振込むものとす

明治廿四年十二月三十一日限り 三分一

全 廿五年十二月三十一日限り 三分一

全 廿六年十二月三十一日限り 三分一

第七条 支校新築に係る金額は何等の場合あるも決して他に流用する事を得ず

第八条 支校新築に要する細則は、来る明治廿四年学務委員通常会に於て之を規定す

第九条 支校新築賦課金徴集方法は各大中教会部内の適宜とす右規定候也

愛知支校学務監督深見志運、全校長武田芳淳、愛知大教会学務委員中条大熙、三重大教会学務委員常住靈穩、全大野法音、全吉水靈信、三河大教会学務委員清水愍海、全近藤学丈、静岡大教会学務委員泉寛啓、全浅井天察、岐阜大教会学務委員松尾学翁。

仏教講義〔明治24年8月10日 第六十六号〕

- 午 起信論 第三 笠間龍跳師
- 前 回
- 午 心経平談 同
- 後
- 午 坐禅儀読講 伊藤文梁師
- 後

来る八月十五日廿七日於門前町 大光院

### 明教記者〔明治24年8月17日 第六十七号〕

全記者は過日、全誌誌報欄内に吾か愛知県地方の曹洞宗信徒吉祥講の諸氏は、本回の全宗貫主撰挙件の紛擾に就き運動すべき旨に報導せしが、吾曹か本県下各処に就て該件の模様を探究するに、遂に何等の影跡たに見る能はず。亦た本県下全宗寺院も本件に就きては何等の運動もなきなり。因に記す。既に前号に報せし如く本県下全宗の重なる諸氏は只管布教伝導の普及に熱心せられ、目下全宗の伝導大会の準備に余念なきものゝ如し。咄……何者の狡児か彼の虚構の説を報す。

### 法会及演説彙報〔明治24年8月17日 第六十七号〕

本日午後七時より本市上宿興西寺に於て愛知仏教会演説出席員一柳智成、佐々木祐繼、社員水野▲廿一日午後三時より本市東瓦町威音院に於て大施餓鬼会及演説出席伊藤寛典、水野▲廿二日午後二時より本市松山町安齊院に於て大施餓鬼会及説教▲全日午前十時より全七小町普蔵寺に於て大施餓鬼会及説教

### 慈悲善行論〔明治24年8月17日 第六十七号〕

去る九日、名古屋市東田町乾徳寺にて全町加藤林三郎、木曾上松の樋口義一の両氏が發起し蚕供養として大施餓鬼を施行し、続いて愛知仏教会派出演説を開会の節出席弁士中伊藤寛典氏の

演説大要は左の如し。

今晚は樋口義一、加藤林三郎の両君より愛知仏教会へ派出の演説をせよとの事に因りて吾輩も出席するの光栄を得ましたは真に喜敷く御座います。然しながら其の光栄に報ゆるの迂俗の力量なきは甚だ慙愧です。乍去御来聴の僧僧君子よ。吾輩は幸に仏祖の加被力を蒙り居れば、其の加被力に由りて述ぶる所の亦心丈けを賛成し玉はらば幸甚、切て演題は慈悲善行の一理と云へるのです。か、仏教では慈悲と云ふ事には大略三段の判談があります。第一を有縁の慈悲と云ひ、第二を無縁の慈悲と云ふ。第三を法縁の大慈大悲と申すのですが、この弁明を詳細に致しますには数席を重ねなければ出来ません。吾輩の無学短才では幾席重ぬるも到底六ツケ敷あります。(ノウ／＼) 依て余りあつかましひことながら、私は簡単に私一己の考へを申述るに過ぎませぬが、抑も目下の社会の慈善事業は往昔よりは余程縮だと云ひますが、私しが考へても全く縮退して居ますと存せられ升。(ヒヤ／＼) 就ては慈悲善行とは形体上に關係しないと云ふことなれども、思ひの外に現はれる者です。丁度錐を囊裏に包む様な者で、内に慈悲心あれば自然と我身修まり平素の言語もやわらかで社会交際上の礼式も能く調つて自を愛し他人をも恵むの慈悲善行が漸々進歩すれば仏教に謂へる四摂法に契ひます者だ。(謹聴)

名古屋不実でない名古屋風は実だからこんな事はあるまいが、他所にあるとか風聞する某商会の頭取とか取締とか、又は某銀行の役人とか支配人とかゞ何かごまかしたとか奸策を廻らしたとかの

結果は、竟に経済社会の厄難否国民は多少の災害を蒙れりと云ふことです。玆に一の話しがある。昔し或る山中で一日夫婦に一歳程の男子と親子三人が畑の耕作にかけ路傍の簀の中に子供を入居いて夫婦共に無二無三と小麦に培しつゝ、小供を看れば、豈図らんや大なる鷹が一人子の男子を両足で掴み羽打ちて天外に飛あがらんとするところ、アト一声囁叫ぶや否や両親諸共に一生懸命となり後より逐いかけたものゝ如何せん彼の鷹は何国へか其の男子を掴み去たと申事がある。又近來一種弁口めきたる人ありて質卜なる良民が血汗を絞り出したる一代生活上の基本財産則ち生命とつり合の預け金、又は株券などを掠奪同様の目に合せるとは彼の鷹の子供を掴み去ると一般で無慈悲の悪党者と云ふても敢て過言ではあるまい。是等を慈悲善行のなひ奴と申す或人の謂へるには慈悲善行即ち徳義などのことは商法人より見れば少しも関係なくとも宜しい。只管ら掛引と先見を以て狡猾に立廻れば壘斷の利益ありと申すが、吾輩の觀念は是れに反対です。決してソーデない所謂慈悲善行即ち徳義ほど必用のものはあるまい。如何んとなれば商法人ほど社会に交際の広いものは他に類がないと存じます。吾等人間社会には独立と云ふことも肝要なれども、万一にも独立さいすればよいと云ふて孤島に住居して独りで他に人がなくば商法は出来ない。例して謂へば此の扇子は十錢だと云ふとき客がモ―少し負けんかと問ひしに値段が高くばおきやかれと答へたらナント商法は出来まい。然のみならず、毎年之初売の日には諸君始吾等まで初荷とやらで、尋常の買先きより酒樽味噌樽溜樽

「能仁新報」よりみた名古屋の仏教（二）

密樽等の各種の物品が殆んど山を成さんとするでしよ、然るに晦日勘定の砌りにも双方の間に強売したから銭は払はぬなどの激論は未だ聞た事かない。就中当市鹽町にもある米商会所仲買人の店にて諸方の客か数百万円の売買をなしても只に仲買人の手帳に記載する迄にて、客に半切の先にも受取は出さんけれども勘定期限数ヶ月を経過するも貸借の異論はないが、これぞ全く徳義の帳簿に塞り筆硯に満ちるのである。如是慣習否徳義か社国万民かまねをしたれば、警察官吏は鞅を脱き喉を掴みて日送りし裁判官吏は手を垂れ足を交つて居睡りで俸給を戴き、恰も太古結繩の政府もまだ愚か真の文明世界即ち仏教に所謂寂光浄土の現成です。してみると商法人には慈悲善行即ち徳義は必要でなきが如く、思ふものは夫れは未だ道德の顔を知るので商法人の道德は即ち斯くの如きものです。然るに商法人相互にして今日の取引も明日に至て其んな契約は無ひだの押売だから払ぬのなど、謂つたなら丸で社会は暗であり升。（未完）

#### 和同協会の演説（明治24年8月17日 第六十七号）

来る廿日午後二時より当清水町開闢寺に於て開かるゝ同会の演説は近藤疎賢、萩倉耕蔵、梅原薫山の諸氏出席の由なれば相変らず盛大なる事ならん。

#### 目玉を掠（明治24年8月17日 第六十七号）

掠にあらで桜町にありと聞へたる真宗某寺の和尚、否俗尚は過日

〇〇の末本社に來り手前方の新聞は去月限りで断つ筈だに、其の後も相変わらず以て來らるゝは一体合点が参らぬ（筈だ）。此の前者其俣歸した筈だに今度も亦々配達するとは不都合千万だ。決して錢などは払ひはせぬから以來詰度注意せよとの厳命に、出版係は大閉口で子細を會計に話し、と會計は無論無料で施す図りだチト感化する様に筆を執れとの仰せは編輯局も随分困難な役です。

### 仏教講義〔明治24年8月17日 第六十七号〕

午 前 起信論 笠間龍跳師

午 後 心経平談 同

午 後 坐禅儀読講 伊藤文梁師

來る八月十五日、廿七日於門前町 大光院

### 森田悟由師の略履歴〔明治24年8月24日 第六十八号〕

今回將に曹洞宗の管長に就かれんとする悟由師の略歴を記さば、師は天保五年二月尾陽に生れ、同十二年秋七才にして名古屋市門前町大光院廿八世龍山泰門和尚に就き初て出家得度の式を挙げられ、後幾許ならずして其師泰門和尚は遂に遷化せられしかば、師當時泰門和尚の嫡嗣にして全市禪芳寺に住せられし某和尚の許に安居せらるゝ数年、時に全市紳商森本善七氏は非凡の大器なるを看破し、自ら親戚となりて學資を給し、百般の世話をなせり、と

師は之に依て當時尾張侯の碩儒にして明倫堂の督學たりし塚田先生の門に入て數年皇漢の學を修め、後嘉永五年春より東都駒込吉祥寺の學寮に在る、亦數年にして安政三年の頃より故管長たりし奕堂禪師に上州前橋の龍海院に参し、其他四方に参禪苦學せられしは枚挙に遑あらず、後加州金沢の龍徳、玉龍の二寺に住せらるゝも常に奕堂禪師の補弼とし、其左右侍せらるの久しきは世人の知る所にして、爾後明治八年今の金州天徳院に住山せられ、自ら七八十個雲侶水子を提携して四方に赴化せられ、曾て一行の有漏染汚生死に渉るなく金錫の巡る所三草二木、其の沢を蒙らざるなし。実に欽慕に堪へざる高德の師と云ふべし。今は法臘既に五十八なり。

### 少年会〔明治24年8月24日 第六十八号〕

当市門前町本願寺別院内少年教会にては、規約を改定し會員研究部を置き、講師を増聘し毎日午後四時より仏教、英學、數學、和漢文、地理、歴史等一般少年子弟に必須の普通學科を講究せしめ、専ら愛國護法の継統者を養成せんとせらるゝが、本月一日には會員章牌授与式を挙行し來賓職員等の祝詞演説あり。翌日有志會員は講師と共に知多郡大野村へ修學旅行をなし、又二日より二十日迄は夏期休會せられ、二十一日より始業せらるゝ由。少年子弟にして入會望みの人々は廣告にある如く、本月三十一日迄に全會事務所へ申込まるべし。尤も当分の中仮講堂にて狹隘なるを以て講習生満員は百名を限ると云。

**曹洞宗愛知中小学林**〔明治24年8月24日 第六十八号〕

全学林は夏期休業にて久しく鎖林なりしか、弥々九月三日より始業をせらるると云ふが、曾て本紙に記せる如く全林は今秋期よりは前教師橋成典氏は多年在職にて住職地且方より頻りに休職帰寺を促せし故、一と先づ辞任帰寺せられし事にて、其の後任として大小学林卒業生にして有名なる原坦山老師の門下に頭角を顕せし山内宗弘氏（本県出身）を聘し、其の他英数二科の教員にも交迭ありて秋期より一層林規を厳整にし、教育事業の進歩を計画せらるると云ふ語を寄す。学生諸氏よ秋期は学期年度の起点と聞く、諸氏か之より万重の峻山を踰ゆる起程たり歩々着実に拮据黽勵之を最めよ之を勉よ。

**浄土宗愛知支校**〔明治24年8月24日 第六十八号〕

全校も夏期休業なりしか、弥々九月一日より授業せらるると云、全校も役員諸氏の精勉にて大に面目を革新せらるると云ふ。

**真言宗当市中学林**〔明治24年8月24日 第六十八号〕

長久寺内に設立せる同校は目下三十四名の生徒を有し、去る二日全科卒業再試験を行ひ、大学林主管滝僧正の臨監を得て卒業証書を受与せられしは近藤果賢、宮崎恵真、安藤恵空、横山大宝、中西諦亮、近藤栄成、岩田大法、三谷融学の諸氏にして僧正の訓示あり。横山、中西、岩田諸氏の答辞ありて最盛なりきと云。

**森田悟由師の美德**〔明治24年8月24日 第六十八号〕

同師は別項に記す如く最も勢力ある候補者なるか、曾て或る熱心なる一党派の有志家か遙々目下師か布教前きなる越中国に赴き、若し貫主に当撰せし際には必ず辞職すべしと勧告せしに、師は温顔微笑貫主などの尊貴な位置は決して望なしと語られしとの事は、既に確たる処より聞及ひしか頃日、投票開緘に際し全師か成規に随ひ鄭重に認められし投票は西有穆山殿と在りしを見て、流石に其の反対派の立会人迄も其の度量の寛闊なるに驚嘆せりと師が洒々磊々として胸中万斛の船を浮る余裕沢々たるは、曾て記者躬ら参得して認むる処なりき、之に引替へ西有穆山師の投票は全派の北野元峯氏（東京青松寺住）を撰挙せられたりとの風説を伝ふ。此の風説にして信なりとせば、吾人は西有師の為に悲まざるを得ざるなり。然れとも静岡県二号支局は投票不正の為に全体破棄せられたりとせば風説は全く……の風説ならん風になれ風になれ……

**石川素童師**〔明治24年8月24日 第六十八号〕

目下紛擾なる曹洞宗執政者として百方より其の焦点に当り頻りに非難を受け亦頻りに賛助を博せらるゝは則ち全師なり。師は本県出身の人物にして、曾て本市南小川町泰増寺住職たり後、彦根清涼寺住職に転せらる。師の性行温淳、質朴松柏的の人物より寧ろ楊柳風の才子なり。師にして今日の百非難を受けるは師の為に吊せざるを得ざるなりと市人より。



**夜講**〔明治24年8月24日 第六十八号〕

来ル九月二日三日午後七時ヨリ

門前町大光院ニテ

起信論第七回 笠 間 龍 跳

**広告**〔明治24年8月24日 第六十八号〕

毎月十五日廿七日午後七時ヨリ

原人論続講 門前町大光院内

仏教会講義 転愚堂ニ於テ

**愛知仏教会派出演説の概況**〔明治24年8月24日 第六十八号〕

一昨廿九日当市橋詰町笑福座に催されし全会の模様を記せば、午後六時頃より参聴者は続々詰めかけ全七時に至り満場立錐の地なき程にて殆んど一千三四百名と見受たり。全日は全座の前に大國旗二流を翻し、場内には二千燭の弧光大電灯を点し燦然として昼の如く江尻深海（国宝論）伊藤寛典（慈悲善行論）梅原薫山（仏教の前途）近藤疎賢（真正の宗教）にて、社員水野も出席将来の仏教と題せるを演せしか、各弁士の演説中は場内頗る静粛として時々拍手鳴噪起り満場頗る感動の模様あり、近來の盛会なりき。

**大神菩薩とならんとす**〔明治24年8月31日 第六十九号〕

天爵大神との称を得られし水谷忠厚氏は、曾て国利民福を希図し頻りに各地に奔走し道路を開き橋梁を架設するに尽力せられし事

は人の知る所なりしが、近頃は思ひを仏教に傾け、頻りに仏母華提菩薩に依帰し、曾て有名なる村田寂順僧正に就き全薩陲の修法加持の伝授を得たりとて、既に一昨廿八日当市南小川町長全寺の法席に於て参詣人に向ひ、右の修法加持を行し懇切に祈念せられしか大神將に菩薩にならんとするか。

**広告**〔明治24年8月31日 第六十九号〕

来る二日、三日午後七時より門前町大光院に於て仏教夜講義

起 信 論 笠間龍跳

仏教講義

毎月十五日、廿七日午後七時より原人論続稿

門前町大光院内 転 愚 堂

**萩野独園禅師の来名**〔明治24年9月7日 第七十号〕

同師は昨六日午後四時着の汽車にて当市来名、右は当市なる高等官の招きに応せられし者にて、尚ほ明後九日には愛知仏教会にて同師を乞ひ法話を催さる由。又明八日は本社員にて同師を請招し、無門関の講義を聴聞する予定なり。

**真宗講話会**〔明治24年9月7日 第七十号〕

真宗講話会はかねて本部を当市押切町養照寺に置き専ら組織の準備中なりしが、会員も已に数百名を得たれば、去る三日午後第二時より本部に於て発会式を挙行せしが、其順序は第一点鐘にて大



和楽合奏会員着席し、第二点鐘にて発起人総代富田政次郎氏告白文を朗読し、次に創立賛助員富田順次郎、幹事総代小原与三郎、僧侶総代馬場広為等の諸氏祝辞を朗読し、最後に会員総代佐藤慶三郎氏答辞を朗読して休憩し、会員一同へは紅白の菓子を分与せり。第三点鐘にて大和楽合奏、次に権中助教牧野神爽師、正信偈講話二席を演述せられしか、会員及傍聴人等は堂上堂下に充満して全く散会せしは午後第五時なりき、又門前には八藤と六色仏光との二旗を交叉し、本会の提灯数十張を堂前に配置して意外の盛況なりき。

### 火箸傘となる〔明治24年9月7日 第七十号〕

曾て大火箸の木杵を以て名を轟したる熱田円通寺の住職羽休達閑は、円通寺ならで随徳寺まで度々やらかせしが、今回愈々檀徒過半以上の信用なき為、去る二日同宗本山より傘一本を申付られし由、是れでは定めし羽を休める所もなからん。

### 広告〔明治24年9月7日 第七十号〕

真宗法話開筵○毎月四日午後七時より当市中市場町中村嘉兵衛方にて講者

三等勸令使前田学師

愛知仏教会講義 毎月 五日  
午後七時より

三国仏法伝道縁起

講師 広間隆円師

### 仏教講義〔明治24年9月7日 第七十号〕

毎月十五日、廿七日午後七時より原人論続稿

門前町大光院内 転愚堂

### 広告〔明治24年9月7日 第七十号〕

本月十八日熱田新田ニ於テ川施餓鬼修行同日午前八時日置橋一町上ヨリ出舟候也

白川町 尋盛寺

### 熱田青年会〔明治24年9月14日 第七十一号〕

全会に於て、来る十六日午後六時より神戸町亀井山にて秋期大演説を挙行せらるゝ由にて社員水野か出席と云ふ。

### 愛知仏教会大演説概況〔明治24年9月14日 第七十一号〕

予て報告せし全会は、過る八日西別院対面所に於て催されたり。全日は全惣門前及中門に彩旗を交叉し席上中央に演壇を設け装置完備せり。第一開会の旨趣（近藤）本未忘る莫れ（荻倉）世界宗教の波瀾（東京中西元次郎）仏蹟復興に就き愛国と護法（西京江村秀山）仏教集合の中心（西京中西牛郎）等なりしか、就之元次郎氏は仏蹟復興の熱心家にして既に全件に就き外務大臣及英国公使等に面接して其の方法等を照会せし事より復興の急務なるを述

へ頗る丁寧なりき、亦秀山師は愛国と護法を論して今日の仏教者か異域に向て復興の事件に熱心し、此の実を挙るは我國權を張り國威を示すの一手段としても之を成すべきの事業なりと言辞平易頗る感情を与へたり。最後に中西氏は學問上の議論より懇切に本題の主意を布宣せられ最も感動を与へたりしか、既に日没し抵り稍降雨を催し帰途に就きし者ありしは残念なりき。参聴者には特に同会より発せられし招状を受け、来聴せし市内の豪商紳士始め殆んど九百余名と見受たり。

#### 愛知仏教会法話会概況〔明治24年9月14日 第七十一号〕

同法話会は過る九日午後二時より矢場町臨濟宗政秀寺に於て開会せられたり。今其の概況を記せば門前に彩色の大旗二流を翻し本堂の正面に高座を設け、聴て一時頃より参聴者続々参集し、高等官には八田少佐村地控訴院判事始め十数名にて参聴無慮男女五百余名と見受たりしか、開会の前に当て水野道秀開会の旨趣を述べ、次に荻野独園禪師高座に登り般若心経誦誦了て淳々法話を成したり、続て小憩の後臨濟録の講義ありて午後五時閉会されしか、全師は過る十一日帰寺せられたり。其の筆記は本紙に掲ぐ。

#### 曹洞宗中学林学監会〔明治24年9月14日 第七十一号〕

全学林は過る三日より授業を始められ、既に新入学生十六名ありて夫々入学試験をも執行せられ各級に編入済なりしか、過る十二日全学林学監諸氏は全林へ参集し三四ヶ条を協議し▲宗祖諱修法

の事▲体林生の為め特別試験する事▲教員俸給改革の件▲外数件にて午後四時散会せられたり。因に記す全学林は改革後、大に一般の学生は規律を嚴肅に恪守し頗る勉学の模様ありと云ふ。

#### 生駒円之師〔明治24年9月14日 第七十一号〕

曹洞宗永平寺貫主撰拳の立会員として、過般上京の処続いて加州金沢へ森田悟由師を請する為派遣を命せられ全地に赴れしか、既に別項にある如く師も就職を承認せられし故、生駒円之師には今明日中には多分帰寺せらるゝ筈なりと云ふ。

#### 修証義の講筵〔明治24年9月14日 第七十一号〕

昨年曹洞宗両本山にて編輯せられし曹洞宗修証義は、同宗在家信徒の化導法の標準にして同宗一般の僧侶は常に之を研究しをかざるは申迄も無きことなるが、多数寺院中には之を等閑に付するの傾きあればとて、伊藤覚典社員水野等か卒先して本市松山町安斉院野々部至遊師に就き、本月十二日より一週間午前九時より右講筵を開かるゝ由。

#### 授戒会〔明治24年9月14日 第七十一号〕

社員水野は曾て久しく故管長たりし久我環溪禪師に随従しをりしか、本回は其の鴻恩を酬ゆる為め南小川町長全寺に於て十月十七日より一七日間授戒会を執行して故大禪師の追善を修すると云ふ。

**川施餓鬼**〔明治24年9月14日 第七十一号〕

来る廿日午前八時出船（雨天順延）、例年之通熱田前新田に於て諸国天災水害溺死靈魂追福の為川施餓鬼を修行并に大和樂合奏出船、納屋橋との事なれば有志の徒参詣あられよと当市東門前町西蓮寺より報知せらる。

**デモ和尚**〔明治24年9月14日 第七十一号〕

当市矢場町曹洞宗万年寺の住職某和尚は見出の通りデモ感心すべきは、御経の読売に熱心なるは流石、デモ和尚の布教に力を尽さるゝなれば定めて其筋の賞詞もあらんと知る人毎に賞し居るに是れは是れはデモ博愛主義か、近頃当市内なる耶蘇教者の死人を同寺に葬らしめし事の既に二度までも目撃せし人有りて、現に同寺内には天主子某墓と記したる者さへあれば紛れもなき事去り迎、同寺の墓地は総て仏教者のみを葬るべきに檀方も和尚も共にデモマー感するより外なし。

**本遠寺川施餓鬼の由来**〔明治24年9月14日 第七十一号〕

来る十六日、熱田本遠寺にて水済会と称し執行せらるゝ川施餓鬼の由来は、享保七年八月十四日熱田海浜に海嘯ありて多数者の死亡者ありしが、其後何となく海中異変の声ありて悲鳴頻りなれば城主徳川氏は右の異変鎮定の為同寺に命じて川施餓鬼の供養を行はしめられしを始とす。去れは旧藩時代には御用施餓鬼と称へ、其の筋の保護も厚かりしか本年も旧八月十四日即ち来十六日を以

て堀川筋より午後の十時を期し出船供養さるゝ由。

**大法会并説教法話**〔明治24年9月14日 第七十一号〕

愛知郡鍋屋上野村天台宗長養寺において、本月十九日梵鐘篤志者各君位追善供養の為め大法会修行終て説教法話弁士は尾頭金鋼、輪田勝澄外数名の由なり。

**仏教講義**〔明治24年9月14日 第七十一号〕

毎月十五日、廿七日午後七時より原人論続稿

門前町大光院内 転愚堂

**広告**〔明治24年9月14日 第七十一号〕

本月十八日熱田新田ニ於て川施餓鬼修行、同日午前八時日置橋一町上ヨリ出舟候也

白川町 尋 盛 寺

**笠間龍跳師の病状**〔明治24年9月21日 第七十二号〕

全師は今春以来兎角病に罹り不快勝ちなりしか、一時大に重症に至りしも爾後稍々快方に向ひ、為めに本社か囑托せし原人論も既に執筆せらるゝ場合となりしも、亦復近頃は病症一変し体格も余程衰弱し、此頃社員某が訪問せし際にも此の様子にては、当分執筆は六ヶ敷依て看客諸君に御断りを願たしなど頗る窮迫の様子なるも懇々宗教将来の事などを談せられしは感激の外なしと帰社し

ての物語なりしか、先づ全師の病状は殆んど危篤の場合に非されども甚た六ヶ敷容子なれば、何卒仏教の爲め師か一日も早く平癒あらんことを祈念して止まざるなり。

### 曹洞宗巡教師大会〔明治24年9月21日 第七十二号〕

曾て前々号に報導せし本県下曹洞宗の巡教師大会は、其の發起諸氏は各郡に在りしも、先づ其の發起人中より準備委員として伊藤覚典、社員水野等が幹旋せる筈にて既に其の準備も整頓の場合に運び、多分本月下旬当市に大会を催さるゝならん。

### 近藤疎賢師〔明治24年9月21日 第七十二号〕

全氏は活潑勇壯にして既に過般の貫主撰筆に就きても頗る奔走せられ、亦大谷派事件に就き裁判演説を開かれし事ありしか、近頃は感ずる処ありて将来は布教伝導の外、世の中の事は一切関せずと或人に語られしと雄壮なる氏にして果して之を守らるゝや否。

### 改良説教と女学校〔明治24年9月21日 第七十二号〕

当市なる真宗大谷派僧侶小桜諦善氏は、今回改良説教即ち立談にて塗板に賛題を書き示す等の方法を以て当市広小路辺に於て開場せらるゝ由、右に付鷲斎、千葉、智養の諸氏も賛助せられ、又非職陸軍歩兵大尉林陸夫氏は其の顧問となりて当市に一の女学校を設立さるゝ由、右二件に就ては専ら小桜氏が其の表面に立たるゝ、筈なりと云ふ。

### 愛知仏教会施療の効果〔明治24年9月21日 第七十二号〕

当市上宿泥町百四十六番戸橋本伊之助（三十八年）、此頃隣家の家根茸を手伝し中足場を踏みはずし、遂に脚部を痛く負傷せしが、元来赤貧者にて自ら治療の資なきものから全会の施療券を得て、過日全会施療医高橋順庵君に就き施療を受けしが、同氏の施術と尽力により尚一回の施術を受けば全愈に至るべしとて、此頃仏教会へ謝状を呈せりと云ふ、亦全会へ各処より施療を申込むものあるも往々赤貧の者にあらざる者等之れあるが為、全会は之が調査に苦まるゝ由にて、将来は各町に配置せる管区巡查が施療施療の必要と認むる者は直ちに之を施行するの内規を定められしと云。

### 彼岸会〔明治24年9月21日 第七十二号〕

昨日よりは秋期彼岸の初日なるに、殊に日曜日にて当市大須及西別院辺は随分賑かなりしが、本年は各郡村落の農家は先づ豊饒の見込あれば、当彼岸中は田舎人の市内に来るもの例年より一層多らん。随て幾分か商業の景気をも添ゆるならん。従来の慣例に依れば、彼岸と云へば田舎人は名古屋見物か又は興行物遊覧、或は所有品に買入期の如く又市内の姉妹は孰れも晴の衣装を着飾り婀娜たる其の姿嬋妍たる其の美を競ふて散歩する七日の彼岸会は古来の習慣なれど、抑彼岸会は我が仏教の日本に伝来の始め勅命を以て制定せられし大法会にして、平常各種の業務に従事して仏陀に帰依し帰命するの暇なきものは、此の春秋雨期農事閑隙の気節

に就て其の業務を休み仏陀の涅槃なる彼岸の業務を成すを彼岸会と云ひしを弊習を襲ふの久しき、遂に今日に至りしものなり。

#### 愛知仏教会各地演説概況〔明治24年9月21日 第七十二号〕

去る十日午後七時より当市桜町安清院に開会せる同会は雨天なりしにも拘らず、参聴二百五十余名あり。▲十六日上宿同会支部なる真宗興西寺に於て催せし同会は、近頃稀なる盛会にして流石に広き本堂も立錫の地なく殆んど四百余名と見受たりと。▲亦昨夜、熱田尾頭町陽泉寺に開会せる全会は出席伊藤覚典、社員広間隆円及水野なりしか、参聴は頗る多く殆んど三百余名と見受たり。

#### 白鳥鼎三老師〔明治24年9月21日 第七十二号〕

全師は八十余の老境なるも鏗鏘として老て倍壮に、先頃中も全隱室に於て三同契を講せられし由なりしか、亦此頃よりは法華經の要解を講せらるゝ由にて、斯く老境追後進薰陶し倦ざりし成すへきなりと。

#### 演説と法要〔明治24年9月21日 第七十二号〕

本日午後一時より当市宮出町永安寺に於て演説及び法要を営み終て同校生徒の大和楽合奏等を催さるゝ云。

#### 曹洞宗大本山祖師〔明治24年9月21日 第七十二号〕

全本山越前永平寺に於ては、毎年九月廿四日より廿九日迄祖師の御諱大法会の執行ありて全国各地より全宗信徒全祖廟に参拝するもの多く非常の賑かなりしか、本年は既に当市よりも全宗信徒の全本山へ参詣するもの多く、何れも汽車の便に依り廿四五の両日に出発すると云、亦門前町大光院、松山町安斉院、裏門前町万松寺、袋町禅芳寺等には廿七八の両日、右御諱法会を修行し説教をも挙行せらるゝと云ふ。

#### 愛知育兒院臨時会〔明治24年9月28日 第七十三号〕

愛知育兒院臨時会は去廿二日、全院事務所なる矢場町白林寺に於て開会せしが、全日は全院の監督、計会、幹事を始め知多、中島、東春日井等の郡部幹事も一同出席、総員四十余名にて過般總會に於て議決せし全院の新築に関する建物、構造、坪数より右費金の募集方法等に就て協議せしが、右義捐金は本年内に各幹事に於て之を募集し、工事は来年一月より着手することに決せり、と而して全院の新築地所は矢場町一ノ切十番地にて境内五百余坪の地所へ六十六坪余の日本形二階造の建物を建築し、其間取りは玄関、応接所、育兒教場、育兒室三間、台所、事務所等にて二階は七十余畳の大広間（会議所）外六畳二間にて其建築費は一千五百余円の見込なり、と又全新築事務委員には堀部勝四郎、平子徳右衛門、片野東四郎、北折源六、山田才吉、小島理兵衛、松田秀次郎、各務恵実、石塚無仏、高岡亮音の十氏之れに当り、尚全院事



務の拡張次第漸次養老院をも設くる手筈なりと云ふ。

### 法会及演説彙報〔明治24年9月28日 第七十三号〕

去る廿一日、宮出町永安寺にて愛知育英学校生徒百余名が大和樂を合奏し終て曹洞宗寺院三十余名列席大施餓鬼を修行し、續て山内宗弘氏信解行証と謂へる演題にて仏教演説有しも折悪敷雨天にて聴衆は漸く三十名程なりと▲廿三日南小川町正福寺にて大施餓鬼修行説教師伊藤寛典、近年に稀なる盛会なり、廿四日住吉町弘法堂にて伊藤寛典阿字不生の道理を説教せられしが、聴衆百名程ありて仏教と教育とに關係あるを感動せり▲廿六日栄町秋琴樓にては大般若修行導師大光院方丈にて、野々部至遊師は從喜に出席せり▲廿七日西春日井郡下郷村天桂寺にて仏教演説会出席弁士は水野道秀、佐々木祐繼の二氏出席盛会なり、廿八日より知多郡共和村地方へ向ふ四日間伊藤寛典氏巡回説教を行はる▲廿九日廿日両日、松山町安斉院に於て宗祖承陽大師御祥忌法会及説教亦十月五日全寺に於て羅漢尊供餌会を修せらるゝ筈なりと云ふ。

#### 總見寺信長公祠堂建築寄付人名

一金三十錢	瀬尾ジャウ子
一金一円	桶屋善兵衛君
一金一円八錢	前田辰次郎君
一金五十錢	橋本喜三郎君
一金五十錢	小出 藤七君
一金十錢	城 丈君

一金五十錢	本屋榮三郎君
一金三十錢	神納千之助君
一金二十錢	渡辺文之助君
一金一円	水野 源助君
一金一円	水野又兵衛君
一金一円	小川 佐助君
一金一円八錢	伊藤 政尾君
一金二十錢	成田 久助君
一金三十錢	馬淵 源六君

#### 広告〔明治24年9月28日 第七十三号〕

新十月十七日より全廿三日迄  
旧九月十五日より全廿一日迄

●授戒会 名古屋市長全寺  
南小川町

今回故管長久我環溪大禪師殿七回諱御追善ノ為メ右大法会執行仕候条、諸事御操合御入戒相成度、殊ニ同大禪師ニ就キ曾テ御接化ヲ受ラレシ御方ニハ可成御参詣被成降度候也

#### 小栗栖香頂師の来名〔明治24年10月5日 第七十四号〕

去る二十九日より当市大谷派別院にて説教を営まる

#### 南条博士の来名〔明治24年10月5日 第七十四号〕

同師は去月十八日来名の処、来る十四日当市南条名町信道説教場



の開場式に臨場の為来名せらる由、因に記す。曾て九月十四日に開場式の様記したるは十月の誤り

**先生**〔明治24年10月5日 第七十四号〕

田中智学氏の名古屋に來りて演説を公開するや路傍に張して「仏教実義大演説会弁士田中智学先生」と大書す。頑童見て以て先生の仏教演説会……

**生駒田之師**〔明治24年10月5日 第七十四号〕

全師は過般來曹洞宗永平寺新貫主請の爲め、久しく金沢市に滞在中なりしが、爾後其の要務を了畢し東京事務局へ復命せらるゝ筈なりしが所勞の爲め、当分上京を見合去月廿二日歸寺後は専ら支局事務を管掌しをらると云ふ。

**真宗講話会**〔明治24年10月5日 第七十四号〕

当市押切町なる同会は、曾て盛大なる発会式を挙行せし事は前号の紙上にも記載せしが、本日 of 広告にもある如く、来る十一日午前八時より真宗大谷派の有名なる一等学師補小栗栖香頂師を聘して三經大綱の講話を開き、尚ほ羽塚慈音氏が和楽の合奏を催さるゝ由定めて盛會なるべし。

**熱田通信**〔明治24年10月5日 第七十四号〕

熱田仏教青年会は秋期大会議にて愛知仏教青年会と改称し、広く

「能仁新報」よりみた名古屋の仏教（二）

愛知郡一般に及ぼすの計画なり。以来毎月十三日討論會、十八日演説會開會の定日とす。来る八日小杉陶藏氏の第四回原人論講義開筵參聽随意の由。

**醍醐教會の仏教演説**〔明治24年10月5日 第七十四号〕

今明二日午後六時より当市南小川町本源院に於て開會せらるゝ同會には、水野永遠、釈覺円等出席せられ、終て浅井朝鮮氏の説教をも開かるゝと云。

**相応寺院殿の二百五十回忌**〔明治24年10月5日 第七十四号〕

当市山口町なる同寺には、去る十六日は恰も同寺大檀那の祥忌に相当せしを以て大法要を営まれ、終て大施餓鬼を修せられし由。

**參禅要路**〔明治24年10月5日 第七十四号〕

左の一篇は參禅要路と題して、某禪師が某居士等の請に應して指示せられしを筆記せし者なり。予此の頃篋底を検し偶此の書を得たり。幸に僧風頹敗の時大に有益の文字なりと認むるを以て貴社に投ず。余白あらば御登載あらん事を希望す。

愛知仏教青年會員 浅野提鉏

夫れ仏道長遠なりと雖も畢竟大地に寸土なし、三大阿僧祇却に修証弁成すと雖も真心遠からず、五百里峻難の道あるも実所近きに在り、參禅学道の人若し一步を誤まり一念を動すれば十万億土百千万却を隔つ、直に須く見性成仏すへし、如来一代の經教は見

性の開示にして其見性悟道に至ては教外別伝不立文字なり。利鈍貴賤出家在家東土西天古代今時の差別ある事なく只道心の有無と開示の邪正により。千仏万祖指南するとも自ら信心純一正念相続せされは見性悟道の時節あるへからず。是れ自心を以て自性を悟り亡眼を開ひて己身を明らむる所以なり。若し正念相続せず工夫純一ならされは徒に海へ入りて砂を算ふるのみ。其正念とは無念なり、工夫とは無想なり、祖師曰く非思量底を思量する是れ坐禪の要術なりと、十二時中動静三昧し理事に一色して猛烈に工夫せば内外の諸魔便を失ひ、一切の障礙を離れ、善惡是非苦樂順逆一時に脱落して無始却来無明の命根を載断し、空却已前本来の面目を相見せん、空却已前とて遠き久しき事に非ず、古き昔しの事と思へからず、即見性の端的なり放身捨命の時節なり、念仏誦經も同じくこれ命根を載断するの利剣なりと心得べし、功を積み徳を累ねて往生見仏すと思ふべからず、福德果報を求むること勿れ殊勝奇特を離却すへし、三世心不可得なれば正念自から現前す、行住坐臥専精に工夫して見聞覚知喜怒哀樂の主人公を疑着せよ。

(未完)

**広告**〔明治24年10月5日 第七十四号〕

本門再建供養会執行

十月七日午後一時 菅原町興善寺

御連枝恭敬院殿

**真宗法話**〔明治24年10月5日 第七十四号〕

毎月四日午後七時より中市場町中村嘉兵衛方に

三等勸令使前田学師

**真宗大講話会**〔明治24年10月5日 第七十四号〕

講師 小栗栖香頂師

来ル十一日午前八時ヨリ 開筵  
当市押切町養照寺ニテ

明治廿四年 真宗講話会幹事  
十月

**各宗協会へ照会**〔明治24年10月12日 第七十五号〕

過般当市に開設し、全国仏教者第二回大懇話会に於て全国仏教者の与論として数ヶ条の事項を評決し、之を各宗協会へ進達し全会の会議に付して可然ものは各宗共に実施せられん事を希望せしに、豈図らんや各宗の協会は右の議決書及願書等を受領せられしも今日に至り、未た何等の沙汰もなく亦之を會議に付せられたるの模様もなく殆んど打捨同様の始末なれば、右懇話会の主幹たりし愛知仏教会役員に於ては、右の始末取調の為今回全会の役員にして大懇話会に於て副議長たりし（代議士）堀部勝四郎氏か上京せらるゝに付、全氏より全会へ向け照会する筈なるも尚全会へ向け愛知仏教会より伺書を提出したりと云。

### 信道説教場の開場〔明治24年10月12日 第七十五号〕

明後十四日午前十時より南伏見町なる近藤友右衛門氏か今回新に設立されし同説教場の開場式を行ひ、十五日は見真大師の諡号会、十六日に恵灯大師の諡号会、十六日には三尊の開導式を行はるゝに付、御連枝撰光院（大垣御連枝）の御來場をも仰かれ、十七八日の両日は南条博士宮部勸令使の説教及び演説を開れ十九、廿、廿一、の三日間は牧野神叟師の説教を開かるゝに付、本社へも其の招状を贈り越されぬ

### 愛知育英学校の運動会〔明治24年10月12日 第七十五号〕

愛知仏教会の監督に係る全校は、過る五日午前八時全校に於て生徒一同集合の上隊伍を整へ大旗を翻し教師役員等之を引卒して八事山に到り綱引旗取等の運動を成し、午後四時帰校したりと云。

### 曹洞宗支局派出説教〔明治24年10月12日 第七十五号〕

本県第一号支局にては配下各寺に春秋兩度説教を挙行するの成規なるか、当時丹羽郡地方へは安齊院住職野々部至遊師か巡回中なりと云ふ。

### 米田氏の講筵〔明治24年10月12日 第七十五号〕

当朝日町共済会長なる同氏には、毎日午前七時より因明入正理論を講筵せらるゝ由にて参聴を乞ふ者は同会員の紹介を要すと云。

### 四恩会第三週紀念会〔明治24年10月12日 第七十五号〕

当市新道町海福寺に設置せる全会は一昨十日紀念会を催されしか、今其の概況を記さは全日は門前及本堂前には仏旗を交叉し、正午十二時より会員先祖の爲め大施餓鬼会を修し、全午後二時より演説を開会せられしか、出席には鵜飼祖箴、梅原薫山、伊藤寛典及社員広間隆円、水野等なりしか、羽塚慈音氏は愛知育英学校女生徒数名を卒へ、出席各弁士出席の前後に大和樂唱歌を奏せられたり。

### 参禅要路〔明治24年10月12日 第七十五号〕

（前号の続）

浅野提齡 寄稿

若し氣力微弱なる時は真疑現前せず妄想除き難し、早成を得んと欲せば心王付与の宝剑を提て一氣に進み、仏に逢はゞ仏を殺し、祖に逢はゞ祖を殺し、父母に逢はゞ父母を殺し、衆生に逢はゞ衆生を殺し、乃至有情無情森羅万象山河大地三世十方善惡是非其外六根門頭七識街辺に出没去來するもの一切皆殺し尽して大虚空界を御身出頭せば真の大丈夫と云つへし、這裡に到て諸仏衆生菩提煩惱生死涅槃天道地獄惣に夢幻空華なることを疑はず。且つ参禅は刹那も油断有へからず、出息入息精神を抖擻し、前歩後歩脚下を照顧して匹馬單刀百万の敵軍に駆入るか如くせよ、只動靜の二境に対して、工夫純一ならされは少分の相応得がたし、正念工夫は動作中最とも修練すへし、必らずしも靜を好むへからず、

往々静かなれば修行事果敢行様に思ひ動中は散乱する様に思へとも静処ばかりの修練得力は動境に対するときに慥かに用ひられず、臆病懦弱の働らきある者なり、然らは何をか得力と云はん、正念工夫とは十二時中吾に有る三昧吾も亦た不知なり、終日作務弁事すれども疲労あることなく長時独坐黙立すれども退屈せず、理事一色して究明するを実参実学と云ふ、早く諸法に通達し万事に自在なることを得んと欲せば動中の工夫に越たるはなし故に、弁道参玄の納子は声色推裡に向て坐すへしと、三祖大師の曰く一乗に趣かんと欲せば六塵を惡む勿れ、是れ六塵を教奇好めと云にはあらず、水鳥の水に入れとも翎の湿れざるか如く平生六塵の上に於て取らす捨す正念相續せよ。(大尾)

**広告**〔明治24年10月12日 第七十五号〕

新十月十七日より全廿三日迄  
旧九月十五日より全廿一日迄

●授戒会 名古屋市  
南小川町 長全寺

今回故管長久我環溪大禪師殿七回諱御追善ノ為メ右大法会執行仕候条、諸事御操合御入戒相成度、殊ニ同大禪師ニ就キ曾テ御接化ヲ受ラレシ御方ニハ可成御参詣被成降度候也。

**広告**〔明治24年10月12日 第七十五号〕

●来ル十六十七ノ両日午後六時ヨリ  
●南桑名町千歳座ニ於テ開会(参聴無料)

●日蓮正宗大演説会

●弁士 釈 妙覚師

●真の道ト趣意書ヲ呈ス

**真宗法話**〔明治24年10月12日 第七十五号〕

毎月四日午後七時より中市場町中村嘉兵衛方に

三等勸令使前田学師

**授菩薩戒会**〔明治24年10月19日 第七十六号〕

曾て報導せし当市南小川町長全寺に於て一昨十七日より執行中なる曹洞宗故管長久我環溪禪師の追善授戒会は、戒師安齊院住職野々部至遊師にて、教授師は社員水野、随喜僧侶方は四十余名、昨十八日午後迄に菩薩戒受者として礼仏修行中の四衆一百五十余名にて参詣者も殊に多かりしか最も静肅に見受たり。亦全菩薩戒受者へは毎日夫々の信者より施齋ありしか、本社よりは明廿日菓石(晩食)の齋を受者一同へ供せる事とし、社員透閑居士外一名は右戒法を受る筈なりと云ふ。

**愛知仏教会の大会議**〔明治24年10月19日 第七十六号〕

全会は過日來、市内会員門標貼付中にて既に第一区第二区を了り、目下三四両区の会員門標貼付中なるが悉皆貼付の上は多分十一月中旬を期して各宗取締り及理事等を招集し大会議を開設せるの計画なりと云ふ。

# 愛知仏教会上宿支部〔明治24年10月19日 第七十六号〕

全会は過る十六日定期演説なりしか、都合に依り鶴飼祖箴氏を聘して幻灯会を催せしか、參觀者は頗る多く殊に全氏の説明は能く仏教の真理を穿ち兒童に迄了解したりと。

## 臨濟宗大会〔明治24年10月19日 第七十六号〕

当市飯田町禅隆寺に於ては、過る十七日より開山御諱及引続き大会を修行せらる由にて、近県全宗寺院雲衲三百余名参集せられ猶授戒会をも執行せらると云ふ。

## 各地演説の彙報〔明治24年10月19日 第七十六号〕

去る十四日、南小川町泰増寺に於て説教師織田宝山師の説教あり。十五日東瓦町威音院に於て野々辺至游師の説教あり。十六日宮出町照運寺に於て全師の説教あり。又全日夜は愛知仏教会の支部なる上宿興西寺に於て仏教幻灯会あり。説教師は鶴飼祖箴氏なるか参聴人は満場なりしと云へり。

## 一乗庵釈妙覚師〔明治24年10月19日 第七十六号〕

再昨十六日午後七時より当市南桑名町千歳座に於て日蓮正宗仏教演説を開会せり、弁士は静岡県人布教会幹事一乗庵釈妙覚師にて（宗教の沿革）仏教の起原より東漸仏教の状態を説き、偏自力偏他力を破斥したる末仏教は日蓮宗を措て他に真教無しと説き、或は専制政治の弊害を洗滌する事の出来ざるは浄土真宗ある故杯と

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

論告したる為め、聴衆中より藤井東洋と謂人大喝一声弁士と呼び壇上に現はれ、弁士の所説曖昧なりと呵責し質問せんとするや討論質問を遮絶せられし故、聴衆は一時に騒ぎ随分混雑せしが、翌夜は先夜に引続き千歳座に於て日蓮正宗仏教演説を開席せられ、前席有元広賀氏演説中諸宗開山祖師の破斥に付き、礼の藤井東洋居士亦復出現し日蓮の妙力に就て建長寺等の事より質問せんとしたるに、妙覚師突然壇上に現はれしに身には被布（俗にカッパ）を着し、頭には仏蘭西形（ナポレオン帽）の帽子を戴かれたるより藤井は其不敬を詰りたるに妙覚師は宗規なりとて脱せず。故に藤井東洋居士は日蓮宗の宗制寺法には此の如き法規なしと詰問したれば、夫れは内規なれば他人の知る処にあらずとて脱せられず、其の中には聴衆も騒ぎ出せしが幸に、警察官の出張ありて無事散会したる由。

## 仏教幻灯会〔明治24年10月19日 第七十六号〕

来る十九日午後六時より当市宮出町照運寺に仏教幻灯会を行ひ鶴飼祖箴氏は其の説明を為すよし。

## 環溪禪師の追懷〔明治24年10月26日 第七十七号〕

対馬国々分寺住職江崎接航氏は左の俳句を賦して、過般長全寺に営まれし同師七回忌の法要の席へ献けられし由

雪主翁の追善会に寄して

消しあと月の清さや雲のみね

鷹啼くや日落て寒き海の面

長全寺授戒会直壇

十月廿六日

伊藤寛典

### 授戒会の余聞〔明治24年10月26日 第七十七号〕

全会 教授 水野道秀

前号に記せし長全寺授戒会には社員伊藤、日下部、河村、高橋、中村等は晩餐の供養を成し参詣せしが、全会にては施餓鬼を修し亦全宗祖師の編せられし法華転の誦経もありて殊勝なりき、全会は廿三日無事完成なりしか今全会へ施齊せられし重なる信者には久松丈助、内藤利兵衛、原兵一郎、榊原栄蔵、榊原治助、新見嘉治、加藤清左衛門、諸富保義、村地判事、福田伝左衛門、津田理三郎（各宗同盟仏教会役員）社員等なり、又物品を寄贈せられしは無慮百十名なりと云ふ。

### 禅隆寺の授戒〔明治24年10月26日 第七十七号〕

禅隆寺の授戒は徳源寺和尚の導師にて本日より開会さるゝが、右に付従来戒礼として何程宛かを定めて戒弟より徴集し来りしも、今回は大なる箱を供へ置き、戒弟の志納を以て戒礼を納めしむる事とせられ、既に三百余名の戒弟もあるよし。

### 広告〔明治24年10月26日 第七十七号〕

過日当寺授戒会ノ際ハ各位ノ篤信ト御厚意ニ依リ物品或ハ施齊等ヲ寄贈セラレ、為ニ菩薩戒受者百五十余名無事ニ七日間ノ修行ヲ了シテ得戒スルヲ得タリ。此ニ仏天ノ冥護ヲ感謝シ、併テ全会ヘ施物施齊等ヲセラレシ各位ニ拝謝ス。

### 曹洞宗の震災見舞〔明治24年11月4日 第七十八号〕

当市なる全宗の宗務支局教導取締生駒円之氏は今回全宗の寺院にして、其の堂宇の全く破壊に属せしもの百余ヶ寺にして、其の他大破損に至らざりしものも亦殆んど二百ヶ寺程なるが、此の多数の寺院及び其の檀徒の家屋の破壊等を慰問する為、左の諸氏へ慰問使を命し災害各地へ派遣し、夫々実地に就き慰問を遂げ亦事情をも取調へらると云、其の人名は左の如し。

一号、二号、四号、六号、支分局下 織田宝山

（名古屋、愛知郡、東春日井郡の一部）

八号、九号、支分局下 山田祖学

（東春日井郡の内一部、西春日井郡の内一部）

十号支分局下 清 俊瑞

（丹羽郡、葉栗郡）

十一号支分局下 水野道秀

（西春日井郡の内一部、中島郡一円）

十二号支分局下 伊藤寛典

（地方海東郡、海西郡一円）

亦全支局より堂宇破壊せし寺院へ伝へられし慰問状は左の如くなりと云ふ。



## 何々寺

今回震災に就き其寺堂塔伽藍の一朝にして破壊せしは悲痛禁ずる能はず、由て此際一層仏祖の道行を精勉し、尚ほ布教伝導無怠慢寺檀協力漸次復興の事業を經理する様祈念し、爰に使を派して災害を慰問す。

但し詳細取調本局へ具申の上、追て何分の慰問可有之義と推知致候也。

愛知県第一号曹洞宗務支局

明治廿四年十一月 教導取締 生駒円之

## 尾張に於ける潰倒寺院の数〔明治24年11月9日 第七十九号〕

尾張同派の寺院全潰凡そ二百八十ヶ寺なるが、尚ほ半潰等取調中なり

## 大谷派出員の繁忙〔明治24年11月9日 第七十九号〕

名古屋別院内に本山震災救恤事務所を設け、重役出張昼夜救恤の事務に繁忙を極をらるゝ由。

## 名古屋市震災概表〔明治24年11月9日 第七十九号〕

当市中に於る震災死亡者は百八十七人、負傷者百九十一人、家屋全倒千二百五十六戸、全半潰千九十七戸、焼失二戸、橋梁破壊十六ヶ所、堤防一ヶ所、土地壊裂三ヶ所、救助を受け居る者千七百十九人なりといふ。

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

## 浄土宗及び臨済宗の法要〔明治24年11月9日 第七十九号〕

臨済宗にては、去る廿八日飯田町禅隆寺に於て今川貞山の導師にて二百余名の雲衲と共に震災死亡者の法要を、同じく去る三日には浄土宗市内寺院総出にて白川町光明寺に於て孰れも修行。

## 松山町安斉院の法会〔明治24年11月9日 第七十九号〕

明九日、同寺にて同宗一号分支局の僧侶を請し午後一時より施餓鬼を行はるゝ由、尚当日は例年の薬師の縁日に付法会を兼て施米をも為さる由なり。

## 前津長松院の大施餓鬼〔明治24年11月9日 第七十九号〕

来る十日、同院に於て震災死亡者の法要を営まるゝ由なり。

## 日置敬円寺の法会〔明治24年11月9日 第七十九号〕

同寺にては、来る十日震災死亡者の追薦会を修せらるゝ由にて、午前は同宗の僧侶、午後は曹洞及び浄土宗、其他の僧侶にて、同日は演説をも開かるゝ由、弊社にも招待を受けたり。

## 広告〔明治24年11月9日 第七十九号〕

本月十日、上前津町長松院於て震災死亡者ノ追福大施餓鬼修行營候間、当日午前十時ヨリ各信心有志ノ方ハ御参堂被下香水ヲ手向非命者ノ頓証菩提ノ為企望ス。

同寺執事

**森田悟由禅師の来名**〔明治24年11月16日 第八十号〕

全師は岐阜県へ赴化の途次、去十二日石川県金沢市より関西鉄道を經て午後四時廿分、熱田港着の汽船にて来名せられしが、当日は当市古渡町吉祥講中及全宗寺院信徒には熱田迄出迎はれ万松寺へ着せられ、直ちに別項に記せる法会なりしか、全日は社員日下部、高橋、河村、水野、中村等も法会に参席し後禅師には親しく拝謁を許されしかば、懇談時を移して退席したり。

**震災負傷者の見舞**〔明治24年11月16日 第八十号〕

愛知仏教会慈善部にては、過る十三日当市公立病院及好生館に治療中なりし震災負傷患者一同及看護婦等へ菓子パン一包宛及半紙一折宛に仏教の因果を説ける法話一枚摺を添へ贈与せしか、当日見舞ひの顛末を記せば、先づ熊谷院長に面接し目下患者の状態を聴き、夫より応接掛の案内にて全院の北裏手に在る明地に至れば、震災後の仮屋として五間幅十間余と見受られたる四分板葺の仮屋二棟あり。（震災の当日建設せしと云ふ）一棟を重傷患者とし（歩行し難き者）一棟を軽傷患者とす。（歩行し得るもの）二棟共中央を通行路とし、何れも患者を両側に臥せしめ、之に番号を付しあり、腰骨を折しもの頭部を傷し者或は手腕等繃帯を纏ひ眼色蒼白し悲惨限り無き有様にて六十余人之を尾張紡績会社の負傷者なりと云ふ。亦其の南西位に当てテントを張りたる内に三人或は四人宛臥せる者四五ヶ所あり。何れも実に衰腿の有様にて、見舞の辞を発するも胸間悲哀に迫り潜然として一行何れも涙にムセビ

たり。夫より好生館に到り北川館長に面接し、夫より佐藤医学士の案内にて各室を見舞ひしかば一々其の様態を説明せられたり。全館は大概一室、互に一人位にてこれ亦頭部の重傷、腰部挫折等更に大手術を施したるもあり。何れも悲嘆の有様なり、夫より出館門前に両側の明地藁葺き仮小屋幅六間堅十間余座一面に筵を敷きしは市役所の設備に係る、全所にも十余名の患者ありし皆貧困者にして其の惨状一層憐むべきなり、何れも至る所一行の贈物を受け感謝の意を顯したり、世の慈善家諸氏よ此の最不幸なるの負傷患者を慰藉せられよ、全日右両所を見舞しは来名中なりし永平寺貫主森田禅師、監督生駒円之、理事河村文六、伊藤覚典、大沢恒太郎、中村元亮、水野道秀等なりしか婦社しての物語なりき。

**災後曹洞宗**〔明治24年11月16日 第八十号〕

本県第一号曹洞宗務支局にては、震災に罹り寺院の倒壊に至りしもの一百余、大破に属せしもの亦一百余にして、迺も本年後半期の納金は無論、明年の都て宗政及学事に係る経費の出処に大困難を来し、到底明年度の経費には五六百円の節減を要せざるを得ず。為めに近日臨時會議を開かる、由にて社員水野は其の調査を囑托せられたりと云ふ。

**曹洞宗震災死亡者大法会**〔明治24年11月16日 第八十号〕

全宗の当市紳商有志者には、過る十二日当市裏門前町万松寺に於

て執行せられたり。全日は全宗の大本山永平寺新貫主森田悟由禪師が岐阜県地方へ赴化せらるゝ途次、当市を通過せらるゝを機として全禪師を大導師に請し大施餓鬼会を修せられたりしか、今其概況を記せば、当日門前に仏旗を交叉し中庭に大塔婆を樹立し大施餓鬼棚を架し当市及熱田近村の全宗寺院僧侶無慮一百五十余名出勤して午後二時より誦経あり。続て説教野々部至遊師、次に伊藤覚典、山田大啓、中村颯宗社員水野等の演説あり。午後五時より森田禪師の大導師にて大施餓鬼を修せられ、続て全師の説教あり。参詣者には紳商森本、大沢、津田、伊藤、佐藤、永田守随氏始め四百余名と見受たり。

**震災地実況図第二名古屋市門前町性高院本堂**〔明治24年11月16日 第八十号〕

性高院は大雄山と号し京都智恩院末なり。天正十七年藩君忠吉君其の母君宝台院の御為に武州忍莊に建立し玉ひし正覚寺を慶長八年清洲に移し、同十二年同君江戸に薨去の後寺号を法号に改め、同十六年今の地に移せしものなり。朝鮮人來朝の時（寛永十三年）当寺を旅館に充てし事ありて、古は寺領白石を有せし、市内の名利なりしが惜むべし去る廿八日の震災に本堂の破壊せし有様図の如し。図は南筆先生の筆なり。

**愛知仏教会の施米**〔明治24年11月16日 第八十号〕

全会の慈善部にては、過る十二日前項万松寺大法会の席にて震災

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

被害者救恤として予て市役所より末広町七面堂にて救助せらるゝ災民百八十人、花車町光明院にて救助せらるゝ災民百六十人、其他五十余人へ白米三合宛を施与せられたり。因に記す全慈善部にては順次巾下及清水、西春日井郡地方へ施米に赴かるゝ筈なりしか、既に廿六日迄は市役所亦是郡役所にて災民へ日々救助せらるゝ由に就き、全会施米は廿六日後に延期せらるゝ事に決定せしと云ふ。

**東輪寺の施餓鬼**〔明治24年11月16日 第八十号〕

橘町なる黄檗宗東輪寺にては、昨十五日井上重兵衛、大口六兵衛、伊勢門水の諸氏が發起にて震災非命者の法要を行はれしが、当日は彼の大灯籠をも点せられしと云。

**浄土宗支校の大施餓鬼**〔明治24年11月16日 第八十号〕

来る廿、廿一の両日を以て当市東門前町なる同校には深見志運師を請して、震災被害者の大施餓鬼を行はる由。

**曹洞宗第五号分局下会議**〔明治24年11月16日 第八十号〕

全分局寺院には震災被害者救助及死亡者追吊法会を挙行計画にて、明十六日鳴海町にて会議を開かると云ふ。

**熱田支部会の尽力**〔明治24年11月16日 第八十号〕

愛知仏教会熱田支部に於ては吉田義道、山田大啓、平野貞道の諸

氏卒先奔走して古着古器具等を纏集して本部へ送付せらるゝの都合なりと云ふ。

### 追吊大法会〔明治24年11月16日 第八十号〕

当市松山町安斎院に於て、過る八日午後一時より住職野々部至遊氏の発起にて曹洞宗第一号分局下寺院廿余ヶ寺総出勤にて震災死亡者追善の大施餓鬼会を修し、続て説教あり。全席に於て義捐金をも募集せられ、全日の賽銭迄取纏め本社へ寄送せられしか、亦全日は災民に白米を施与せられ参詣者も多く最と殊勝なる法会なりきと。

### 大高支部会の追吊会〔明治24年11月16日 第八十号〕

愛知仏教会大高支部にては十六日大法会を修し、演説を催し罹災者救恤の義捐をも募集せらる筈にて社員も出席せると云ふ。

### 特別広告〔明治24年11月23日 第八十一号〕

全国の仏徒に哀告す。

不幸なる我が尾濃の災民は着るに衣なく居るに食なく、又来る廿六日を限り国庫救助の恩恵に離れ、将に冬天に向つて餓死せんとする者約五十万吁此の窮民を救助する者は、抑も誰に在るか吾人は之れを我帝国各國の慈善なる仏教徒諸士に問はんと欲す。既に外教の徒は饒多の資金を投し情を災民に与へ慰撫し賑恤するの様は、実に吾人仏教徒をして瞠若たらしめんとす。嗚呼我帝国四千

万の同胞否仏教徒よ、誰か之れを見て切齒扼腕せざる者あらん。況んや煦々たる恩恵の中に、我が最愛なる同胞をして彼の徒の術中に陥らしめんとは是れ吾人の以て諸士に告るある所以にして、吾人等の既に災害に接するや余震未だ止まざるに、鵜飼祖蔵氏を東上せしめ先づ在京の同士と計りて目下將に義捐を募集中なり。而して本会の慈善部は更に仮出張所を設け、既に第一回の施米を行ひたりと雖も、尚ほ二十六日即ち国庫救恤の期限満ちなば、其の窮民を如奈せんや、故を以て我会の理事は日々数名の使丁を引き具して古着古具の之れを災民に贈与せんとす。然れども我尾濃の地たる其の地震に多少の差ありと雖も等しく災害を蒙らざる者なきを以て募金意の如くならざれば、限りある資を以て無限の窮民を救済せん事到底吾人等の以て能くせざる所たれば、茲に被害なき全国各地の同胞に謀り以て救恤の義務を分たれん事を希望し、敢て一書を呈し、以て其の義捐の多少と金員物件の否を問はず、本会へ向け御送付あらん事を乞ふ。然れば本会は直接に災地に至り災民を慰撫し以て諸士の厚意を告げ、吾人仏徒の義拳を發揚すべし。然らざれば独り外教徒の爲す所に恥つるのみならず、此の際吾人等が勢の以て社会に力なきを知らしめ、増々彼の侮慢を受くべし。去れば独り吾人等の恥辱たるのみならず、仏教全体の興敗に關すれば茲に泣血再拜謹て各位の坐下に伏し敢て乞ふ事如斯。

名古屋市南伊勢町百五番戸

明治廿四年  
十一月 愛知仏教会

## 慈善部

**広告**〔明治24年11月23日 第八十一号〕

今回の震災は実に未聞の大海にして、為に其難に遭ひ衣食住に苦しめる者数なからず。然るに逐々寒天に向へば、此れ等被害の災民尚一層の艱苦増すべければ、本会は普く世の慈善家に乞ひ、古着古具の義捐を乞ひ、被害の窮民を救助せんとす。仰ぎ願くは其の多少と金員物品とを問はず、本会の使丁をして纏募せしめ候間御恵捐あらん事を希ふ。

但御恵指諸君の便宜を謀り、左の箇所に本会の臨時派出所を設け候間、同所へ御届け被下指共苦しからず候、又御恵捐品は本会より被害地へ出張、其の市町村者若くは管区巡査と協議の上被害者中最も慇懃なる者へ恵与可仕、其他御恵捐品に就ては如何なる手続なりとも御意に従ひ取斗可申候間、併て申告仕候

新道町	海福寺	大津町	光円寺
皆戸町	聖徳寺	菅原町	浄教寺
宝町	禅芳寺	松山町	安斉院
東門前町	西蓮寺	大須	宝生院
新出来町	徳源寺	古渡	伝昌寺

愛知仏教会本部

**広告**〔明治24年11月23日 第八十一号〕

本月廿六日午前九時出来町徳源寺に於て

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

震災死亡者追吊会執行

同日午後二時全寺に於て

仏教演説会 傍聴随意

名古屋市古着商

十一月廿二日 真理協会

**震災地実景第四矢場政秀寺本堂**〔明治24年11月23日 第八十一号〕

当寺は臨済宗京都妙心寺の末にして、天文二年織田信長其臣平手政秀の忠死を悼み、春日井郡小木村に建立されしを後に、今の地に移せし者にして寺領二百石を領せし名刹なりしが、惜むべし震災の為本堂及び庫裏とも全倒せり。

**古谷日新師**〔明治24年11月23日 第八十一号〕

全師は前項の要務を帯び、当市へ来錫を幸に、当市全宗信徒の懇請にて小川町妙本寺に於て震災死亡者追吊大施餓鬼会の大導師を勤められ、続て法話を演ぜられしか、最初に本回全師が巡回せられたる本県及岐阜県地方の被害の惨況を述べ、仏教信者たるものは慈悲喜捨の心得なかるべからざる所以を説き来て因果の理法に及ぼし、総列の二業より理法の歴然として敵ふ可からざるを弁し、各自応分の慈悲喜捨を修すべしと言辞平易淳々とし懇話せられ、満場徐ろに感涙を催せりとぞ、同日の参詣者は災後人心渇々たる時に似ず最も盛会にて三百余名と見受たりと水野か帰社しての物語なり。



**大高支部会追吊会概況**〔明治24年11月23日 第八十一号〕

予て前号に記せし大高支部会には、全村春江院に於て催されたる当日は大本堂の前に仏旗を交叉し施餓鬼棚を架し山海の供物を備へ、僧侶には長寿寺、東昌寺、明忠院等凡そ二十余名出勤、導師水野道秀、大施餓鬼会を修し続て説教あり。夜間例月定期の演説なりしか会員の申出に依り説教を営まれしが、昼夜共参聴は四百余名にて、全日は村内農事の休日として法会に参会せし村民は共に義捐金を募集せりと、因に全村は今回の被害は隣村に比せは僅少なる方なりとて、村役場員僧侶、教員等頗る募集に尽力せられしとの事なりき。

**日雇者共同の追吊会**〔明治24年11月23日 第八十一号〕

当市日雇業の頭株清五郎、吉五郎、金藏、兼治郎、清九郎、忠八の諸人は、此頃雇ひ給料の件に係し相談会を開きし後ち、斯く世の中の人士が震災に罹り財産を失ひ命を損せしもの尠なからざるに、我々は幸にして斯く業務の繁忙に赴きしは好けれども、震災に罹り死亡せし人々こそ気の毒くとて、去十七日前諸氏が発起人となり、震災死亡者追吊法会を徳源寺に於て最と鄭重に執行したりとは時節折豈に感心ならずや。

**真言宗管長代理慰問**〔明治24年11月23日 第八十一号〕

真言宗管長代理慰問として法務所役員宮寺普学氏を派遣せられしが、同師は昨日当大須宝生院へ安着せられし由。

**東京上野吉祥院住職大照円朗師来名**〔明治24年11月23日 第八十一号〕

同師は今回愛知仏教会特派員鶴飼氏と共に来る、廿七日午前の二番発にて新橋を出発し、当市来名の上仏教会と聯合して救助の方法を義定せらるゝ事に決定せし由、右は東京なる各宗大徳の決議を以て来名せらるゝ者たれば、同師着の上は一大演説会を開会せらるゝ筈に付、尚詳細なる事は逐て報導する所あらん。

**宮出町有志の特志**〔明治24年11月23日 第八十一号〕

当市なる同町の各戸は、昨日旧氏神なりし運照寺内の秋葉堂及び金毘羅堂が今回の震災に傾きしを遺憾に思ひしのみならず、全町の無事なりしは全く同神の守護に由りし者なりとて、一同打揃ひて報酬の爲め同堂の傾きを直し、其の上尚多少の祭費を出して祭礼を行ひしに付、東門前町にも其の挙を賛助し賑々しく施行されし由。

## 教海雑誌

## 真宗部

○高派法王は、去る十四日出発愛岐両県下へ下向追悼会を修せらる。

○興派法王殿は、一時御病気の処目下逐々快氣に向はせられしと。

○大谷派本山にては昨日より報恩講修行。

○東上中なりし同派執事は去る十七日帰山。



## 真言部

○故日西樞大僧正逝去に付去月大僧正の贈階ありしと云。

○去三十日智積院にて松平故大僧正の三週年忌を営まれ、吉堀僧

正の一週年忌をも兼修せられぬ。

○随心院門跡は去月廿七日遷化。

○高志僧正は音羽に講筵す、大学生及び高等中学生の来る者三百人。

## 日蓮部

○小林僧正は胃加多留症にて悩み居られしか、昨今は余程衰弱の体なりと。

○曾て来名中なりし古谷日新師は帰京。

## 浄土部

○智恩院にては去る十日震災被害の法要を営まれしか、日野門主は尚ほ九州巡化中なり。

**広告**〔明治24年11月23日 第八十一号〕

本月廿四日午後一時於大曾根町閑貞寺

震災死亡者追吊大法会

導師生駒円之殿 曹洞宗第六号分局院聯合

震災死亡者追吊会及負傷者患者平癒祈祷報告尾濃両国震災死亡者追吊ノ為メ、本月廿八日本山大法堂ニ於テ、貫首法雲普蓋禪師大導師衆僧一百余員出勤懺摩法会及大施餓鬼ヲ修行ス。依テ死亡者ノ法名若クハ俗名等郵便端書ニ認メ当本山へ差越サルヘシ。

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教(二)

本月一日ヨリ一百日間被災負傷者平癒ノ祈祷龍宮出現荒神尊殿ニ就テ毎朝転大般若ヲ修行ス。該負傷者ノ姓名同ク当本山へ報導アルヘシ

能登国鳳至郡櫛比村大宗門前

廿四年 十一月 曹洞宗大本山

総持寺執事

**広告**〔明治24年11月23日 第八十一号〕

本月廿八日午後一時ヨリ

震災死亡者追弔大法会

同 負傷者祈祷大般若 執行

并ニ義捐勸募大演説開筵

大導師白鳥老禪師

右ニ付、死者法名又ハ俗名速ニ御送付アル可シ

熱田 白鳥 山

**広告**〔明治24年11月23日 第八十一号〕

於当市裏門前町総見寺、本月廿四日午後一時ヨリ震災死亡者法会修行

大導師妙心寺派管長殿

**震災追吊会彙報**〔明治24年11月30日 第八十二号〕

臨濟宗大本山妙心寺管長芦禪師には、過る廿三日当市へ着し、直ちに本県庁を訪ひ、夫より公立病院、好生館等の負傷患者を慰問し、一々病床に就き最と懇切に慰められ、翌廿四日は総見寺に於て本県各郡の全宗諸寺院を集め、死亡者追吊の大法会を修せられたり。今日は門前に仏旗を交叉し、中庭に大施餓鬼棚を架し、大塔婆を建て午後一時より僧侶一百二十余名本堂に班列し管長大導師大導師にて施餓鬼法会を修せられ、了て一等教師前田誠節師代理として説教を勤められ、且つ末寺住職へ最と懇切に災後の策を諭せられ中にも、災後の今日に殿堂修営に奔走せんよりは只管檀家の災民を救恤せよ。衣を売り袈裟を売ても之を救済せよ道心の内殿堂もあり、衣服もあり等の教示には孰れも感激せし由、尚全日参詣の道俗内外立錫の地なく凡そ七百余名と見受たり、全日は本社より水野が参席せしが、壮嚴の美法要の殊勝は筆紙の尽すべき所に非らざりし由、物語りの俚を。

**義人と義人**〔明治24年11月30日 第八十二号〕

当市松山町就梅院住職前田鉄柱氏は平素布教伝導に最も尽力せられつゝあるが、今回の震災に全院は痛く破壊に属し、殊に其旧里親戚には全倒の家屋四名の死亡者もありて悲愁憂苦の間なるにも似ず、破壊の殿堂を修繕中なるを此頃全氏か三十余年前の旧識にして、目下福島県岩代国栗野村昌福寺住職岡本祖雄氏は遙に本県の震災を聞き、旧懐の情より震災の見舞として金員を送られたり

しが、前田氏は之を亦本社に寄せて被害者の救助に充てられしが、これぞ旧識を訪はれし岡本氏の信義と又其の金員を以て直ちに窮民を救済さるゝ前田氏の義とは共に相并ひたる義挙と謂べし。

**日蓮宗の施餓鬼**〔明治24年11月30日 第八十二号〕

去る十七日、当市東橘町首題寺に於て同宗寺院一同集合して震災死亡者の大施餓鬼を行ひ、当日池上耀信師導師にて、説教は浅井朝鮮氏なりしが、最も静粛にして盛なる法要なりし由。

**白鳥山法会概況**〔明治24年11月30日 第八十二号〕

一昨廿八日、熱田町白鳥山に於ては全町の紳商野口吉十郎の發起にて震災被害者の法会を修せられたり。全日は全法持寺門前に国旗を交叉し中庭に球灯数百個を山形に懸列し、亦大塔婆を樹立して香華を備へ、亦中庭の東側に棧敷を架して供物施与所に宛て、午後二時より鼎三老師の大導師にて大般若経を転し負傷者の平愈を祈念し、続て大施餓鬼会を修して死亡者を追吊せられしが、全日は各宗僧侶六十余名の出勤にて参詣者は広袤なる境内と大本堂に充滿し、殆んど一千八百余と見受たり。此の多数の参詣者には発起人野口氏より茶津盛の施斎及供物饅頭等を配付され、亦各宗僧侶には鄭重なる折詰を饗せられたりしか、全日は本社へも招状を送られしより水野は参席し、災民救恤に関する一場の演説を為し閉会せしは午後五時なりしと云ふ。

# 追吊会と演説〔明治24年11月30日 第八十二号〕

十二月一日午後一時より当市矢場町白林寺内地蔵講合同会に於て、妙心寺派旧管長無学禅師大導師にて震災死亡者の為め追吊会を執行され、並に震災救恤仏教演説を開会さるゝ由にて、其弁士は林南嶺師外数名なりと云ふ。

## 曹洞宗の臨時会〔明治24年11月30日 第八十二号〕

予め前号に記載せし本県第一号曹洞宗務支局の臨時會議は廿五六七の三日間の開会なりしか、出席員番号は撰挙区の番号に依る事とし第一水野道秀、第二友松湖岸、第三伊藤隆成、第四鈴木泰量、第五阪井祖仙、第六水野曉山、第七菅器王、第八茶原良榮、第九村田大音、第十西尾令準、第十一寺本賢瑞、第十三辻本忍能、第十四近藤覺禅、第十五梶川賢明、第十六安井貫道、第十六佐藤祖閑、第十七長谷川悦翁、第十八佐藤靈源、第十九寺西確門、第廿小寺黙音外に被害の最甚しき地方より四名の増加議員を出して議席に列せしめん事を建議せしか全会之れを可決し、夫より教導取締生駒円之臨時会を開会する旨趣を述べ、次に議長の答辭ありて後副議長に欠員ありとて之を撰挙せしに九票小寺黙音、八票水野道秀、二票以下二名にて小寺氏に当撰の旨を伝へ、夫より本按に就き議事を開かれしが、其の重なる条件は左に各分局下に三名の震災取調委員を設くる事、被害寺院は宗務局より二万円の貸下金を懇請して仮堂の建設費に充る事、被害地寺院は明治廿四年度より向ふ五ヶ年間都ての課出金を免除する事、学料費

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教(二)

途節減の件、支局費途節減の事等なりしが、本回は被害地寺院は何れも熱心に被害地の利益を収めんものとして、全地より寺院住職六十余人傍聴席に列し議席に応援を為せしが、三河及知多等の議員は何れも被害地を救助するの精神にて格別に反対もなく被害地寺院は十分に希望を達したり。然し議員及配下の寺院が斯く議會に熱心せしは議會創始以來始めてなりと云。左れとも中には議會の尊嚴議員の権利義務等を等閑に付するの虞ありしが、今少しく發達したらんには整肅なる議會を見るべしと或る人は語りき。

## 熱田支部の運動〔明治24年11月30日 第八十二号〕

全会も弥古着類の纏集に會員一同奔走せられ、近日中には四五行履を仏教会慈善部へ送付せらるゝなりと云ふ。

## 慈無量講の救恤〔明治24年11月30日 第八十二号〕

今回の震災に付名古屋慈無量講と三河慈無量講と共同一致して愛岐死亡者追吊会を来る十二月一日より三日間、当市白川町光明寺に於て執行する由なるが、慈無量講の發起者なる深見志運律師は過般来より罹害無き地方に於て災害窮民救恤を唱導尽力中なりしが、其功不空三河地方篤志の信者より金員若干白米六十俵並に雑品数十個を義捐し、且名古屋慈無量講にても金員数百円及雑品等義捐有之に付、最早備荒儲蓄の救恤も去る廿六日を以て停止期限なれば、第一着の手始として三日間当市罹災窮民一般并に熱田地方へも同様白米五合づゝ施与し、且被害患者には別段金員等を又

岐阜県は本誓寺へ全師と慈無量講員が出張し施与する由。猶追々寒気に向ふの時節なれば窮民の困難見るべからざる者あれば、各郡も逐次救恤する手筈にて、又廿三日より全師は随行者と共に巡視の為岐阜大垣へ出張されたりと。

#### 石川素童師〔明治24年12月7日 第八十三号〕

曹洞宗能本山執事なる全師は、過般来其の住職地なる彦根清涼寺へ帰錫中なりしか、過る廿九日当市へ来名せられ親戚故旧の許を訪問し、去る一日全本山へ帰錫せられたり。

#### 四恩講の追悼会〔明治24年12月7日 第八十三号〕

同講は当市長者町なる仏教篤信者が組織により成り立ちし者にて、講員は毎月数回誦經の温習教義の研究を専らとせらるゝが、今回の震災に付き愛知仏教会の慈善部が被害者の救助に尽力するを開き、講員は悉く其の挙を賛成し古着類の纏集に尽力されしが、去る四日は講員某氏の宅へ野々辺至遊師其他各寺院数名を招聘して震災死亡者の法会を修せられしが、同日は最と丁寧なる齊を供し結構なる法会を営まれしやに聞く。

#### 追吊会并法話〔明治24年12月7日 第八十三号〕

当市松山町含笑寺にて、来る十四日去十月廿八日の震災に死亡せし尽七日に相当するを以て、午後一時より大施餓鬼を修行され法話を野々辺至遊、水野道秀、伊藤覚典の三氏に托されたりと云。

#### 小松万宗師〔明治24年12月7日 第八十三号〕

全師は本県出身にて、目下北海道札幌曹洞宗中央寺住職成が本県の震災を聞き其の親戚故旧へ見舞として金員を寄贈し、亦全地の毎日新聞へ托し本県下災民へ義捐せられし由なるか、亦愛知仏教会の救恤運動を聞き同方及寺内の僧侶を勧めて更に義捐金を送られしと云ふ。百年家郷を忘れさるとは果して師が事なるかな。

#### 追吊法会〔明治24年12月7日 第八十三号〕

当市古渡町伝昌寺にては、全町吉祥講中の發起にて追吊法会を修し、大導師には永平寺森田悟由師を請せらるゝと云ふ。

#### 金城館追悼会〔明治24年12月7日 第八十三号〕

去る一日、当市洲崎橋の金城館に於て催されし震災死亡者の追悼法会は、愛知仏教会の紹介により各宗の僧一百五十名出場され、第一座は観音經にて禪宗の各派之れを唱和し、次は阿弥陀經にて浄土の各宗之れを唱和し、次は法華經にて同宗之れを勤められたり、終て一同に精養を饗せられ退散せしは午後一時過ぎなりしが、当日は同館の広間（凡そ百三四十畳）の正面に靈牌を安置し、莊嚴最も尊重にて供物香華四辺を照輝せり。当日供養の大塔は大光院内に埋められしが、当日の参詣者へは一々供物を配与されたりしが館主の希望に由り、当日は来衆の姓名録を保存せん為め仏教会へ以来されしを以て、同会は右の人名録を調製せられしを以て編者は一編の緒言を付たり。

# 追悼文〔明治24年12月7日 第八十三号〕

前号の紙上に記載せし当市大津町光円寺に於て催されたる当郵便電信局員の死亡者追悼会の際、同局員の朗読されし追悼文を得たれば、其の一章を掲ぐ。

茲に同僚相計り清浄無量なる仏法の供力に籍り、名古屋市光円寺に於て法会を執行し最も親愛なる故近藤敏次郎、岡谷錦次郎、伊藤雄次、福岡辰次郎四氏の霊を吊ふ、悲哉。明治廿四年十月廿八日午前六時廿分、古今未曾有なる震動天地を揺かして至り、分秒間数万の生命を傷害し財産を滅亡せしむ。諸氏不幸にして其内に数へられ黄泉の客となり、再び相見る能はず。嗚呼傷い哉、人間の不幸は短命より甚たしきはなし。然れども生者必滅、会者定離の免かれざる普通の定理如何ともなし難きも、非常の災にあるを以て諸氏の不幸は一層哀悼に堪へざるなり。諸氏よ。諸氏は終世の時まで最も責任ある職務に従事し職を守りて公堂崩壊の下に庄せられ諸氏に精神死を以て尽す、能く任務を全したりと云ふへし故に、通信大臣閣下法に依り遺族を愛撫扶助し、在省有志の諸氏哀情を全国同業諸氏に訴へられ、又局員相計り賞を募り弊を辞せすして靈魂を吊ひ遺族を慰問す。諸氏の没後実に余栄あり、諸氏よ吾か通信事務に従事し、職務の為め斃れたるもの曾て若干名ありと雖も、這回の如き非常に吊慰の挙あるは実に本邦郵便電信制度開施以来曾てなき処なるを信す。諸氏の名誉寔に偉大なりと云ふへし。本日名古屋郵便電信局長以下局員一統相会して諸氏の遺族を招き、相

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（二）

共に吊ふ清浄深遠無量なる經文の奥義を悟り、地下に瞑目あれ。頓首再拝

明治廿四年十一月廿八日

名古屋郵便電信局在勤

郵便電信局書記 藤田知新

## 広告〔明治24年12月14日 第八十四号〕

本会慈善部は、来る十七日当市新道町海福寺に於て中下地方罹災窮民へ施米を配与す。

## 広告〔明治24年12月14日 第八十四号〕

本会慈善部は、来る十八日当市大曾根町関貞寺に於て全地方罹災窮民へ施米を配与す。

## 広告〔明治24年12月14日 第八十四号〕

本会慈善部は、来る十九日橋詰町慶栄寺に於て全地方罹災窮民へ施米配与す。

## 学校の震災追吊会〔明治24年12月14日 第八十四号〕

当市尋常小学小林学校にては、同学生の内地震災の為に死亡せしものありとて、昨十三日矢場町法光寺に於て追吊会を催されしが、同日は聯区町内の各宗寺院は何れも出席誦経せられ、亦学生及職員一同参詣し頗る殊勝なる法会なりき。



**鎮火祭**〔明治24年12月14日 第八十四号〕

来る十六、十七の両日を以て、当市桶屋町良学院に於て同祭を施行せられ、終て震災死亡者の追吊会及び被害者安全の祈祷を修せらるゝ由なり。

**加治野日解氏の義捐**〔明治24年12月14日 第八十四号〕

小川町の妙本寺住職加治野は、嚮に同寺に於て震災圧死者の追吊会を営まれ、多少の義捐金を愛知仏教会の慈善部に寄贈せられたりしが、去十一月廿八日大津町の光円寺に於て郵便電信局横死者追吊会の節同氏か受ケ得られたるの布施金一円を再び仏教会慈善部へ寄贈せられたると云ふ。

**黄檗宗の追吊法会**〔明治24年12月14日 第八十四号〕

来る十五日、当市新出来町五百羅漢に於て、同宗の僧侶十二ヶ寺出頭して震災死亡者の追福大施餓鬼及仏教演説を開会さるゝ由。

**広告**〔明治24年12月14日 第八十四号〕

本月十六日午後一時、桶町妙善寺に於て日蓮宗々務院より権僧正小林日童殿出張せられ、這回震災圧死者の爲め追吊施餓鬼会を執行し、且つ同日早朝より貧民へ施米、翌十七日小川町本住寺に於て同様、午後一時追吊会、早朝より救恤施米、夫れより追日被害地七郡へ出張前同様執行せらるゝ由。

**広告**〔明治24年12月14日 第八十四号〕

十二月十六日鎮火祭

同 十七日 震災死亡者追吊会  
並被害者息災祈願

桶屋町 良学院

**唱道義会青年部の追吊法会**〔明治24年12月21日 第八十五号〕

同部有志の發起にて、去る十五日当市古渡町伝昌寺にて大導師永平寺貫主森田悟由師を初め曹洞宗僧侶数十名出席にて震災死亡者追吊法会を執行せられしが、いと厳肅なる法要にてありし由。因に記す同部にては、今般の震災に付き、貧民救助の爲大谷派尾張国第一組長の依嘱により実地救助の事に尽力せられたる由、感心の至りと云ふべし。

**小学生の追悼会**〔明治24年12月21日 第八十五号〕

名古屋市尋常小学小林学校第四年生則竹武一郎氏は震災圧死に付、其追悼大法会を矢場町法光寺に於て去十三日執行せられたり。式場装飾は寺院の門前に六金の旗を交叉し、小林学校生徒則竹武一郎氏震災圧死追悼大法会と書せる大標を掲げ堂に登れば正面に氏の靈位あり。米餅其他の供物あり、左右には篤志者杉本喜三郎氏家内よりの大生花二瓶尤目立ちて死者を慰むるものゝ如し、参拝者は則竹氏遺族旧聯区町の有志者発起者及小林学校職員生徒一同無慮二百五十名にて十時を報するや、旧小林学校聯合町内九ヶ寺の僧侶二十名程宗派によりて二度に読経し終はるや焼香

にて最静肅なる法要なりしと。

**真宗大谷派震災救恤実地施与一班**〔明治24年12月21日 第八十五号〕

過般、当市大谷派別院内震災救恤事務所へ京坂地方より廻送せられたる古着類数百梱を一市八郡に分配し、其市内の外十五個を去る十日より同派僧侶及有志者にて市内の仮小屋廿一ヶ所に滞在する貧民凡そ五百七十人に実地施与をされたりと、今其景況を聞くに、先初めに一々仮小屋に就て其姓名及人員を尋ね、次て丁寧に之を慰問し、僧侶其物品の出処由来を説明し、簡單なる法話を為して一日之を渡されければ一同大に悦び拝戴して之を受けたりと、右に付き斡旋の勞を取られし人は大田元遵、黒田智泉、佐々木賢停、伊藤法忍、龍山実言、佐々木祐繼、一柳智泉、桜木利三郎、長屋政秀、高田達吉、鈴木源之助、加藤常太郎、角田平馬、小塚由兵衛、坂理七、高木太七、浅井才治外数名の諸氏なる由。因に記す、同派にては尚遠からず、仮小屋外の各処に散在する貧民にも夫々施与せらるゝ計画なる由。

**名古屋市東西部に於る施米**〔明治24年12月21日 第八十五号〕

名古屋市東西両部の災民六百余名は、十六日は東部即ち午前九時より大曾根町顯正会本部にて施与せられし慈善会より大照円朗師、仏教会より鶴飼祖箴師、出張交々一席の法話を為し施与せられしが、全所には顯正会役員加藤栄宗、岡島栄吉、光聞会役員中

野進太郎氏、関貞寺住職等斡旋せられ、亦施米に出張せし一行午餐を供せられたり。亦午後二時よりは西部即ち巾下新道町四恩会本部（海福寺）にて災民三百廿五名へ施与せられしが、同処にては水野道秀氏施米の旨趣に係る法話を成し、次に大照師態々東京より特派し救恤せるの法話を成し了て順次施与せられしが、全所へは四恩会幹事高橋、山田、小泉、大島、海福寺住職等丁寧に斡旋せられ了て晚餐を供せられたり。全日は兩名共災民は仏教慈善家の懇意と法話を聴聞せしに感動の様を見受たり。殊に世の不幸なる窮民は、最も慇然なるは申迄も無きことなるが相当に生活せし人々が一朝斯く悲嘆の境に陥りしと思へば災民の顔を眺むる毎に悲哀の情に堪へざりしとて施米出張一行の物語たりき。

**笠間龍跳師の危篤**〔明治24年12月21日 第八十五号〕

同師は当大光院に住職し、本年は曹洞宗々制編纂委員長とし在京せられし以来、兎角病症に悩み居られしが目下頗る危篤に陥られ、同宗の人は勿論在俗の居士にも多く同師の戒弟あるを以て孰れも法の為師の為惜まざるものなけれども如何せん病症の事なれば、日々重体に赴かれ、今は数日の余命も六ヶ數かるべしと云。

**飯田町養念寺の追吊会**〔明治24年12月21日 第八十五号〕

同寺にては、去る十四日午後一時より同会を修せられぬ。

**大高支部会**〔明治24年12月21日 第八十五号〕

全会は定期演説として、本日午後二時より昼夜大高長寿寺にて開会せらるゝ筈にて、本社より水野氏か出席せり。

**追吊会**〔明治24年12月21日 第八十五号〕

当市松山町含笑寺にて、過る十四日午後二時より催されたる全会は地方寺院二十余ヶ寺参集、最と殊勝なる施餓鬼会を修せられ統て社員水野か法話を来し、次に野々部至遊師の説教ありたり。

**末広座大法会概況**〔明治24年12月28日 第八十六号〕

去る廿三日、全座の前面に大標札を掲げ仏旗及び死亡者追吊と染抜たる大旗を翻し、全座の前茶屋を各宗僧侶の休憩所に充て、入口には紫の幕を引き中に入れは正面に仏壇を設け震災死亡者群霊と書したる大軸物を掛け靈供花燭等最と丁重に莊嚴し舞台一面に赤毛布を敷き、左右に磬子木魚を排し、午後一時法鼓の声と共に各宗寺院住職六十余名は列を成し肅々として入場せらる。一同着席第一阿弥陀経、第二普門品を誦し回向了て退場、次に仏教会講師広間隆円師の法話及東京慈善会大照円朗師は一時間余の法話ありて因果応報の理を懇篤に教話せられ、在場四百余の参詣者も徐ろに感涙を催せり。右法話了て一同へ供物の菓子蜜柑餅等を座主より施与せられたり。因に凡吾国広しと雖も演戯場に於て斯の静肅たる大法会を修せしは之れを濫觴とも云ふへし。又吾か地方の震災に関し、或は学校には追吊の法会を営み、或は演戯場に転法

論を成す等は彼の法花経に若於林中若白衣舎の金言を今吾か地に行ひつゝありと思へは又悦はしき事ならずや。

**曹洞宗慰問使**〔明治24年12月28日 第八十六号〕

全宗管長代理として本県各被害地寺院へ慰問に巡回せらるゝ事は別項に記せしが、今回全慰問使は全倒寺院へ金一円、半倒寺院へは金半円と外に檀方総代へ何にか一品つゝ見舞として給与せらるゝ由にて、全被害地にても或る部分の寺院は頗る之に激昂し管長代理か巡回せらるゝなれば、過般より請願せし貸下金を配与ありたし。僅かに全倒半倒の寺院へ一円金や半円金は何の為ぞとて其の巡回を御断り申すと一書を同宗の支局へ提出したりと云ふ。亦昨日は被害地寺院の或る分は当市宮出町永安寺にて協議会を催したりと云ふ。

**西春通信**〔明治24年12月28日 第八十六号〕

本月廿五日西春日井郡六郷村成福寺、廿六日金城村西来寺に於て震災死亡者追吊の爲め万松寺生駒円之師を請し、法筵を開き参詣の信者一般へ種々の供物を施与し、且つ説教等執行せらる。